

徳島大学FDの歴史(Vol.2)

平成20(2008)～25(2013)年度

平成26(2014)年12月

徳島大学FD委員会

巻頭

まえがき

赤池 雅史

(徳島大学FD委員会委員長)

近年、大学を取り巻く環境は大きく変化し、特に教育の質の保証が社会から強く問われるようになりました。文部科学省は平成24年6月「大学改革実行プラン」において、大学が社会の求める人材を養成し、有為な人材を輩出するため、教育の質保証のための効果的な取組を持続的に行うことが必要であることを強調しています。大学教育を取り巻くこのような状況の中で、FD (Faculty Development) の重要性は、今後さらに増大していくと考えられます。

徳島大学の組織的・実践的全学FDは、平成13年に大学開放実践センターの森和夫先生が「教育革新FDプログラム」を提案され、これをうけ「全学FD推進プログラム第1期計画」が大学教育委員会で決定されたことに始まります。平成14年度には大学教育委員会と大学開放実践センター教員で構成する「FD研究企画ワーキンググループ」が設置され、大学開放実践センターの森和夫先生と曾田紘二先生(委員長)が中心となり、3年間単位での基本計画に基づいて各年度のFDを企画・運営・実施する現在のスタイルが確立されました。平成15年度には大学教育委員会内の「FD専門委員会」に改組され、大学開放実践センター長である広渡修一先生(平成15～17年度)、曾田紘二先生(平成18～21年度)、日置善郎先生(平成22～24年度)が委員長となり、年々発展を遂げてまいりました。平成20年度には、全学部にFD委員会を設け、連携プログラムを企画・実施する体制となり、さらに、平成25年度にはFD専門委員会が全学委員会「FD委員会」として位置付けられることになりました。

徳島大学の教育改革を進めるために、平成26年度以降は、マイクロレベルのFDに加え、教育改革方針に基づいたミドルレベルのFDの推進が必要と考えられます。第1～2期プログラム(平成14～19年度)については『徳島大学FDの歴史』を発行し、6年間にわたる取組を報告しました。さらにこの度、第3～4期(平成20～25年度)における全学FD推進プログラムと各学部(総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部)、全学共通教育センター、医療教育開発センターのFD実績を『徳島大学FDの歴史 Vol. 2』としてとりまとめました。これによって、これまでの12年間の取組を総括し、その効果を検証することで、今後のFDの課題を明らかにしたいと考えております。

最後になりましたが、本報告書の発行にあたり、全学FD委員会委員ならびに各学部FD委員会委員の先生方、編集主幹を務めていただいた宮田政徳准教授をはじめ、総合教育センター教育改革推進部門のメンバーに深く感謝いたします。

徳島大学FDの歴史 目次

巻頭

まえがき	-----	i
------	-------	---

全学FDの歴史	-----	1
---------	-------	---

学部FDの歴史

総合科学部	-----	10
-------	-------	----

医 学 部	-----	30
-------	-------	----

歯 学 部	-----	49
-------	-------	----

薬 学 部	-----	62
-------	-------	----

工 学 部	-----	71
-------	-------	----

全学共通教育センター	-----	91
------------	-------	----

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

医療教育開発センター	-----	112
------------	-------	-----

FD委員会規則	-----	128
---------	-------	-----

全学 F D 実施報告と今後の課題

徳島大学 F D 委員長 赤池 雅史

■ F D 推進プログラム第 3 期計画 (平成 2 0 年度～平成 2 2 年度) ■

1. 計画の期間

2008 (平成 20) 年度～2010 (平成 22) 年度までの 3 ヶ年を第 3 期計画の期間として設定した。

2. プログラムの基本方針と計画の目標

(1) 基本的な視点

徳島大学 F D 推進プログラム第 1 期及び第 2 期の実践と大学を巡る社会的要求の変化とが相まって、教員の教育や F D に対する意識が変化し、第 1 期計画開始の頃とは隔世の感がある。平成 1 8 年度に実施された大学評価・学位授与機構による認証評価報告書の中では、徳島大学 F D について「学生や教職員のニーズが反映されており、組織として適切な方法で実施されている」と評価されている。また、毎年行っている合宿ワークショップ研修は新聞 (2007.7.6 (金)、読売新聞 23 面) に取り上げられ、社会的注目を集め大きな反響を呼んだ。

他方、これまでの実践から課題も明らかになっており、これらの課題を克服しなければならない。また平成 2 0 年度からは学士課程における F D が義務化される。従って、F D 推進プログラム第 3 期計画では、F D 義務化に対応しつつ、これまで明らかになった課題を克服して一層の発展を目指さなければならない。

平成 1 8 年度より、すでに大学院 F D が義務化されているが、平成 2 0 年度からは大学設置基準も改正され、「第二十五条の三。大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」となり、学士課程における F D が義務化される。従って、徳島大学 F D 推進プログラム第 3 期計画は、実施組織とプログラムの二点において F D 義務化に対応するものでなければならず、この点も取り込んで第 3 期計画を策定する。

(2) 計画の目標

① F D 組織の見直し

全学 F D と部局 F D の連携を強化し、大学として組織的 F D を実施する。(全学 F D、共通教育・学部・大学院 F D)

○徳島大学 F D 実施の中核組織として、F D 専門委員会を一層充実させるために、委員会を定例化し、実質的な討議の場とする。(平成 1 9 年度より実施中) また、F D 専門委員会委員を学部 F D 委員会の委員長又はそれに代わるものとする。(平成 2 0 年度から実施)

○F D 専門委員会は、全学 F D、共通教育 F D、学部 F D、大学院 F D について情報及び意見交換し、連携プログラムを企画・実施する。

② F D 推進プログラムの見直し

○参加者にとって有益な F D を実施し、参加者の増加をめざす

○「F D ファシリテーター養成研修」を行い、F D 人材を学内で育成する。

- 全学FDの一環として「共通教育」に特化したFDを行う。
- 学部FDを学部FD委員会の責任のもとに実施する。学部は次年度FD計画を策定公し、FD ホームページに実施報告を掲載する。
- 研究科・各教育部は大学院FDを責任をもって実施し、次年度FD計画を策定公表し、FD ホームページに実施報告を掲載する。

3. プログラム内容

この第3期間に実施された全学のFD推進プログラムは、次の通りである。

(1) FDファシリテーター養成研修

この研修は3年間1泊2日の日程で「国立淡路青少年交流の家」において実施された。参加者は5学部FD委員会委員と共通教育センターのFD専門部会委員（各部局2名以上）で、各部局のFD担当者となるFDファシリテーター養成を目的とし、各部局でFDを実施するためのFDプログラムを作成した。これは第2期までのFDリーダーワークショップをバージョンアップさせたものである。

(2) 全学共通教育担当教員初任者研修（平成20年度実施）

実質的なFDの取り組みを進めるため、徳島大学の共通教育における教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修「全学共通教育担当教員初任者研修」を実施した。この研修では、シラバスや、授業計画を作成し、学生の学びを促す支援の在り方について工夫した模擬授業をした。内容は、基盤英語、心理学概論、少人数英語スピーキング等の模擬授業が行われた。少人数でゆったりと相互交流ができた。

(3) 教育力開発基礎プログラム（平成21年度及び22年度実施）

この研修では、授業設計と教育技術について参加者同士が交流しながら体験的に学ぶことを重視した。今回は「参加型授業」について考えるワークショップ等を実施した後、シラバス作成と模擬授業を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解を深め、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施した。

(4) 授業コンサルテーション・授業研究会

主に上記、全学共通教育担当教員初任者研修や教育力開発基礎プログラムに参加した教員を対象にした企画だが、希望者（対象：徳島大学教員）も受けることができる。個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なFDをめざして実施した。

(5) FDとくどくセミナー（平成20年度及び21年度実施）

FDとくどくセミナーでは、授業改善のための具体的なスキルアップを目指してレクチャーやワークショップを中心に行った。

(6) FD・SDラウンドテーブル（平成20年度及び21年度実施）

大学内外の講師からFD関連の話題提供を受けて実施した。主な内容は徳島大学教員が直面している課題やFDに関する諸問題に関するもので、それらのトピックをもとに参加者が気軽に話し合い、日常的なFD活動を目指したものである。

(7) FD・SDセミナー（平成22年度実施）

昨年度まで、FDとくどくセミナー、および、FD・SDラウンドテーブルと呼ばれていた2つのプログラムを、今年度は1つにまとめてFD・SDセミナーと改称して実施した。

(8) 徳島大学教育カンファレンス（平成20年度）

今年も各学部からの発表があり、発表数は、口頭発表19件、ポスター発表8件の計27件。また、特別講演として、京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一先生による講演が「どの活動次元でもHigh Performerな学生が高い学習効果を示す」と題し

て行われ、多様なプログラムが展開された。参加者は、学外からの参加者 12 名を含む、約 110 名。

(9) 大学教育カンファレンス in 徳島 (平成 21 年度及び 22 年度実施)

教育カンファレンスは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD) の開催行事としても実施することになり、名称を「大学教育カンファレンス in 徳島」と改称した。平成 21 年度は、各学部からの発表があり、発表数は口頭発表 18 件、ポスター発表 9 件、ワークショップ 1 件の計 28 件。その内 2 件 (ポスター発表 1 件、口頭発表 1 件) は、阿南工業高等専門学校、および徳島文理大学からの発表でした。また、特別講演として、弘前大学 21 世紀教育センターの土持・ゲーリー・法一教授による講演が「ラーニング・ポートフォリオ～学生の学習改善と教員の FD 活動のために～」と題して行われた。参加者は、学外からの参加者 18 名を含む、約 100 名。平成 22 年度は、各学部からの発表があり、口頭発表 18 件、ポスター発表 13 件。また、特別講演として、立命館大学教育開発推進機構の沖裕貴教授による講演が「FD の効果検証について」と題して行われた。そして、今回新しくラウンドテーブル形式による発表が 4 人の話題提供者 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科の幾田伸司准教授、阿南工業高等専門学校の坪井泰士校長補佐、徳島工業短期大学の山本哲彦学長、徳島大学の教育担当副学長 和田眞理事) によって「徳島県下の大学教育連携に期待するもの及び今後の連携の方向性」という統一テーマで行われた。参加者は、学外からの参加者 13 名を含む、約 120 名。

(10) ⑩. 『大学教育研究ジャーナル』発行

3 ヶ年で『大学教育研究ジャーナル』6 号、7 号、8 号を継続発行。全学 FD 実施報告書を兼ねる点も従来と同様とする。

4. 全学 FD 推進プログラム第 3 期計画の実績まとめ

(1) 各プログラムへの参加者数 (人)

プログラム名	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
FD ファシリテーター養成研修	16	24	19
全学共通教育担当教員初任者研修及び教育力開発基礎プログラム	4	18	31
授業コンサルテーション・授業研究会	21	21	31
FD・SD セミナー	—	—	73
FD・SD ラウンドテーブル	40	47	—
FD とくとかくセミナー	43	52	—
大学教育カンファレンス in 徳島	110	100	120
合計	242	261	261

※運営メンバー・事務局・特別講師等を除く

(2) 大学教育研究ジャーナルの採択数 (編)

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
研究論文	3	5	4
資料	1	1	1
報告	14	19	13
合計	18	25	18

(3) 大学教育カンファレンス in 徳島発表数 (件)

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
口頭発表	19	18	18
ポスター発表	8	9	13
ラウンドテーブル	—	—	1
ワークショップ	—	1	—
合 計	27	28	32

5. 第3期計画以後のFD推進プログラムの課題

(1) FD情報の共有と発信

そのための IT インフラを整備する。現在稼働中のFDホームページ「FDがつなぐ徳島大学教育ネットワーク」を拡充し、全学FDのみならず、学部FD及び大学院FDの計画と実施報告を掲載し、徳島大学FDについての情報をホームページ上で共有できるようにすると共に学外に発信する。

(2) FDの効果検証方法の開発

全学FDも第1期、第2期計画を実施し、効果検証すべき時期に来ている。そこで第3期計画の一環としてFDの効果検証方法の開発に取り組む。

(3) FD・SD (Staff & Student Development) の協働

学生をいろいろなFD活動に組み込み、また事務職員との協働を進める。

(4) FD参加認証制度の検討

組織的FDの実施義務は大学に課せられているが、同時に参加者への認証と参加インセンティブの検討が必要である。

■ FD推進プログラム第4期計画 (平成23年度～平成25年度) ■

1. 計画の期間

2011 (平成 23) 年度から 2013 (平成 25) 年度までの3カ年を第4期計画の期間として設定した。

2. プログラムの基本方針と目標

(1) 基本方針

平成23年度からの3カ年は、これまで3期9年間 (平成14～22年度) にわたり研究・試行を通じて整備・構築されてきた全学FD活動を長期的に継続可能な安定軌道に乗せるとともに、その実効性を高め効果・検証も進めていく為の期間と位置付ける。

(2) 第4期計画の目標

第4期計画の基本方針に基づいて、目標を次のように定める。

- ①大学教育委員会、特にFD専門委員会での協議の下、全学FDと学部等FDの連携を強化し、学生の入学から卒業・修了までの全学習課程を視野におさめながら全学FDを実施する。
- ②Organizational Development の考え方 (Faculty Dev.+Student Dev.+Staff Dev.) に

立ち、FD活動を、教員のみのもと考えずに職員やTA、学生も巻きこんだ徳島大学全体のものとして取り組む。

- ③各学部・学科内、および学部・学科間のFDコミュニティの形成。また、大学を超えた徳島県内の大学間FDコミュニティの形成を図る。
- ④参加者にとって有益なFDを実施するとともに、参加しやすい状況を設け、参加者の増加を目指す。
- ⑤FDホームページを充実させ、徳島大学のFD情報を一元的に集積・配信することによって情報の共有化を図る。

3. プログラム内容

(1) 第4期計画の基本方針に基づいて、実施したプログラム

①FDファシリテーター養成研修

部局等でFDを実施するためのFDファシリテーターを養成する。1泊2日の合宿によって実施し、FD人材を学内で養成するとともに、FDファシリテーター・コミュニティを育成する。

②教育力開発基礎プログラム

教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修を行う。

③授業コンサルテーション

基礎プログラム受講者を対象に個々の教員の実情に沿った具体的で日常的なFDをめざして実施する。

④FD・SDセミナー

教育技術だけでなく、教材開発、新科目創設なども話題とする。また、予算、財務、教員倫理など、大学を構成している要素すべてを含めた内容とする。

⑤大学教育カンファレンス in 徳島

本学や四国の高等教育機関で行なわれている教育改善の取り組みを教育カンファレンスで発表する。

⑥『大学教育研究ジャーナル』発行

『大学教育研究ジャーナル』の継続発行。FD実施報告書を兼ねる点も従来と同様とする。

(2) SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) と協力して実施したプログラム

①ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

2011年度よりSPOD東四国地区(徳島県、香川県)の教員を対象としたティーチング・ポートフォリオ作成のためのワークショップを開催する。

②SPODフォーラム2012

SPODにおいて毎年開催している「SPODフォーラム2012」を徳島大学常三島キャンパスにおいて、2012年8月22日～24日の3日間開催した。統一テーマとして「学生に深い学びをもたらすために」を設定し、FD・SD合わせて44のプログラムを実施した。日本全国から約500名の高等教育機関の教職員、学生が参加した。

4. FD 推進プログラム第 4 期計画の実績まとめ

(1) 各プログラムへの参加者数

(人)

プログラム名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
FD ファシリテーター養成研修	20	17	14
教育力開発基礎プログラム	21	11	18
授業コンサルテーション	33	33	29
FD・SD セミナー	98	128	71
大学教育カンファレンス in 徳島	173	152	135
ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	8	6	4
合 計	353	347	271

※運営メンバー・事務局・特別講師等を除く

(2) 大学教育研究ジャーナルの採択数 (編)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
研究論文	2	2	4
資 料	2	1	4
報 告	14	15	9
合 計	18	18	17

(3) 大学教育カンファレンス in 徳島発表数 (件)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
口頭発表	24	20	17
ポスター発表	18	15	15
ラウンドテーブル	2	2	1
ワークショップ	1	1	1

(4) SPOD フォーラム 2012 の参加者数 (人)

	教員	職員	その他	合計
SPOD 加盟校	129	191	53	373
SPOD 加盟校外	39	80	4	123
合 計	168	271	57	496

5. 第 4 期計画・実績から見た課題

FD 推進プログラムが開始されてから 10 年が経過し、ミクロレベルの FD では新任教員を対象としたプログラムが体系的に実施されるようになり、全国的に見ても充実している。しかし、ミドルレベル、マクロレベルの FD については、十分に成果を上げているとは言い難い。今後は、ミドルレベルのプログラムとして実施している、FD ファシリテーター養成研修については内容を見直し、学部におけるカリキュラム等の改善に関わる、よ

り実質的なFDとして発展させることが求められる。また、徳島大学のFDの定義に謳われている「学生の参画」や「妥当性・有効性を不断に検証すること」などが十分に取組みしていない。これまでの成果と課題を明確にし、他部局と連携して、全学FDの展開を進めることができる体制づくりや内容の改善が求められる。

■全学FD推進プログラムの課題■

これまで本学で第1期から第4期にかけて実施してきた全学FD推進プログラムはその初期の目的を達成し、次の段階に進む時期となった。次の表はそれらのプログラムを一覧表にしたものである。

活 動	第1期 (H14～H16)	第2期 (H17～H19)	第3期 (H20～H22)	第4期 (H23～H25)
新任教員 研修	・FD基礎プログラム ・FD応用プログラム	・FD基礎プログラム ・個別コンサルテーション	・全学共通教育担当教員初任者研修 ・教育力開発基礎プログラム ・授業コンサルテーション・授業研究会	・教育力開発基礎プログラム ・授業コンサルテーション
中堅者研修	・授業エキスパート・ワークショップ ・FD推進ハンドブック(第1号・第2号)	・リーダー・ワークショップ ・FD推進ハンドブック(第3号)	・FDファシリテーター養成研修	・FDファシリテーター養成研修
WS、セミナー等		・FDラウンドテーブル	・FDとくどくセミナー ・FD・SDラウンドテーブル	・FD・SDセミナー
実践共有	・FDシンポジウム	・徳島大学教育カンファレンス ・『大学教育研究ジャーナル』発行	・徳島大学教育カンファレンス ・大学教育カンファレンス in 徳島 ・『大学教育研究ジャーナル』発行	・大学教育カンファレンス in 徳島 ・『大学教育研究ジャーナル』発行
その他のFD 関連事項	・FD専門委員会(H15.4)	・FDインテリジェント・ラボ設置(H18.4)	・学士課程における組織的FDの義務化(H20.4) ・SPOD活動開始(H20.10) ・FDデータベース構築(H22.3)	・FD委員会(H25.4) ・教育改革推進センター(H25.4)

これまで、徳島大学では、第1期(2002～04)より第4期(2011～13)までの全学FD推進プログラム(呼称変更により第3期からは、FD推進プログラム)を通じて、その教育理念を時代や社会の要請に即して具体的な教育目標に反映させ、実現していく実践的な授業改善活動を行うことを目標としてきた。全学FDは、FDに欠かすことのできない体系的・組織性を持ち、学部FDの取り組みと相まって、相乗効果を上げることを意図するものであり、それぞれのプログラムは日常の教育の質的向上を推進することによって教官の教育力のボトムアップを図り、将来的にはFDの中核的なメンバーとして育つことを期待して実施されてきた。また、2007年の大学院に続いて、2008年の学部における組織的なFDの義務化が追い風となり様々なプログラムが継続実施されている。

初任者研修に相当する全学FD推進プログラムは、第1期から継続して実施している。2日間の全体研修と、後日その研修参加者の授業を参観し、ビデオ撮影を行っており、その後開催する授業研究会では、20分程度に編集した録画ビデオを視聴し、参加者全員で授業改善への手がかりを探り、その方法を共有できる時間となっている。このように、個々の教員が行う授業改善を中心としたミクロなレベルでのFDは、新任教員を対象としたプログラムが体系的に実施できていることから、充実した取組みとなっていると判断できる。しかし、学科やコースのカリキュラムの改善や、教育活動を研究活動と同等に捉え評価する学部や大学全体の学風を創り出すようなミドルレベル、マクロレベルでのFD活動については、これまであまりなされておらず、今後の課題として捉え、取り組む必要がある。

徳島大学は、20年10月から本格的な活動をはじめたSPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)のコア校としての活動も加わり、本学のFD活動がSD活動をも含めた新たな段階に入った。そして、四国内の高等教育機関が連携し、その教職員の能力開発を組織的に進める基盤が整ったといえる。また、期を同じくして、第3期から学生を本学の教育改革に巻き込むSD(Student Development)活動も始まった。現在は、学生が学生をサポートする様々なグループが本学に存在している。学生、職員、教員のそれぞれが能力開発に対する自助努力を惜しまず、かつ相互に連携できるようにすることが重要であり、今後の課題といえる。

教員が教育改善に取り組もうとするとき、その活動を効果的に支援できる体制が学内に組織できていることが望まれる。これまで実施してきた様々なFDプログラムを、ただやりっぱなししておくのではなく、本学のFD活動への貢献や参加の状況をデータベース化できるように、平成22年3月にFDプログラム・参加者管理システムを立ち上げている。このシステムを効果的に利用して、個人や学科・学部単位のFD活動の貢献度や参加状況の数値化を行い、FD活動の効果を判断するための基礎的データとして効率的に活用することも今後の課題とする必要がある。

部局を超えた全学的、組織的な全学FDプログラムの実施主体については、平成14年に徳島大学・大学教育委員会と大学開放実践センター教員で構成する「FD研究企画ワーキンググループ」が設置された。このワーキンググループでは、教員がそれぞれの授業改善のためのFD活動に関わることは、各教員が行うべき生涯学習の一環であると位置づけ、大学開放実践センター教員が中心となって全学FDの企画・運営・実施にあたることとなった。

平成15年度からは、このワーキンググループは大学教育委員会内の「FD専門委員会」

に改組され、実践センター長が委員長を務めることとなり、全学 FD の企画・運営・実施の実務を実践センター教員が担当することになった。10 年後の平成 25 年 4 月には、FD 専門委員会が大学教育委員会と同等に格上げされて位置づけられる「FD 委員会」に改組された。また、教育担当理事をセンター長とする「教育改革推進センター」が、全学的な教育改革に係る企画及び運営に関すること、FD 及び SD の企画、運営および評価に関すること、教育改革への学生の関与に関する企画及び運営に関することなどを主な業務として設立された。このことは、教育改革への取り組みに対する学内での優先順位が上がったことを意味しているが、全学体制で教育改革に取り組むために基盤となる組織が整ったことが、本学での FD 活動の終着点ではなく、個々の教員にとっても FD に取り組むことの優先順位が上がり、受動的な FD から能動的な FD 活動への転換が大学教育のすべての側面で大きな成果を上げ、学生にとって意義ある学びとして具象化することに繋がるのが最も重要な今後の課題として捉えられなければならない。

総合科学部 F D 実施報告と今後の課題

総合科学部 FD 委員会委員長 大橋 守

全学 FD 推進プログラム第 1 期から第 2 期（平成 14 年～平成 19 年）の総合科学部 FD 報告では、FD 報告書の作成時期が最終年度の年度途中であったことから記載できなかった。今回の第 3 期から第 4 期（平成 20 年～平成 25 年）の FD 実施報告では、最初に第 1 期から第 2 期の概略について簡単に報告し、平成 19 年度分について少し詳しく述べる。その後、平成 20 年（2008 年）から年度毎に総合科学部の Web ページに掲載されている FD 報告書の内容を紹介して総合科学部の FD 実施報告としたい。

1 自己点検・評価委員会の F D 報告

総合科学部の FD 報告書は自己点検・評価委員会が平成 19 年まで作成していた。自己点検・評価委員会が中心となって、「教育内容、教育方法の改善に向けて」組織的に取り組み、その報告を受けて教務委員会がカリキュラムなど教育内容や方法の改善に取り組んでいた。また、総合科学部改組に伴う学部・大学院教育の新たな取り組みのための基礎調査も行っていった。しかし、徳島大学 FD 推進プログラム第 3 期計画で FD 組織の見直しが行われ、総合科学部 FD 委員会が設置された。全学 FD と部局 FD の連携を強化し、全学 FD、共通教育・学部・大学院 FD を一元的に、大学として組織的に FD を実施することになった。

1. FD 推進プログラム第 1 期

全学 FD 推進プログラム第 1 期の期間中に、自己点検・評価委員会が行った主な FD 活動は以下の通りである。

(a) 各授業内容を改善するために「学生による授業評価アンケート」、「大学院生による授業評価アンケート」と授業担当教員による「授業実施報告書」をもとに FD 研究会を開催し、討議した。

- ・学部専門科目を対象に、「学生による授業評価アンケート」の自由記述欄に焦点を絞った分析をもとに授業改善の FD 研究会

- ・「学生による授業評価アンケート」で学生の予習・復習を含む自学の時間が「週当たり 1 時間未満」と回答した割合が 8 割近くであった。この状況を改善するためにアンケートの自由記述欄に「楽しく自学に取り組めた」、「予習をして講義にのぞむ習慣がついた」など好意的な反応を引き出した授業科目と自学の時間が比較的長かった授業科目担当教員の実施報告をもとに自学のすすめの FD 研究会

- ・大学院教育を対象に、研究科の教育理念「文理融合・総合的視野の涵養」に焦点を絞った大学院改革の FD 研究会

(b) 平成 13 年度から実施した新カリキュラムに対して平成 17 年度のカリキュラム改正に向けて FD 研究会を開催し、討議した。

- ・学部・学科共通科目を対象に、大規模授業のオムニバス形式と小規模授業のゼミ形

- 式の授業科目に焦点を絞って、授業担当教員による実施体制・課題の FD 研究会
- ・卒業研究を対象に、「卒業研究を中心とした学生指導」のあり方に焦点を絞って、学生による授業評価等の資料をもとに学部教育の意義・意味を終了段階から見直す FD 研究会
- ・平成 16 年から再スタートした大学院研究科共通科目を対象に、「研究科共通科目の現状と展望」の FD 研究会

2. FD 推進プログラム第 2 期

全学 FD 推進プログラム第 2 期の期間中に、自己点検・評価委員会が行った主なものは以下の通りである。

- (a) 各授業内容を改善するための「学生による授業評価アンケート」、「大学院生による授業評価アンケート」と授業担当教員による「授業実施報告書」を一部見直した。
 - ・「学生による授業評価アンケート」の FD 研究会の検討結果を受けて、委員会でアンケート項目の見直し
 - ・授業担当教員による「授業実施報告書」の提出をメールから Web 入力に変更
- (b) カリキュラムに対する FD 研究会を開催し、討議した。
 - ・総合科学部の改組計画において教育の特色である共通科目を対象に、「学部共通科目の趣旨と実施体制」、「実用英語教育を巡って」の FD 研究会
 - ・「総合的・文理融合的な理想を掲げてスタートした」大学院の改組計画において「大学院共通科目の現状と課題」の FD 研究会
- (c) 総合科学部の改組が検討され、基礎調査を実施して分析を行った。
 - ・研究科の現状と課題を明らかにし、大学院改革に取り組むために全院生に対して「教育体制に関する大学院生アンケート」
 - ・「地域産業界へのアンケート」
 - ・「卒業生・修了生に対するアンケート」

この第 1・2 期間中の自己点検・評価委員会は、「教育内容、教育方法の改善に向けて」の FD 活動から総合科学部の改組計画に関係した FD 活動に重点が移った。

3. 第 2 期最終年度実施報告

平成 19 年 (2007 年) FD 報告書には、(a) 「学生による授業評価アンケート」、「教育体制に関する大学院生アンケート」及び「授業実施報告書」、(b) 「総合科学部独自の FD 活動の取り組み」として (i) 高大連携事業 「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」実施報告、(ii) 地域システムコース FD、(iii) 情報教育 FD、(c) 「総合科学部改組に伴う学部・大学院教育の新たな取り組みについて」が掲載されている。

(1) 学生による授業評価アンケートについて

平成 19 年度の前・後期末に、例年同様に「学生による授業評価アンケート」を実施した。対象授業科目は 5 名以上の登録学生がいる授業科目で、教育実習や卒業研究などの実習科目は除外した。調査方法は、教員が授業中にアンケート用紙と回答カードを配布し、学生が無記名で記入する方法で、回収には学生があたるなど担当教員の忖度が働かないよう配慮した。アンケートの結果は 2 ヶ月後には集計され、科目ごとの集計結果を各教員に通知

した。

通知内容は、各調査項目について当該科目のスコアを示すもので、比較可能なようにコース・学科・学部・学部の平均値も添えた。これにより、各教員は自身が担当する授業に関する相対評価を確認することができる。また、回答の分布状況を確認するためにヒストグラムも示した。さらに、自由記述がある場合はその一覧を添付し、各教員が授業改善の資料として活用することを求めた。

各学期の集計結果をもとに、自己点検・評価委員会は学部・学科の全体的傾向の分析と、学部として講すべき課題の確認を行った。その概要を FD 報告書に記載し、調査結果を個人に還元するだけでなく組織的教育のあり方を改善する資料として活用した。

(2) 教育体制に関する大学院生アンケートについて

平成 19 年度も大学院の教育体制に関して、全院生に対してアンケート調査を行った。院生から教育体制に対する率直な意見を聞き、研究科の教育を改善することを目的として行っている。アンケートは、A4 用紙 3 ページにわたり、郵送で配付・回収が行われた。

(3) 授業実施報告書について

学部全教員に対して授業方法改善に関わる取り組み状況について回答を求めた。84 件の回答があり、全教員の 2/3 ほどの回答率で、総合科学部での全体的な取り組み状況を概括しうる資料が収集できた。

(4) 高大連携事業 「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」実施報告

10 月 2 日 (火)、3 日 (水) (城東高校は秋休み) の 9:00~13:00 に、徳島大学総合科学部 3 号館 1 階生物実験室で、「生物から学ぶ生命の不思議と進化」というタイトルで「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP)」を開催した。SPP は、2004 年度に文部科学省の「次代を担う人材への理数教育の拡充」施策の一環として始められた。この事業は学校と大学・科学館等の連携により、児童生徒の科学技術、理科・数学(算数)に関する興味・関心と知的探究心等を育成することを目的としている。2006 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が事業を引き継いで実施している。



【カエルから採卵】



【染色体の観察】

徳島大学総合科学部は、徳島県立城東高等学校と連携し、2007 年度に SPP の「講座型学習活動」(講 A 大 4005) を行った。今回行った事業の内容と、このような事業を行う上で問題点について、高校生・引率の先生、TA からのアンケートの結果、今後の高校と大学の連携の可能性についての発表が行われた。

(5) 地域システムコース FD

1月24日(木)の14:30~16:30に、徳島大学総合科学部1号館ゼミ9部屋で開催された。地域システムコースは、これまで教育内容の改善を主目的としたFD活動を継続的に展開してきた。平成15年度および平成17年度には、①学生アンケート、②コース教員と学生との懇談会を実施し、学生からの率直な意見に耳を傾けて、コースの教育体制を点検してきた。これらのアンケートや懇談会では、コースの授業内容や学習する環境等、主に教育面での問題発見に重きが置かれてきた。しかし最近では、軽重の差こそあれ、心身症や「うつ病」に起因して大学へ登校できなくなる学生が増える傾向にあるため、学生が抱える悩みや負担等の心理的な問題を把握する必要があると考えた。そこで、本年度は新たな試みとして、学生相談室教員・臨床心理士の的場みぎわ助教を懇談会に招き、①コース学生との懇談会、②コース教員との懇談会を実施した。

(6) 情報教育FD---創生研究型情報教育プログラムの開発と実施に関する研究

FDミーティングを9回開催し、メンバー相互の情報交換を行ったほか、学外からゲストを招いて情報教育や高大接続のあり方に関して討議を行った。また、マーケティング実務の専門家による学生向け講演を実施し、学習の動機づけを図った。各回とも総合科学部の全教員に広く参加を呼びかけるとともに、FDミーティングの内容をそのつど公開した。

- ・日時 4月16日(月) 12:05~12:45、場所 第2会議室
テーマ：今年度の活動方針と計画(ビジネス・ミーティング)
- ・日時 4月26日(木) 12:05~12:45、場所 第3会議室
テーマ：新学部構想における共通科目と情報教育の位置づけ
- ・日時 5月11日(金) 12:05~12:45、場所 第2会議室
テーマ：新カリキュラムにおける情報関係科目のシラバス作成に向けて(1)
- ・日時 5月17日(木) 12:05~12:45、場所 第3会議室
テーマ：新カリキュラムにおける情報関係科目のシラバス作成に向けて(2)
- ・日時 6月12日(火) 10:25~11:55、場所 高度情報化基盤センター
テーマ：ビジネスに役立つ統計学-マーケティングの現場から-
- ・日時 6月21日(木) 12:05~12:45、場所 第2会議室
テーマ：今どきの高校生が求めるよい授業とは
- ・日時 7月13日(金) 12:05~12:45、場所 第2会議室
テーマ：授業「社会統計基礎論・行動統計学」の試験と評価に向けて
- ・日時 11月21日(水) 12:05~12:45、場所 第2会議室
テーマ：情報処理法、パソコン入門の授業から
- ・日時 2月28日(木) 16:00~17:30、場所 第3会議室
テーマ：ホンネで語るFD

(7) 総合科学部改組に伴う学部・大学院教育の新たな取り組みについて

12月20日に総合科学部第1会議室で「総合科学部改組に伴う学部・大学院教育の新たな取り組みについて」というテーマで、FD研究会を開催した。前年度までの各種アンケートの分析・研究、カリキュラム研究及び改組計画のための各種アンケートの分析・研究結果を踏まえた改組計画について発表・検討が行われた。主な項目は

- ・現代社会における大学の果たす役割

- ・徳島大学人間・自然環境研究科及び総合科学部の改組の理由及び改組案骨子
- ・新設の地域環境学専攻および新学科総合政策学科の内容と目指すもの
- ・改組でどう変わる？
- ・博士後期課程設置の準備状況
- ・博士後期課程地域環境学専攻の人材養成と就職先

であった。この内容は平成 20 年 1 月 23 日に開催された徳島大学教育カンファレンス（全学 FD）でも発表された。

2 FD実施報告2008

平成 20 年度から大学設置基準が改正され、FD が義務化された。徳島大学 FD 推進プログラム第 3 期計画で、すべての学部で FD 委員会を設置することになった。FD 報告書の作成も自己点検・評価委員会から FD 委員会に移り、FD 報告書は総合科学部の Web ページに掲載されている。FD 委員会は学部・大学院 FD について次年度計画を作成し、それに従って FD 活動を行うことになった。

総合科学部では平成 21 年 4 月から 2 学科を 3 学科（人間文化学科、社会創生学科及び総合数理数学科）に改組し、大学院総合科学教育部（博士前期課程および博士後期課程）が発足することになった。従来から行っている FD 活動に加えて、改組後の学部共通科目に焦点を置いた FD フォーラムを計画した。

1. 実施状況

- (1) H.20. 7.11～平成 20 年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (2) H.20. 8. 1 高大連携の取り組み（高校 4 名、大学 7 名）
- (3) H.20.10. 9 学部共通 FD フォーラム 学部共通科目「科学と人間」と「大学と社会」（参加者 30 名）
- (4) H.20.11.1～平成 20 年度「教育体制に関する大学院生アンケート」
- (5) H.20.11.21 FD 講演会「一般教員にとって FD とは何か？～FD センターとのかかわりなど～」(講師：神藤貴昭 立命館大学経済学部准教授) (参加者 9 名)
- (6) H.21. 1.21～平成 20 年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (7) H.21. 2. 6 学部共通 FD フォーラム 学部共通科目「基礎ゼミナールⅠ」と「基礎ゼミナールⅡ」（参加者 37 名）

2. 実施内容

(1)、(4)、(6) 平成 20 年度の「学生による授業評価アンケート」と大学院の「教育体制に関する大学院アンケート」については、前年までと同様にその分析結果と課題が記載されている。

(2) 8 月 1 日(金)に総合科学部第 3 会議室で、徳島県立城東高等学校から 4 名と総合科学部から 7 名の教員が参加して「高大連携教育懇談会」を開催した。総合科学部では平成 21 年度に改組を計画しており、カリキュラム編成や授業開発について具体化を図りつつある。学生を取りまく環境に対応し教育を実効あるものにするには、高校との連携が欠かせない。そこで、両校の教員有志が集まって情報交換を行い、1. 対人関係・生活態度、2. 国語力、

3. 数学力、4. 情報リテラシー、5. 思考力、6. 知的好奇心・探求心、7. 学習のインセンティブ、8. カリキュラムについて問題意識を共有し和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われた。



【高大連携教育懇談会】



【FD 講演会】

(3) 10月9日(木)に、総合科学部1号館第1会議室で「学部共通の現状と未来」というテーマでFDを実施した。学部共通科目「科学と人間」と「大学と社会」の担当者から授業の実施状況と課題などを報告し、その後、討論・意見交換を行った。

(5) 11月21日(金)に1号館3階の308号教室で、立命館大学経済学部准教授の神藤貴昭氏による「一般教員にとってFDとは何か～FDセンターとのかかわりなど～」という題目でFD講演会を開催した。参加者は少なかったが、大変有益な講演会であった。特に「相互研修としてのFD」の意義は参考になった。

(7) 2月6日(金)に1号館3階308号教室で、平成21年度から新学部で開講予定の「基礎ゼミナールI」と「基礎ゼミナールII」のFDを実施した。新学部の学部共通科目に追加される「基礎ゼミナールI」と「基礎ゼミナールII」に関して、開講形態や達成目標とその評価方法について科目の担当教員を交えて討議を行った。

3 FD実施報告2009

学部・大学院ともに改組して1年目ということさまざまな課題があり、特に新カリキュラムについての検証に焦点を絞って3回のFD集会を計画した。この詳細な内容はFD委員会から平成21年1月31日に「2009 総合科学部FD報告書」として76ページの冊子を発刊した。

1. 実施状況

(1) H.21. 7.13～平成21年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」

(2) H.21. 7.30 FD集会1「総合科学部学部共通教育プログラムの開発に向けて」(参加者45名)

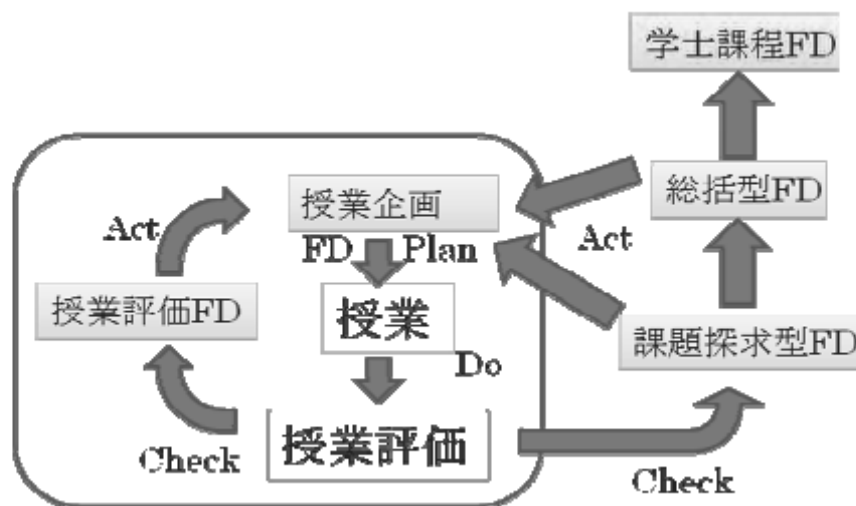
(3) H.21. 9.30 FD集会2「学生と共に考える総合科学」

(4) H.21.12.24 FD集会3「総合科学部がめざす地域科学」

(5) H.22. 1.20～平成21年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」

2. 実施内容

(1)、(5) 平成 21 年度の「学生による授業評価アンケート」については、前年までと同様にその分析結果と課題が記載されている。さらに、テキストマイニングによる自由回答の記述分析の試みなどいろいろな分析が行われた。以下の図は「学生による授業評価アンケートの結果と活用について」のなかで示されている授業改善のための PDCA サイクルである。



FD 報告書の「授業評価アンケートの結果と活用について」の 56 ページより

(2) 第 1 回総合科学 FD 集会は年 7 月 30 日 (木) 15:30~17:00 に、「総合科学部学部共通教育プログラムの開発に向けて」というテーマで開催した。主な内容は

- ・学生による授業評価アンケートの活用
- ・基礎ゼミ I 5 件発表
- ・プロジェクト研究 I 5 件発表
- ・総合討論

で、授業担当者から授業内容の報告と今後の課題等が提起された後、全員で討議を行った。

(3) 第 2 回総合科学 FD 集会は「学生と共に考える総合科学」というテーマで 9 月 30 日 (水) 16:30~18:30 に行われた。この FD 集会の特徴は学生が司会者となって教員と学生が一緒になって「総合科学」を考えた点にある。

(4) 第 3 回総合科学 FD 集会は、前回に引き続いて学生参加型総合科学部 FD 集会ということで「総合科学部がめざす地域科学」をテーマにして、12 月 24 日 (木) 9:30~12:00 に開催した。前回同様に学生が司会を担当し、また地域の方々も参加した FD 集会を行った。さらに、この FD 集会の特徴はインターネットのビデオ会議システムを使って教員と学生が阿南市伊島小学校の児童さんたちとともに一緒にいろいろなことを学んだことであった。

今年度の 3 回の FD 集会を通じて、「総合科学」「地域科学」とは何か、さまざまな参加者の中からこの疑問が常に投げかけられた。教員から見た「総合科学」「地域科学」と学生及び地域の方々から見た「総合科学」「地域科学」の認識にはまだかなりのズレがあるよう

に思われた。また教員の中でもそれぞれに捉え方が異なっている。それだけに「総合科学」「地域科学」というものは途方もなく大きくて広いものである。この FD 集会の内容は「2009 総合科学部 FD 報告書」に詳細に記録されている。

4 FD実施報告2010

前年度に引き続き新カリキュラムについての検証に焦点を当てた FD を計画した。学生の視点から見た「総合科学」・「地域科学」について 2 回の FD フォーラムと大学院の「プロジェクト研究 I・II」の FD 集会を行った。

1. 実施状況

- (1) H22.7.9 FD プログラム「文系数学の基礎」(徳島県教育委員会との共催で FD 公開授業として実施)
- (2) H22.7.25～平成 22 年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (3) H22.8.6 教育シンポジウム「英語による専門教育のあり方」(工学部と共催)
- (4) H22.8.7 FD フォーラム「学生と共に考える FD」(参加者 教員 15 名、学生 42 名)
- (5) H23.1.23～平成22年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (6) H23.1.27 FDフォーラム「民族と民俗学から考える地域科学」(参加者20名)
- (7) H23.1.31 FD集会 教育部授業科目「プロジェクト研究 I・II」検討会
- (8) H23.2.8 FDワークショップ「総合系学部における統計教育の課題」(参加者20名)

2. 実施内容

- (1) 徳島県教育委員会と共催で、新カリキュラムで新しく開講した授業科目「文系数学の基礎」について FD プログラムを 7 月 9 日(金)に開催した。高大連携の下でのカリキュラム検証を行った。
- (2)、(5) 平成 22 年度の「学生による授業評価アンケート」については、前年までと同様である。
- (3) 工学部と共催で教育シンポジウムを 8 月 6 日(金)に、「英語による専門教育のあり方」をテーマに開催した。
- (4) 第 1 回 FD フォーラムを 8 月 7 日(土)に、「学生と共に考える FD」をテーマに開催した。学生の視点から見た総合科学部、総合科学教育部、共通教育及び課外活動の自主的学習会などの課題について意見交換を行った。
- (6) 第 2 回 FD フォーラムを 1 月 27 日(木)に、「民族と民俗学から考える地域科学」をテーマに、大学院教育部の地域科学 FD フォーラムを開催した。
- (7) 前年度に続き教育部授業科目「プロジェクト研究 I・II」について FD 集会を開催した。1 月 31 日(月)に、「プロジェクト研究 I・II」の総括と今後の進め方について意見交換を行った。
- (8) 2 月 8 日(火)に FD ワークショップ「総合系学部における統計教育の課題」をテーマに開催した。

5 FD実施報告2011

新カリキュラムでの専門科目の授業が本格的に始まり学部の「総合科学」が目指す専門教育について FD を計画した。双方向の授業を充実させるためにクリッカー利用の促進とキャリア教育の充実に焦点を絞った。年度途中で「総合科学実践プロジェクト」についての FD を追加した。

1. 実施状況

- (1) H23. 7.25～平成 23 年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (2) H23. 8. 4 全学共通教育・総合科学 FD フォーラム（学生、教職員約 50 人参加）
- (3) H23. 8. 5 平成 23 年度「総合科学実践プロジェクト」最終発表会
- (4) H23. 9.27 クリッカー入門・活用セミナー（学部専門教育における双方向的学習推進プログラム）（教職員 8 人参加）
- (5) H23.12. 2 学部専門教育における体験・参加型学習を考える－「フィールドワーク」を活用した基礎ゼミナールの実践－（約 20 人参加）
- (6) H24. 1.23～平成 23 年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (7) H24. 2. 7 「情報処理の基礎」特別講義、FD 講演会
- (8) H24. 2.17 平成 23 年度キャリア教育報告会
- (9) H24. 3. 2 シンポジウム「大学生の就業力育成はいかにあるべきか」

2. 実施内容

- (1)、(6) 平成 23 年度の「学生による授業評価アンケート」については、前年までと同様である。
- (2) 全学共通教育・総合科学部 FD フォーラムを 8 月 4 日（木）に開催した。
- (3) 学部改組の年次進行で今年度から開講した「総合科学実践プロジェクト」の学生による最終発表会を 8 月 5 日（金）に行った。
- (4) 9 月 27 日（火）に教職員向けのクリッカー入門・活用セミナー（学部専門教育における双方向的学習推進プログラム）を実施した。
- (5) 「総合科学」の教育で体験・参加型学習を考える－「フィールドワーク」を活用した基礎ゼミナールの実践－の報告会を 12 月 2 日（金）に行った
- (7) 2 月 7 日（火）に「情報処理の基礎」特別講義及び FD 講演会を開催した。
- (8) 今年度からスタートしたキャリア教育の一環として、平成 23 年度キャリア教育報告会を 2 月 17 日（金）に開催した。
- (9) 3 月 2 日（金）にはシンポジウム「大学生の就業力育成はいかにあるべきか」を実施した。

6. FD実施報告2012

学生の修学意欲を高め、教員の教育の質の向上を図るため、前年に引き続き双方向的授業とキャリア教育について FD を計画した。さらに、現行カリキュラムの学部改組の年次進行に伴う新規授業などに関して必要に応じて不定期な FD も追加して実施した。

1. 実施状況

- (1) H24. 7.23～平成 24 年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (2) H24. 8. 3 平成 24 年度「総合科学実践プロジェクト」最終発表会
- (3) H24.11.15 学びの理解度がすぐ分かる、高められる！－クリッカーによる双方向的授業の進め方－（講師：小山晋之教授／斉藤隆仁准教授）（教員 12 人参加）
- (4) H24.12.19 平成 24 年度キャリア教育報告会（教職員約 20 人参加）
- (5) H25. 1.28 平成 24 年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (6) H25. 1.29 総合科学部 FD 講演「実例を題材とした統計学への興味の喚起と東海大学における自己点検評価活動の紹介」（講師：山本義郎東海大学理学部教授）
- (7) H25. 2. 7 学部専門教育における体験・参加型学習の展開－領域を横断する表現研究、アート/ アニメ/ WEB / USTREAM / 商店街－（報告者：社会創生学科河原崎貴光准教授）（教員 14 人参加）
- (8) H25. 2.18 学部専門教育における双方向的学習の実際－中大規模授業における学生の主体的参加を目指したクリッカー活用の先進的事例－（講師：金沢大学青野透教授）（教員 15 人参加）

2. 実施内容

(1)、(5) 平成 24 年度の「学生による授業評価アンケート」については、前年までと同様である。

(2) 学部改組の年次進行に伴って昨年度から開講を始めた総合科学テーマ科目の一つである学部 3 年生対象の「総合科学実践プロジェクト」の受講学生によるポスター発表形式の最終発表会を 8 月 3 日（金）に教職員公開で実施した。

(3)、(8) 各教員がそれぞれの授業の中で双方向的な授業の実現のため、あるいは予習・復習・宿題などの自己学習を促すために工夫している点などを授業実施報告書の自由記述を中心にして紹介した。その後、より具体的ですぐに実践可能な取り組みの促進に向けた教職員向けのクリッカー入門講演会を 11 月 15 日（木）、活用講演会を 2 月 18 日（月）に開催した。

(4) 平成 24 年度キャリア教育報告会を 12 月 18 日（火）に開催した。

7 FD実施報告2013

文部科学省が策定した「国立大学改革プラン」では改革加速期間を平成 25～27 年度に設定し、期間中における教育研究組織づくりが求められている。学長のリーダーシップのもとに大学全体の改革が審議されている。しかし、学部・大学院での社会の変化に対応した教育研究体制についての議論は殆ど進んでいない。FD 委員会では現行カリキュラムの検証を引き続き行い、現在の教育研究体制について現状と課題を明らかにする。

1. 実施状況

- (1) H25. 5. 9 クリッカー実演会（参加者 94 名）
- (2) H25. 7.24～平成 25 年度前期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (3) H25.8. 2 「総合科学実践プロジェクト」最終発表会

- (4) H25.11.29 「成績評価の検証」に関する FD (参加者 21 名)
- (5) H26.1.27～平成 25 年度卒業予定者アンケート
- (6) H25.1.28～平成 25 年度後期「学生による授業評価アンケート」、「授業実施報告書」
- (7) H26.1.28 FD 企画 特別講演「統計学をなぜ学ぶのか」、FD 講演会「統計教育 tips」(講師：狩野 裕 大阪大学大学院教授) (参加者 20 名)
- (8) H26.2.18 平成 25 年度キャリア教育報告会 (参加者 10 名)
- (9) H26.3.10 平成 25 年度パイロット事業支援(教育・社会貢献)報告会 (参加者 30 名)

2. 実施内容

(1) 5 月 9 日(木)の学部教授会終了後にクリッカーの実演会を実施し、操作方法や活用事例・効果などについて情報共有を行った。

(2)、(6) 平成 25 年度の「学生による授業評価アンケート」については、前年までと同様である。

(3) 総合科学テーマ科目の一つである学部 3 年対象の「総合科学実践プロジェクト」の受講学生によるポスター発表形式の最終発表会を学部 FD として教職員公開で 8 月 2 日(金)に実施した。

(4) 総合科学部の前年度授業科目の成績から学部長が分析された？成績評価の大まかな傾向をもとに、学部における成績評価基準のあり方について検討した。

(5) 平成 26 年度 3 月卒業予定者を対象に、大学で身につけるべき学力や資質・能力に対する大学時代における達成度についてのアンケートを実施した。

(7) FD 企画として、情報教育に関する特別講義、講演会を 1 月 28 日(火)に行った。

(8) 学部 FD として、ベネッセによる自己発見レポート(基礎学力・適性検査)最終報告をもとにキャリア報告会を 2 月 18 日(火)に行った。

8 総合科学実践プロジェクト

総合科学 FD 企画 「総合科学実践プロジェクト」について詳しく説明する。

1. 総合科学部テーマ科目の一つである「総合科学実践プロジェクト」の担当は以下の通りであった。

平成 23 年度 (2011)

担当者：宮崎隆義、依岡隆児、山本裕史、山城考

平成 24 年度 (2012)

担当者：宮崎隆義、依岡隆児、山本裕史、山城考

平成 25 年度 (2013)

担当者：宮崎隆義、依岡隆児、山本裕史、佐藤征弥

2. この授業のシラバスについては以下の通りである。

(目的)

専門を異にする教員が、共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し、実践的で総合的な学習姿勢を体得する。授業を通して、文系、理系相互の視点からものを考

え、企画・調査し、討論・発表によって総合科学の実践力を養う。

(概要)

総合科学に関わる諸問題を、文系、理系の視点から考え実践的に解明を行ってゆくワークショップ方式の授業である。欧米の文学や比較文化、植物や環境を専門とする4名の教員が、受講者とともに授業の内容を企画し、共通もしくは複数のテーマを設定して、文献調査やフィールドワーク（例：吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設）を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から、考察を深め、最終的にはその成果を発表する。

(目標)

1. 文系、理系双方の考え方を理解し融合させる。
2. テーマの設定、フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う。
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め、成果発表の能力を高める。

(計画)

以下の計画はおおよそその目安であり、受講者の志向や関心、文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら16回の授業を運営してゆく。

1. オリエンテーション
2. テーマの設定について討議（2回程度）
3. 授業の運営について討議・企画（2回程度）
4. 調査及びフィールドワーク（3回程度）
5. 中間発表（2回程度）
6. 討論とさらなる調査（3回程度）
7. まとめと発表（2回程度）
8. 総括

(評価)

授業への参加状況、議論の内容、発表や報告などを総合的に評価する。

3. 授業実施からFD企画への移行

平成23年度(2011)が初めての授業実施年度であり、授業の内容運営について担当者で何度か話し合いを持ち、学生が中心の授業運営として、学生が企画し調査等を行ったものについてまとめさせ、プレゼンテーションをさせるという方向で固まった。試行錯誤しながら授業を進め、中間発表と最終発表を行うという方向となり、さらに最終発表については、学生・教職員参加のFD企画として公開にするということに、受講者と担当者間で合意が得られ、FD企画の公開発表会として行うよう調整した。

4. 資料メモ：平成23年度の例（以降、ほぼ同じ）

平成23年度 「総合科学実践プロジェクト」 最終発表について

平成23年7月15日

宮崎隆義

7月15日に、各グループの代表並びに担当教員に集まっていたいて、最終発表につい

て、次のように決めた。

日時： 8月5日(金) 10:25~11:55(延長は12:30まで)

場所： 3号館スタジオ及び物理実験室若しくは化学実験室

形式：

1. 各グループがそれぞれブースを作る方式とする。
2. パワーポイントによる発表とポスターによる発表のいずれを中心とするかは、各グループで決める。
ポスター発表のグループはスタジオ、パワーポイントのグループは実験室とする。
ブースの設営については、前日若しくは当日の発表時間までに手分けして準備する。
3. ポスター、パワーポイントのスライドに加え、必要な資料は各グループで用意する。
4. 時間を2部くらいに分け、出来るだけ多くのグループの発表が聞けるようにする。
5. 評価については、最低4グループを対象とする。
6. 発表会は公開とし、多くの教員及び学生に聞いてもらう。
7. ベスト・プレゼンテーション賞等を設け、表彰する。その評価投票については、受講学生以外の聴講者にも参加してもらう。

※インターンシップの授業と重なって当日参加出来ない学生については、後日各グループの発表資料を基にして評価をしてもらう。

なお、当日までに、解錠の確認、ポスター発表用のパネルの数の確認、プロジェクター、パソコンの数の確認。

公開ということで、発表会案内のポスター等を作成する。

5. 実施の状況

結果的に、最終発表会の場所については、総合科学部1号館301講義室から同じフロアの教室すべてを使用し、パワーポイントによる発表とポスター発表を織り交ぜてプログラムし実施した。

FD企画ということでFD委員会にお願いし了解を得た上で、教職員に案内すると同時に学生にもポスターを掲示することで周知した。

なお、平成24年6月28日、29日には、徳島大学が当番校として平成24年度地域学系・学部等連絡協議会が開催され、2日目の6月29日には徳島大学総合科学部において「地域科学研究フォーラム」が開催されたので、それに合わせ、中間発表という形でポスター発表を実施した。このときには、サマースクールの時期にもあたり、海外からやってきた留学生たちもポスター発表等を興味深く見学していた。

以下、資料として平成23年度、平成24年度、平成25年度の最終発表会の案内とその様子を写真で紹介する。

総合科学部 FD 企画

平成23年度「総合科学実践プロジェクト」最終発表会のご案内

本年度より3年生を対象として開講された新カリキュラム・総合科学テーマ科目のひとつである「総合科学実践プロジェクト」について、担当指導教員のもとそれぞれグループで調査研究を行いました。その最終発表を総合科学部 FD 企画の一環として公開で行うことになりました。

つきましては、総合科学部の学生の皆様、教員の皆様、どうぞおいでいただきますようご案内申し上げます。

総合科学部 FD 委員会

授業担当教員：宮崎隆義、依岡隆児、山本裕史、山城考

日時：平成23年8月5日（金）

10：25～11：55（最大延長12：30まで）

開会： 301講義室 10：25～10：30

発表：

ポスター発表の部：302講義室 10：30～11：55

- ・「徳島における地産地消と食育」
- ・「日常生活における LED の活路とは」
- ・「ウミガメによる美波町地域活性化」
- ・「植物の人に対する効果」
- ・「彩り*つまもの産業が生み出す地域貢献とさらなる発展性—食文化と高齢者問題からの考察」

ポスター発表とパワーポイント発表の部：301講義室 発表はそれぞれ2回もしくは3回

第1部 10：30～11：15 ・「徳島の川の水質を調べよう～吉野川水系編」

第2部 11：20～12：05 ・「徳島の川の水質を調べよう～勝浦川編」

パワーポイント発表の部：303講義室、304講義室、ゼミ2、ゼミ3

第1部 10：30～11：15 各部屋で同時進行、発表はそれぞれ2回もしくは3回

303 ・「ホテルを活かした地域活性」

ゼミ2 ・「『千と千尋の神隠し』について」

ゼミ3 ・「『風の谷のナウシカ』と色と宗教の関連性」

第2部 11：20～12：05 各部屋で同時進行、発表はそれぞれ2回もしくは3回

303 ・「映画の楽しみ方」

304 ・「LEDを利用したイベントの分析と改善例」

ゼミ2 ・「『もののけ姫』からみる人間と森林との共存」

ゼミ3 ・「映画『となりのトトロ』から都市伝説形成過程について考える」

閉会及び表彰：301講義室 12：10～

【平成 23 年度 (2011)】



総合科学部 FD 企画

平成24年度「総合科学実践プロジェクト」最終発表会のご案内

3年生を対象として開講されている新カリキュラム・総合科目テーマ科目のひとつである「総合科学実践プロジェクト」は、今年で2年目を迎えております。昨年と同様に、担当指導教員のもとそれぞれグループで調査研究を行いましたが、その最終発表会を総合科学部 FD 企画の一環として公開で行うことになりました。

つきましては、総合科学部の学生の皆様、教員の皆様、どうぞおいでいただきますようご案内申し上げます。

担当指導教員

宮崎隆義, 依岡隆児, 山本裕史, 山城考

日時：平成24年8月3日（金）
10：25～11：55まで

場所：301講義室

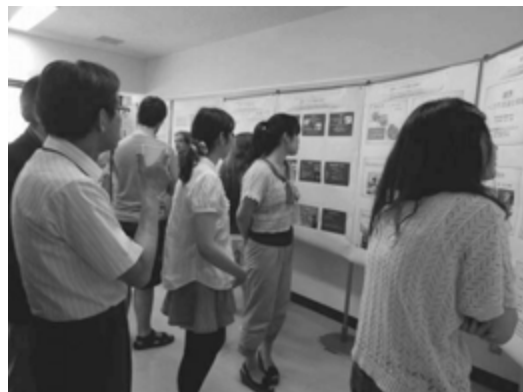
発表形式：ポスター発表

タイトル：

- ・境界～この不思議な領域～
- ・LEDは何故普及しないのか
- ・大学生の食生活を安全面から考える
- ・徳島観光PR改善プロジェクト
- ・徳島市周辺河川の水質調査
- ・吉野川流域河川の水質調査

【平成 24 年度 (2012)】

1. フォーラムの時期の様子 (6 月の中間発表)



2. 最終発表



総合科学部 FD 企画

平成25年度「総合科学実践プロジェクト」最終発表会のご案内

3年生を対象として開講されている新カリキュラム・総合科目テーマ科目のひとつである「総合科学実践プロジェクト」は、今年で3年目を迎えております。昨年と同様に、担当指導教員のもとそれぞれグループで調査研究を行いました。その最終発表会を総合科学部 FD 企画の一環として公開で行うことになりました。

つきましては、総合科学部の学生の皆様、教員の皆様、どうぞおいでいただきますようご案内申し上げます。

担当指導教員

宮崎隆義、依岡隆児、山本裕史、佐藤征弥

日時：平成25年8月2日（金） 3・4 講時
10：25～11：55まで

場所：301 講義室，302 講義室，303 講義室

発表形式：パワーポイント（PPT）による発表とポスター発表

タイトル（予定）：

PPTによる発表（301 講義室）

- ・観光危機最前線～眉山・城山における新しいイベント作り～
- ・モラさんぼ

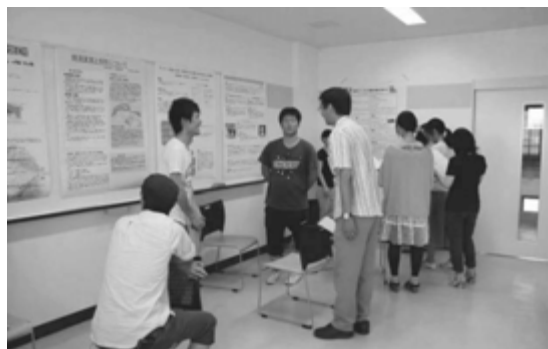
PPTによる発表（303 講義室）

- ・眉山周辺の河川環境

ポスター発表（302 講義室）

- ・既存のマップから徳島の観光を考える
- ・城山と徳島市周辺河川の水質調査
- ・中央公園の課題および将来像について
- ・初代藩主蜂須賀至鎮の功績

【平成 25 年度(2013)】 最終発表



9 12年間の成果と今後の課題

学生の修学意欲を高め、教員の教育の質の向上を図るため、総合科学部の FD 活動は自己点検・評価委員会、その後 FD 委員会が中心になって精力的に行ってきた。

1. 成果

全学 FD 推進プログラム第 1 期から第 2 期（平成 14 年～平成 19 年）は各授業内容を改善するための「学生による授業評価アンケート」と授業担当教員による「授業実施報告書」の活用を模索し、分析結果とその利用法が確定した時期であった。また、平成 13 年度から実施した新カリキュラムに対する検証も行われた。特に、学部教育目標を実現するために学部共通科目の授業方法について FD 研究会を数多く開催し、改善を行った。

平成 17 年度のカリキュラム改正を前に総合科学部の改組が検討され、改組のための基礎調査とその分析に多くの時間を費やした。総合科学部の学部共通科目、学科共通科目及び大学院共通科目について議論を重ね、「現在の教育内容に対する現状と課題」と「改組後の教育内容」について FD 研究会を開催した。以上の基礎調査と FD 研究会での議論を踏まえ、平成 19 年度には「総合科学部改組に伴う学部・大学院教育の新たな取り組みについて」というテーマで発表が行われ、改組内容がほぼ定まった。

平成 21 年 4 月から 2 学科を 3 学科に改組し、大学院総合科学教育部（博士課程）が発足した。徳島大学 FD 推進プログラム第 3 期から第 4 期（平成 20 年～平成 25 年）は改組後を見通してその準備と新カリキュラムの検証に焦点を絞った FD 計画・実施を行った。また、高大連携が定着した時期でもあった。学部・大学院で「総合科学」・「地域科学」とは何か、どの様に教育するかについて FD 集会及び FD フォーラムを開催し、討議を重ねた。その成果は「2009 総合科学部 FD 報告書」に詳しく掲載されている。新カリキュラムでの専門科目の授業が本格的に始まり、学部の「総合科学」が目指す専門教育について FD フォーラムを開催した。その成果の一つとして「総合科学実践プロジェクト」について前節で詳しく説明した。また、双方向性授業の実現のための FD とキャリア教育報告会を行い、学生の変化に対応した授業方法の模索と成績評価について議論を深めた。

2. 課題

学部・学科のディプロマ・ポリシー (DP) の達成について調査する必要がある。最初に、授業科目と DP の項目との関係はカリキュラム・チェック・リスト (CCL) に明記されているので、「学生による授業評価アンケート」のアンケート項目を一部見直すことで、授業科目が DP のどの項目の達成に関係しているか評価することができる。

平成 23 年度から 3 年継続してベネッセの自己発見(基礎学力・適性検査)調査を行った。キャリア報告会ではベネッセによる自己発見レポートの発表をもとに意見交換が行われ、今の学生に対しては双方向性の授業の重要性が確認された。また、総合科学部ではコースによって成績の GPA に大きなバラツキがあり、奨学金や授業料免除などの選考に GPA が利用されていることから成績評価の検証を継続的に行い、成績評価のガイドラインの作成を検討する必要がある。

医学部 F D 実施報告と今後の課題

医学部 F D 委員会委員長 佐田政隆
医科栄養学科 F D 委員会委員長 高橋 章
保健学科 F D 委員会委員長 阪間 稔

1. 医学部における第 3 期から第 4 期の F D 実施報告

医学部では医学部 F D 委員会の主催により、医学科、栄養学科（現 医科栄養学科）、保健学科の教員を対象として、医学部に共通する教育をテーマとした全体 F D を毎年実施した。また、シミュレーション教育、模擬患者参加型医療コミュニケーション教育、専門職連携教育（IPE）については、大学院ヘルスバイオサイエンス（HBS）研究部医療教育開発センターが、医学部、歯学部、薬学部の教員を対象とした講習会を企画・実施しているため、この F D を医学部 F D 委員会共催とし、医学部教員に参加を奨励してきた（医療教育開発センターの項目を参照）。

学科別については、医学科では、PBL チュートリアル教育やクリニカルクラクシップ（診療参加型臨床実習）等の新しい医学科教育をテーマとして、医学部教育支援センターが定期的に F D を開催した。この F D はレクチャーとワークショップ（WS）で構成し、WS ではロールプレイによる教育手法の体験や KJ 法を用いたグループ作業と全体発表を行った。

栄養学科では、研究における教育スキルの向上や教育の方針についての F D 活動を実施してきた。これらの活動は教職員だけでなく、学部学生や大学院生を交えて行った。他にも、栄養学科教員会議等で栄養学教育の技術向上や教育現場の現状について意見交換をするなど、F D 活動外でも教員の教育力向上を図っている。

保健学科は、学科設置後 12 年が経過しており、その F D 活動は成熟期に入ってきていると思われる。具体的な F D 活動を分類すると、教育（新しい講義の進め方や試験・成績評価法など）に対する F D 活動、研究活動（魅力のある大学院の構築など）に関する F D 活動、互いに尊重し合える人間関係の形成（ハラスメントの分析とその予防策など）に関わる F D 活動という大きな三つの柱を基本ベースとして、3 専攻の広範な多様性に少しでも対応できる F D 活動内容を日々、分析・検討している。看護学専攻（講座）の堅実な F D 活動を紹介すると、平成 16 年度より専攻内（講座内）での F D 研修会を継続的に行っており、平成 20 年度第 3 期以降も年 1 回の夏季研修会の他に、平成 22 年度からは臨地実習検討委員会と合同で大学病院看護部との意見交換会を年 2 回実施している。

これらの F D は、主として専門教育に関連するものであり、全学 F D として実施されている教育方法などの汎用性の高いテーマと有機的に連携することで、教員の指導力の向上を図ってきた。

（1）医学部全体の F D 開催実績

＜平成 20 年度＞

1. 第 1 回医学部 F D 研修会

日 時：平成 20 年 5 月 13 日（火）15：00～

場 所：医学部第一会議室

参加人数：75 名

実施内容：講演 1：「ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部の目指すもの」

講 師： 林良夫 HBS 研究部長

講演 2：「医学部における教育・研究活動の現状と課題」

講 師： 松本俊夫 医学部長

講演 3：「教育・研究者情報データベース (EDB) について」

講 師： 評価情報分析センター 大塚隆弘教授

2. 第 2 回医学部 FD 研修会

日 時：平成 20 年 6 月 2 日（月）、3 日（火）12：00～13:30

場 所：保健学科大講義室

参加人数：45 名

実施内容：講演 1：「オーストラリアの医療および看護事情」

講演 2：「オーストラリアの医療および他職種連携」

講 師： クイーンズランド工科大学看護学部 アラン・バーナード博士

3. 第 3 回医学部 FD 研修会

日 時：平成 20 年 7 月 1 日（火）17：00～18:00

場 所：青藍講堂

参加人数：51 名

実施内容：講演 1：「医療教育開発センターの業務及び利用方法」

講 師： 医療教育開発センター 寺嶋吉保准教授

講演 2：「講義の仕方についての基礎」

講 師： 大学開放実践センター 川野卓二准教授

4. 第 4 回医学部 FD 研修会

日 時：平成 20 年 10 月 20 日（月）17：00～18:30

場 所：青藍講堂

参加人数：38 名

実施内容：講演 1：「魅力的な講義をするための私の工夫」

講 師： 桑原知己准教授（分子細菌学分野）

講演 2：「講義に効果的な PowerPoint の使い方」

講 師： 大学開放実践センター 香川順子助教

<平成 21 年度>

1. 第 1 回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 21 年 5 月 29 日（金）17：00～18：00

場 所：医学部第一会議室（医学部基礎 A 棟 2 階）

参加人数：35名

実施内容：講演1「ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部の目指すもの」

講師：林 良夫 HBS 研究部長

講演2：「医学部における教育・研究活動の現状と課題」

講師：玉置俊晃 医学部長

研修内容：講演「ヘルスバイオサイエンス研究部 (HBS) の目指すもの」では、HBS 研究部の設立経緯や学内での位置付け、社会情勢をふまえた今後のビジョンを知ることにより、教職員が目指すべき研究、教育に対する姿勢について意義のある示唆が得られた。「医学部における教育。研究活動の現状と課題」では、学部教育、大学院教育、管理運営および研究活動の視点から、医学部の基本姿勢と基本方針および現状分析結果に基づいた今後の課題が示された。

実施後アンケートでは、「FD として適切だと思う」が講演1および2共に26名(78.8%)、「量や時間が適切だと思う」が講演1は30名(90.9%)、講演2は28名(84.9%)、「内容が今後の研究や教育に役立つ」が講演1は24名(72.3%)、講演2は25名(75.8%)であった。

各講演後、参加者からの質疑に対し、真摯な応答があり、短時間ながら高い研修成果が得られたものと考えられる。

2. 第2回医学部 FD 研修会

実施日時：平成21年7月7日(火) 17:00~18:00

場 所：医学部コンピュータールーム

参加人数：15名

実施内容：講演：「事務組織業務内容の概要」

講師：宮本敏克 事務部長

実技講習：「EDBの入力・編集・活用および教員業績評価シート作成の実際」

講師：評価情報分析センター長 大家隆弘先生およびセンタースタッフ

研修内容：講演「事務組織業務内容の概要」では、主に医学部の事務組織について概要の説明があり、円滑な教育・研究の実施に不可欠な事務組織を総合的に把握することができた。「EDBの入力・編集・活用および教員業績評価シート作成の実際」では、あらかじめ調査した教職員のニーズに対して丁寧な講習が行われ、参加者が実際にPCを使用して、EDBの入力や編集、活用、業績評価シート作成の手順の操作方法を習得することができた。特に文献データベースPubMedから直接EDBに業績を移行できることを学んだのは有益であった。

実施後アンケートには12名が回答し、「FDとして適切だと思う」が、講演は8名(66.7%)、実技講習は8名(66.7%)、「量が適切だと思う」がいずれも8名(66.7%)、「時間が適切だと思う」が、いずれも9名(75.0%)、「内容が今後の研究や教育に役立つ」がいずれも8名(66.7%)であった。

3. 第3回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 21 年 8 月 27 日 (木) 15:00~17:00

場 所：保健学科 C 棟 11 講義室

参加人数：45 名

実施内容：講演：「大学院教育の問題点と教育水準向上のための取り組み
～第 1 期中期目標期間の教育に関する現況報告～」

講 師：小野恒子教授 (保健科学 教育部教育・研究委員会委員長)

討 論：「目標とする学部・大学院教育とは」

研修内容：平成 21 年 3 月に受けた大学評価・学位授与機構による中間目標の達成状況に関する評価結果をもとに、保健科学教育部として求められている問題点の把握と改善策について講演が行われた。その後、保健学科 3 専攻と助産学専攻科から、それぞれが目標とする学部・大学院教育について発表・討論を行った。教員は、保健科学教育部、保健学科、専攻科の目指す全体像を把握することができ、教育水準の向上や研究の充実・発展に役立つことが期待される。

4. 第4回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 21 年 12 月 2 日(水) 17:00~20:00

場 所：医学部第 3、4 会議室

参加人数：18 名

実施内容：ワークショップ「TBL (Team Based Learning) の効果的な展開」

講 師：高知大学医学部 瀬尾宏美先生、三木洋一郎先生、高田淳先生

研修内容：TBL の概念、実施方法についての講演の後、4 グループに分かれワークショップを行った。参加者のほぼ全員が TBL について初めて接する機会であった。ワークショップを通じ、少ない教員で学生の学習効果を上げることができる方法として、例えば学習課題のグループ検討、スクラッチ利用のクイズ解答形式、またグループ検討への貢献度の個人評価、など新しい方法について理解を深めることができた。少人数科目でも導入することの意義なども経験から述べられ、TBL を前向きにとらえることができ、参加者に有益な情報及び経験を与えることができた。

5. 第5回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 22 年 1 月 15 日 (金) 15:00~17:00

場 所：医学部保健学科大講義室

参加人数：教員 12 名、学生 31 名

実施内容：講演「医療人を目指す学生に求められる資質と能力～医療を受ける立場からの提言～」

講 師：さらスポーツクラブ会長 田村治仁先生

研修内容：将来医療人を目指す学生に求められる資質や能力について、医療を受ける立場から問題提起を行っていただき、今後の医療人教育の充実を図ることを目的とした。田村氏が経験した医師、看護師、理学療法士などの対応とその問題点

や良かった点、また医療を受ける人が抱く、不安や期待などの思いについて丁寧に話をされた。講演後に学生や教員からの質問があった。

講演後のアンケートでは、参加者から今回の講演について高い評価を得た。この講演を発展させ、医療人として求められる資質についてより具体的に提起していくことも考えてもよいだろう。

<平成22年度>

1. 第1回医学部FD研修会

実施日時：平成22年6月22日(火) 17:00~18:15

場 所：医学部第一会議室（医学部基礎A棟2階）

参加人数：76名

実施内容：講演1：「ヘルスバイオサイエンス(HBS)研究部の目指すもの」

講 師：林 良夫 HBS 研究部長

講演2：「医学部における教育・研究活動の現状と課題」

講 師：玉置俊晃 医学部長

講演3：「事務組織の業務・体制・課題」

講 師：米原壽男 事務部長

研修内容：講演1ではHBS研究部の経緯とFDの意義、HBS研究部の研究成果の現状、及び研究環境の動向等について説明があり、今後のHBSの方向性が的確に示された。講演2では医学部の学部教育も含めた教育と研究の現状と課題について説明があった。講演3では事務組織と運営担当について説明があった。参加者の質疑応答を含み、全体として年度当初のFDとして有意義な研修会となった。

2. 第2回医学部FD研修会

実施日時：平成22年6月22日(火) 17:00~18:15

場 所：不明

参加人数：19名

実施内容：講演：「ウェブ教材の活用と実践」

講 師：保健学科eコンテンツ活用推進部会部会長 藤本憲市先生

研修内容：徳島大学では、学生の能動的な学習の推進を目的として Moodle (ムードル) と呼ばれる学習管理システム (LMS) を運用し、全学の学生・教職員が利用できる環境が整備されている。担当授業に LMS を活用したいが、どのように始めれば良いかわからない、立ち上げにハードルが高い、と考えている教員も多くいることから、本FDを開催した。LMS を使いこなすには慣れが必要で、完璧な e コンテンツ化を最初から目指すのではなく、一つの科目を3年くらいかけて徐々に作り上げることである。

この研修会をきっかけに、教員が少しずつでも授業資料を Moodle に配置していくことで、学生にとって学習環境が向上することが期待される。

3. 第3回医学部 FD 研修会

実施日時：平成23年2月7日（月）17：00～18：30

場 所：医学部第一会議室（医学部基礎 A 棟 2 階）

参加人数：46 名

実施内容：講師に三谷宏治氏をむかえ、学生指導力を高めるための発想力に関して講演会を実施した。グループディスカッションを含めた参加型の講演会で、実際に自分自身の発想力への気づきを得るようなプログラムであった。実施後アンケートでは、「FDとして適切だと思う」が87%、「量や時間が適切だと思う」が87%、「内容が今後の研究や教育に役立つ」が86%で、参加者には概ね好評であったが、事前の案内方法や時間設定に課題が残った。

4. 第4回医学部 FD 研修会

実施日時：平成23年2月7日（月）17：00～18：30

場 所：保健学科 C 棟 C11

参加人数：18 名

実施内容：講演：「すぐに使えるコーチング」

講 師：徳島大学病院地域医療連携センター 安部斗与先生

研修内容：学生指導や対人援助において、すぐに活用できるコーチングを習得する有意義な機会であった。コーチングの概要に関する説明に加え、参加者がグループを作り、ロールプレイを通して実際にコーチングを体験することで、より効果の高い研修となった。

<平成23年度>

1. 第1回医学部 FD 研修会

実施日時：平成23年4月18日（月）17：00～18：00

場 所：医学部第4会議室（医学部基礎 A 棟 1 階）

参加人数：11 名

実施内容：講演1：「医学部の教育プログラムー医学科」

講 師：教育支援センター副センター長 三笠洋明先生

講演2：「医学部の教育プログラムー栄養学科」

講 師：栄養学科教務委員長 宮本賢一先生

講演3：「医学部の教育プログラムー保健学科」

講 師：保健学科教務委員長 吉永哲哉先生

講演4：「医学部の教育プログラムー医療教育開発センターの役割」

講 師：医療教育開発センター長 赤池雅史先生

研修内容：各学科の新任教員（教授、准教授、助教）が医学部3学科の教育プログラムおよび統合医療教育プログラムを理解し、本学の医学部医療教育について共通認識を持つことができた。今後の医学部での教育における学科教員間の連携や協力体制の充実が期待できる。

2. キャンパス内のハラスメント防止対策講演会

実施日時：平成 23 年 10 月 27 日(木) 13：30～15：00

場 所：医学部第 3・4 会議室（医学部基礎 A 棟 1 階）

参加人数：27 名

実施内容：講演：「キャンパス内のハラスメント防止対策について」

講 師：奈良県立医科大学健康政策医学講座講師 御輿久美子氏

講演内容：学内でのハラスメントの定義及びメカニズムの説明に加え、具体的な事例を挙げて、ハラスメントの問題点を分析した。また、多くの相談事例に基づき、ハラスメントの予防方法、ハラスメント発生時の対応方法が教示された。FD として初めてのテーマであるが、教育者の学生に対する一方的な視点の危険性を認識でき、学生指導方法の改善に役立つことが期待できる。

<平成 24 年度>

1. 第 1 回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 24 年 6 月 7 日（木）17：00～18：00

場 所：医学部第 2 会議室（医学部基礎 A 棟 1 階）

参加人数：9 名

実施内容：講演 1：「徳島大学医学部が目指すもの」

講 師：医学部長 玉置俊晃先生

講演 2：「徳島大学の医療人教育と医療教育開発センターの役割」

講 師：医療教育開発センター長 赤池雅史先生

講演内容：医学部の新任教員が医学部の教育・研究方針や医療教育開発センターの役割を理解し、本学の医学部医療教育について共通認識を持つことができた。

2. 第 2 回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 24 年 9 月 12 日(水) 10：00～12：00

場 所：医学部 C11 講義室（医学部保健学科 C 棟 1 階）

参加人数：24 名

実施内容：講演：「成績評価とフィードバックー評価の原則からルーブリック評価までー」

講 師：高知大学総合教育センター 俣野秀典氏

研修内容：本プログラムによって、参加者はルーブリックを含めた教育の評価についての基本的な考え方を理解することができた。今後の教育評価の改善に役立つと考えられる。また、医学部長自らが多忙な公務の合間を縫って研修会にご参加下さり、医学部における FD 推進の模範となった。

3. 第 3 回医学部 FD 研修会

実施日時：平成 25 年 3 月 27 日(水) 14：00～17：00

場 所：コンピュータールーム病理・組織実習室（医学部基礎 B 棟 5 階）

参加人数：17 名

実施内容：講演：「記述式試験結果のルーブリック評価を用いた項目特性分析」

講師：医学部教育支援センター副センター長 三笠洋明先生

研修内容：項目特性曲線は、視覚的に個々の問題の特性（難易度、判別力）を把握できるので、試験問題を評価するツールとして知られている。マークシートで実施する試験結果へ適応は容易であるが、記述式の試験には一般的には用いられる事は少ない。そこで記述式問題であってもルーブリック評価表に基づき採点を行うと、項目特性分析が容易に行える事について、演習をまじえて研修した。参加者には評価表の作成、分析を体験し、試験問題のあり方について考えるきっかけになった。

<平成25年度>

1. 第1回医学部 FD 研修会

実施日時：平成25年6月27日（木）17:00～18:00

場 所：医学部第1会議室（医学部基礎A棟1階）

参加人数：16名

実施内容：講演1：「徳島大学医学部の現状と展望」

講 師：医学部長 苛原稔先生

講演2：「徳島大学の医療連携教育と医療教育開発センターの役割」

講 師：医療教育開発センター長 赤池雅史先生

研修内容：医学部の新任教員が医学部の教育・研究方針や医療教育開発センターの役割を理解し、本学の医学部医療教育について共通認識を持つことができた。

2. 第2回医学部 FD 研修会

実施日時：実施日時 平成26年1月29日（水）10:00～12:00

場 所：大塚講堂小ホール（大塚講堂2階）

参加人数：33名

実施内容：講演：「魅力ある大学院の構築、教員側でできることはなにか？」

講師：金沢大学医薬保健学域保健学類 天野良平 氏



平成25年度第1回医学部FD研修会

(2) 医学科でのFD開催実績

<平成20年度>

1. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成20年7月4日

場 所：MINCS カンファレンス室 17:30～21:30

参加人数：16名

実施内容：講演1：「効果的な臨床実習」

講 師：医学部教育支援センター長 赤池雅史先生

WS1：「5マイクロスキル」

講演2：「効果的な臨床実習のためのICM」

講 師：HBS 医療教育開発センター長 寺嶋吉保先生

WS2：「学生指導のための週間スケジュール」

WS3：「評価」

2. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成20年7月17日 17:30～21:30

場 所：MINCS カンファレンス室

参加人数：16名

実施内容：講演1：「PBL チュートリアル教育とは」

講 師：医学部教育支援センター長 赤池雅史先生

WS1：「PBL チュートリアルのシナリオ作成」

講演2：「徳島大学におけるPBL チュートリアルの現状」

講 師：医学部教育支援センター 三笠洋明先生

WS2：「チューターによる効果的指導方法」

講演3：「徳島大学におけるPBL チュートリアル改革の取り組み」

講 師：医学部教育支援センター長 赤池雅史先生

3. 臨床講義ワークショップ

実施日時：平成21年1月21日 17:30～21:30

場 所：MINCS カンファレンス室

参加人数：13名

実施内容：講演1：「徳島大学の医学教育の現状」

講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS1：「臨床講義の目標・アウトカム」

講演2：「神経内科における臨床講義の取り組み」

講 師：梶龍兒教授（臨床神経科学）

WS2：「優れた臨床講義の具体的方法」

<平成21年度>

1. 医学科教育主任講習会 (医学教育ワークショップ)

実施日時：平成21年4月22日 18:00～22:45

場 所：基礎第3講義室

参加人数：30名

実施内容：WS1：「卒前医学教育の問題点は何か」

講演1：「医学教育の現状」

講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史、三笠洋明先生

WS2：「問題点を解決するための具体的対策」

講演2：「教務関係規則等の説明」

講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

2. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成21年8月28日 17:30～21:30

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：17名

実施内容：WS1：「今、クリクラで問題と思うこと」

講演1：「診療参加型臨床実習とは」

講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS2：「5マイクロスキル」

講演2：「スキルスラボを活用した効果的指導」

講 師：HBS 医療教育開発センター 寺嶋吉保先生

WS3：「実習プログラムを作成しよう」

3. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成21年8月26日 17:30～21:30

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：15名

実施内容：講演1：「PBL チュートリアル教育とは」

講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS1：「PBL チュートリアルのシナリオ作成」

講演2：「徳島大学における PBL チュートリアルの現状」

講 師：医学部教育支援センター 三笠洋明先生

WS2：「チューターによる効果的指導方法」

<平成22年度>

1. 医学科教育主任講習会 (医学教育ワークショップ)

実施日時：平成22年4月22日 18:00～21:00

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：30名

実施内容：講演：「卒前医学教育の問題点は何か」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS： 「問題点を解決するための具体的対策」

2. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成 22 年 7 月 7 日 17:30～21:30
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：16 名
実施内容：WS1：「今、クリクラで問題と思うこと」
講演 1：「診療参加型臨床実習とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS2：「効果的指導法：5 マイクロスキル」
講演 2：「クリニカルクラークシップから卒後臨床研修へ～東北大学の試み～」
講 師：東北大学卒後研修センター 加賀谷豊教授
WS3：「効果的な実習プログラムを作成しよう」

3. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成 22 年 6 月 17 日 17:30～21:30
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：13 名
実施内容：講演 1：「PBL チュートリアル教育とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS1：「PBL チュートリアルのシナリオ作成」
講演 2：「徳島大学における PBL チュートリアルの現状」
講 師：医学部教育支援センター 三笠洋明先生
WS2：「チューターによる効果的指導方法」

<平成 23 年度>

1. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成 23 年 7 月 20 日 17:50-21:00
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：16 名
実施内容：WS1：「今、クリクラで問題と思うこと」
講演 1：「診療参加型臨床実習とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS2：「効果的指導法：5 マイクロスキル」
WS3：「効果的なクリクラとするには ～現場からの提案～」

2. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成 23 年 7 月 29 日 17:50-21:00
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：21 名
実施内容：WS1：「医学科 4 年次に何を学ぶべきか」
講演：「PBL チュートリアル教育とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS2：「効果的な PBL チュートリアルシナリオ作成」

<平成 24 年度>

1. 医学科教育主任講習会（医学教育ワークショップ）

実施日時：平成 24 年 4 月 25 日 18:00 ～21:00
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：31 名
実施内容：講演：「徳島大学における医学教育の現状と教育主任の役割」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS：「医学科教育の問題点とその具体的解決法」

2. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成 25 年 1 月 11 日 17:50～21:00
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：11 名
実施内容：WS1：「今、クリクラで問題と思うこと」
講演 1：「診療参加型臨床実習とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS2：「診療現場での効果的指導法：5 マイクロスキル」
WS3：「効果的なクリクラとするには ～現場からの提案～」

3. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成 24 年 10 月 31 日 17:50～21:00
場 所：医学部第 3 第 4 会議室
参加人数：14 名
実施内容：講演：「PBL チュートリアル教育とは」
講 師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生
WS1：「良いチューターとは」
WS2：「効果的なシナリオ作成」

<平成 25 年度>

1. 医学科教育主任講習会（医学教育ワークショップ）

実施日時：平成 25 年 4 月 22 日 18:00 ～21:00

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：25名

実施内容：講演：「徳島大学における医学教育の現状と教育主任の役割」

講師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS：「医学科教育の問題点とその具体的解決法」

2. クリニカルクラークシップ指導者養成講習会

実施日時：平成25年7月12日 18:00～21:00

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：18名

実施内容：WS1：「今、クリクラで問題と思うこと」

講演1：「診療参加型臨床実習とは」

講師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS2：「診療現場での効果的指導法：5マイクロスキル実践」

WS3：「効果的なクリクラとするには ～現場からの提案～」

3. PBL チュートリアル講習会

実施日時：平成25年7月17日 18:00～21:00

場 所：医学部第3第4会議室

参加人数：13名

実施内容：講演：「PBL チュートリアル教育とは」

講師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生

WS1：「良いチューターとは」

WS2：「効果的なシナリオ作成」

4. メンター講習会

実施日時：平成25年7月8日 18:00～19:00

場 所：第2臨床講堂

参加人数：8名

実施内容：講演：「医学教育におけるメンターについて」

講師：医学部教育支援センター 赤池雅史先生



【平成24年度PBLチュートリアル講習会】



【平成25年度医学教育ワークショップ】

(3) 栄養学科 (現 医科栄養学科) でのFD開催実績

<平成21年度>

1. 第1回医学部FD研修会

講演会： 「栄養学科の現状と教育研究向上の対策」
実施日時： 平成21年4月23日(木) 12:00~12:30
会場： 医学部 第一会議室
対象者： 医学部教職員および大学院生
講師： 武田英二 教授 (栄養学科・臨床栄養学分野)
参加者： 医学部教職員 14名、大学院生 41名、計 55名

2. 第2回医学部FD研修会

講演会： 「質的レベル向上を目指した大学間連携の工夫」
実施日時： 平成21年7月30日(木) 12:00~12:45
会場： 医学部 第一会議室
対象者： 医学部教職員および大学院生
講師： 阪上 浩 准教授 (栄養学科・代謝栄養学分野)
参加者： 医学部教職員 15名、大学院生 15名、計 30名

3. 第3回医学部FD研修会

講演会： 「海外留学を終えて：若手研究者の海外留学とその意義について」
実施日時： 平成22年3月18日(木) 12:00~12:45
会場： 医学部 第一会議室
対象者： 医学部教職員および大学院生
講師： 河合慶親 助教 (栄養学科・食品機能学分野)
参加者： 医学部教職員 12名、大学院生 1名、計 13名

<平成22年度>

1. 第1回医学部FD研修会

講演会： 「チームワーク、フットワークから学ぶ教育スキルの向上
～共同(協同)研究のすすめ」
実施日時： 平成22年6月17日(木) 12:00~12:40
会場： 医学部 第一会議室
対象者： 医学部教職員および大学院生
講師： 奥村 裕司 准教授 (大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・生体栄養学
分野)
参加者： 医学部教職員 16名、大学院生 7名、計： 23名

<平成23年度>

1. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第1回
平成23年4月28日(木) 参加数:教職員 14名
2. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第2回
平成23年5月26日(木) 参加数:教職員 14名
3. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第3回
平成23年6月23日(木) 参加数:教職員 13名
4. 第一回医学部 FD 研修会 (栄友会学術講演会)
講演名: 「徳島大学栄養学科の学生に求められるもの・期待すること」
実施日時:平成23年6月25日(土) 15:00~16:30
会場: 医学部 第一会議室
対象者: 医学部教職員および大学院生、学部生
講師: 聖徳大学 池本 真二 教授
参加者: 医学部教職員 10名、大学院生 64名、計: 74名
5. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第4回
平成23年7月28日(木) 参加数:教職員 12名
6. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第5回
平成23年9月22日(木) 参加数:教職員 14名
7. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第6回
平成23年10月27日(木) 参加数:教職員 14名
8. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第7回
平成23年11月25日(金) 参加人数:教職員 13名
9. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第8回
平成23年12月22日(木) 参加数:教職員 15名
10. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第9回
平成24年1月26日(木) 参加数:教職員 14名
11. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第10回
平成24年2月23日(木) 参加数:教職員 14名
12. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第11回

平成 24 年 3 月 15 日 (木) 参加数：教職員 14 名

<平成 24 年度>

1. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 1 回
平成 24 年 4 月 26 日 (木) 参加数：教職員 12 名
2. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 2 回
平成 24 年 5 月 24 日 (木) 参加数：教職員 15 名
3. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 3 回
平成 24 年 7 月 5 日 (木) 参加数：教職員 15 名
4. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 4 回
平成 24 年 7 月 26 日 (木) 参加数：教職員 13 名
5. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 5 回
平成 24 年 9 月 20 日 (木) 参加数：教職員 14 名
6. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 6 回
平成 24 年 10 月 25 日 (木) 参加数：教職員 13 名
7. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 7 回
平成 24 年 11 月 22 日 (木) 参加数：教職員 12 名
8. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 8 回
平成 25 年 1 月 24 日 (木) 参加数：教職員 13 名
9. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 9 回
平成 25 年 2 月 28 日 (木) 参加数：教職員 15 名

<平成 25 年度>

1. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 1 回
平成 25 年 4 月 25 日 (木) 参加数：教職員 12 名
2. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 2 回
平成 25 年 5 月 22 日 (水) 参加数：教職員 15 名
3. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 3 回
平成 25 年 6 月 27 日 (木) 参加数：教職員 18 名

4. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 4 回
平成 25 年 7 月 25 日 (木) 参加数：教職員 15 名
5. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 5 回
平成 25 年 9 月 26 日 (木) 参加数：教職員 16 名
6. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 6 回
平成 25 年 10 月 24 日 (木) 参加数：教職員 14 名
7. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 7 回
平成 25 年 11 月 28 日 (木) 参加数：教職員 15 名
8. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 8 回
平成 25 年 12 月 26 日 (木) 参加数：教職員 19 名
9. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 9 回
平成 26 年 1 月 23 日 (木) 参加数：教職員 14 名
10. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 10 回
平成 26 年 2 月 27 日 (木) 参加数：教職員 14 名
11. 医学部栄養学科 月例 FD 研修会 第 11 回
平成 26 年 3 月 27 日 (木) 参加数：教職員 12 名

(4) 保健学科での FD 開催実績

【看護学専攻】

(夏季研修会)

平成 20 年度 よき医療人として我々が育てたい学生像と、そのための教育・研究環境の
将来構想

平成 21 年度 統合実習の成果と課題

平成 22 年度 統合実習の問題点と解決法

平成 23 年度 臨地実習における学習成果を高めるための教育支援のあり方について

平成 24 年度 看護系大学モデル・コア・カリキュラムによるシラバスの点検・評価

平成 25 年度 資格取得に必要な教育内容と本学独自の教育内容の視点からのシラバスの
点検とカリキュラムの見直し

2. 第1期から第4期を総括して12年間の成果

12年間にわたるFDの取り組みによって、医学部全体の教育に関することは医学部FD委員会、シミュレーション教育、模擬患者参加型医療コミュニケーション教育、専門職連携教育(IPE)については、HBS研究部医療教育開発センター、医学科教育に特化したものについては医学部教育支援センターがそれぞれ主体となってFDを企画・実施する体制が確立した。中でも医学部FD委員会が年度初めに医学部新任教員を対象として実施する医学部FD研修会は、対象となる教員の参加率が高く、医学部長自らが講師を務めることにより、医学部の教育方針を新任教員に直接に伝えるとともに、新任教員との意見交換を行う貴重な機会となっている。

医学科教員を対象として医学部教育支援センターが主催するFDについては、新しい医学教育手法の浸透に大いに貢献し、特に全国の医学科で問題となっているPBLチュートリアル教育の形骸化ならびにそれによる廃止を回避することに貢献した。また、教員による診療現場での指導方法の向上により、臨床実習を見学型から診療参加型へ発展させることにも寄与している。さらにWSによって作成されたプロダクトは、医学部教育支援センター会議、医学部教務委員会、カリキュラム委員会等に提示され、その情報を共有し今後の対応策を協議することによって、継続的な教育の質改善に活かされている。このように、FDが医学科教育における問題点の抽出やその解決策の検討の機会としても活用されるようになった。

栄養学科では、栄養学科教員を対象として、月に1回のFD研修検討会を開始し、栄養学教育の最新の情報の取得や新しい教育手法の浸透に大いに貢献している。また、医療に貢献できる人材を育てるための学部および大学院教育の到達目標についての考えを深めることができた。

保健学科看護学専攻(講座)では、平成16年度より専攻内(講座内)でのFD研修会を継続的に行っている。年1回の夏季研修会に加え、平成22年度からは臨地実習検討委員会と合同で大学病院看護部との意見交換会を年2回実施している。看護基礎教育では臨地実習が授業時間に占める割合は大きく、また、その教育効果も大きいことから、大学病院と連携しての臨地実習改革へ取り組みは着実に成果を上げている。看護学講座の教員は、専攻内(講座内)FDのみならず、全学FD、医学部FDへの参加者も多く、FDに関する意識は高い。

保健学科放射線技術科学専攻は、日進月歩で進展していく高度医療技術や先進医療機器に対応できる診療放射線技師を育成すると同時に、堅実な優れた技術者や研究者を育む使命も有している。このため、カリキュラムチェックリストの作成からカリキュラムマップへの展開、学修科目間(基礎科目と専門科目、基礎系と臨床系の科目連携など)の有機的な繋がりや再発見などのカリキュラム構成の見直し、大学院教育への見直しや充実について取り組んできた。これらの実践には教員間の連携が欠かせず、この連携に必要である互いに尊重しあえる人間関係の形成や協調性の充実については、これまでのFD活動の中でその種が少しであるが、形成されてきたと考えられる。

保健学科検査技術科学専攻では、平成14年の開設当初より、FD基礎プログラム、授業研究会、FDシンポジウム等への参加による研修を継続、強化してきた。基礎プログラムに参加した教員が、授業改善の取り組みを実践し、授業コンサルテーション・

授業研究会にも参加した。その成果を専攻内で共有することにより教育活動の充実を図ってきた。第3期、4期には引き続きFDプログラムへの参加による研修を継続し、魅力的な講義のコツや学生指導力を高めるための発想力の鍛え方について学ぶことができた。また、どのような医療人を育てるのかという学部および大学院教育の到達目標についての考えを深めることができた。さらに魅力ある大学院教育を行うために教員として出来ることは何かを考えることができた。

3. 今後の課題

医学部全体のFDについては、新任教員を対象としたものが中心となっているため、今後はすべての教員を対象とした継続的なFDを実施する必要がある。また、講義形式のみで構成されているFDについては、教育効果をあげるため、ワークショップ形式、小グループ討論や全体討論を取り入れた参加型FDに発展させていくことが望ましいと考えられる。

また、FDが大学としての義務であることを知らなかったり、「教員としての能力開発＝研究能力の開発」と誤解している教員が一部に存在している問題点も指摘されており、FDに対する教員の意識改革も必要である。例えば、HBS医療教育開発センターが主催しているシミュレーション教育、模擬患者参加型医療コミュニケーション教育、専門職連携教育（IPE）については、今後の医学教育において非常に重要なテーマであるにもかかわらず、参加者が限定され参加人数が増えていないという問題があり、今後はFD参加に何らかの強制力やインセンティブを持たせることが必要ではないかと考えられる。

さらに、医学科では教育の質保証を目的として国際基準に基づいた分野別認証を受ける予定があり、他学科・専攻においても、このような教育のグローバル化が急速に必要となる可能性が高い。FDについてもこれに対応した内容のものを今後積極的に企画・実施していくことが必要と考えられる。

歯学部FD実施報告と今後の課題

歯学部及び大学院口腔科学教育部FD委員会委員長 羽地 達次

1 はじめに

歯学部におけるFDワークショップは歯学部教務委員会内に設置されていた「FD部会」内の「歯学部FDワークショップ委員会」のもとで企画・実施された。同委員会は「望ましい歯学教育を開発すること」を目標に掲げ、歯学部教員全員がFDワークショップに参加することを義務付けた。全教員が参加するには少なくとも3回のワークショップが必要となるので、3年間にわたり合宿形式のワークショップを行うこととした。3回のワークショップを通して歯学部のほぼ全教員がFDワークショップに参加したことになる。このことにより「歯学部全教員がFDプログラムに少なくとも1回は参加する」という当初の目標は達成された。

2 平成19年度歯学部のFD活動

平成19年度は徳島で開催された「医学教育セミナーとワークショップ：岐阜大学医学部教育開発研究センター (MEDC) 主催」を共催し、「歯学部FDワークショップ」とした。参加者はこのワークショップを通して、様々な体験学習からコミュニケーション能力の向上やホスピタリティマインドを習得した。

1. 平成19年度 歯学部FDワークショップ (医学教育セミナーとワークショップ)

日 時： 平成19年10月20日 (土) ~21日 (日)

研修場所：医学部等

参加者数：20名

内 容： 高塚先生、Gibbs先生のセミナーと5題のワークショップを行った。歯学部からはWS1：仲間と共に気づき学ぶ「気づきの体験学習」にチャレンジとWS5：模擬患者(SP) 交流会に参加した。

3 平成20年度歯学部のFD活動

歯学部教務委員会内に設置されていた「FD部会」を「歯学部及び大学院口腔科学教育部FD委員会」に改組し、伊賀委員長を中心に活動を継続した。平成20年度のFDでは従来のワークショップ形式から講演会形式を採用し、2回の講演会を実施した。第1回は近年社会問題になっているハラスメント、特にセクシャルハラスメントに関してその分野の第一人者である「財団法人21世紀職業団体」の藤原寛子氏を招いた。また「教員の心構え」という統一テーマのもとに5名の本学部教授による講演も合わせて実施した。第2回は「人生の死生観」と題して、養護老人ホーム施設長で願成寺住職の大西智城先生による講演会を開催した。

1. 第1回 FD講演会

日 時： 平成 20 年 7 月 4 日 (金) 16:30～19:20

会 場：歯学部 4 階 大講義室

講 師：財団法人 21 世紀職業団体・藤原寛子先生

講演 1：セクシュアルハラスメントの防止研修

概 略：1. 均等法及び指針・男女雇用機会均等法 (平成 19 年 4 月改正)

2. セクシュアルハラスメントの起こる原因と背景

3. セクシュアルハラスメントを起こさないための管理職としての心構え

4. パワーハラスメント (Power Harassment) とは

参加者：76 名



【藤原寛子氏による講演】



【教員の講演聴講風景】

(合わせて以下の内容の本学部教授による講演を行った。)

講演 2：HBS 研究部についての現状と課題

講 師：ヘルスバイオサイエンス研究部長・林 良夫教授

講演 3：歯学部のおかれている現状と教員としての対応

講 師：ヘルスバイオサイエンス研究部・市川哲雄教授

講演 4：学生アンケート結果からみた教員の姿

講 師：歯学部学生委員会委員長 野間隆文教授

講演 5：「学生懇談会」を終えて

講 師：歯学部教務委員会委員長 吉本勝彦教授

講演 6：徳島大学の情報セキュリティポリシーについて

講 師：医学部・歯学部附属病院支線管理者 (歯科診療部門) 河野文昭教授

2. 第 2 回 FD 講演会

日 時：平成 20 年 12 月 12 日（金）17:30～19:00

会 場：歯学部 4 階 大講義室

講 師：社会福祉法人白寿会常務理事及び願成寺住職・大西智城氏

講演題名：人の死生観

参加者：HBS 研究部教職員、医学部・歯学部附属病院教職員、大学院生及び学部学生 159 名

講話の概略：1. 人の死

2. 助産師と助死師

3. 辛抱と幸

4. 許す心をもつこと

5. 痴呆高齢者とは？

6. 地獄の風景、極楽の風景

7. その他



【大西智城氏による講演】



【教員等の講演聴講風景】

4 平成 21 年度歯学部の FD 活動

平成 21 年度の FD 活動は、4 月に歯学教育スキルアップセミナー「よい試験問題はどう作る！」を共催することから始まった。続いて 7 月には日本歯科大学から 2 人の講師を招聘し、「コーチング」に関するワークショップを開催した。「コーチング」は改組後初めてのワークショップではあったが、当初予定していた定員を大幅に上回り、教員の関心の高さが窺えた。また 7 月には本学部 3 名の教授による「大学教員の心構え」をテーマにした講演会を実施した。さらに 10 月には平成 21 年度から歯学科で導入している「メンター制度」について、先行実施している医学科の現状と問題点に関して医療教育開発センターの赤池雅史先生にお願いした。

1. 歯学教育スキルアップセミナー

日 時：平成 21 年 4 月 30 日（木）17:00～18:30

場 所：歯学部 4 階 大講義室

参加者数：52 名

内 容： よい試験問題はこう作る！ CBT 作問から考える上手い試験問題の
作り方、悪い試験問題のでき方

講 師： 徳島大学大学院 HBS 研究部 松尾敬志教授

2. 歯学部FDワークショップ

日 時： 平成21年7月11日(土) 9:30~15:30

場 所： 歯学部2階第1講義室

参加者数：53名

講 師： 日本歯科大学附属病院総合診療科 中谷 寛教授
日本歯科大学附属病院総合診療科 大澤銀子講師

内 容： 「コーチング」：コーチングの基本ステップ

1. ゴールを決める
2. 現状を知る
3. 障害と強みを知る
4. 行動計画の立案
5. フォローと振り返り



【ワークショップ前の風景】



【中谷先生(右)と大澤先生(左)】

3. 第1回 歯学部FD講演会

日 時： 平成21年7月31日(金) 17:00~18:30

場 所： 歯学部4階第大講義室

参加者数：76名

実施内容：講演会

演題1：HBS研究部の現状と課題：科学研究費採択に向けて

講 師：ヘルスバイオサイエンス研究部長・歯学部長：林 良夫教授

演題2：個人情報保護について

講 師：医学部・歯学部附属病院・副病院長 河野文昭教授

演題3：歯学部のおかれている現状と教員としての対応一己が分を知りて一
講 師：歯学部副学部長・市川哲雄教授

4. 第2回 歯学部FD講演会

日 時：平成21年10月30日(金) 18:00～19:00

場 所：歯学部4階第大講義室

参加者数：56名

講 師：徳島大学大学院 HBS 研究部
医療教育開発センター長 赤池雅史准教授

演 題：徳島大学医学部医学科におけるメンター制の現状と問題点



【赤池雅史先生による講演】



【教員の聴講風景】

5 平成22年度歯学部のFD活動

平成22年度のFD活動も前年度に続き、歯学教育スキルアップセミナー「よい試験問題はこう作る！」から始まった。7月には高知大学医学部教育創造・推進室の三木洋一郎先生を招聘して「Team-Based Learning (TBL) 能動的学習を引き出す教育手法」と題した講演会を開催した。このTBLは明確に定義された学習方略で、大人数の学生に対して少ないチューターで効果的な学習成果が得られることが期待される。また大学院教育に照準を当て、大阪大学大学院歯学研究科の取り組みと大学院教育改革について、大阪大学大学院教授の恵比須繁之先生に講演をお願いした。この講演会はSDあるいはTA教育の一環としても位置づけ、教員のみならず職員と大学院生も対象とした。平成22年度は医療教育開発センターと歯学部が共同で実施する「ノンテクニカルスキルの伝達を目指した医療人教育改善の取り組み」が徳島大学パイロット事業支援プログラム(教育改革支援事業)に採択された。このことから厚生労働省の「現代の名工」に選ばれた喜多岩夫氏を招聘し、鏡台・仏壇造りを通して経験した「技能の修得と伝承」について話題提供をして頂いた。

1. 歯学教育スキルアップセミナー

日 時：平成22年4月27日(火) 17:00～18:30

場 所： 歯学部 4階 大講義室
参加者数：48名
演 題： CBT試験問題作成法
講 師： 徳島大学大学院 HBS 研究部 松尾敬志教授

2. 第1回 歯学部FD講演会

日 時： 平成22年7月16日(金) 17:30~19:00
場 所： 歯学部 4階 大講義室
参加者数：53名
実施内容：講演会
演 題： 「Team-Based Learning (TBL)—能動学習を引き出す教育手法—」
講 師： 高知大学医学部教育創造・推進室 三木洋一郎准教授



【三木洋一郎先生の講演】



【聴講風景】

3. 第2回 歯学部FD講演会

日 時：平成22年7月30日(金) 17:30~19:00
場 所：歯学部 4階 第大講義室
参加者数：57名
実施内容：講演会
演題1： HBS研究部の現状と課題と科学研究費採択に向けて
講 師： HBS 研究部長・歯学部長・林 良夫教授

演題2： 学生総代との懇談会を終えて
講 師： 歯学部教務委員長・吉本勝彦教授

演題3： 百日咳について

講 師： 徳島大学病院安全管理対策室・感染対策部門・長尾多美子副看護師長

演題4： 個人情報保護について

講 師： 徳島大学病院副病院長・河野文昭教授

4. 第3回 歯学部FD講演会

日 時： 平成22年12月3日(金) 17:30~18:30

場 所： 歯学部4階 大講義室

参加者数：49名

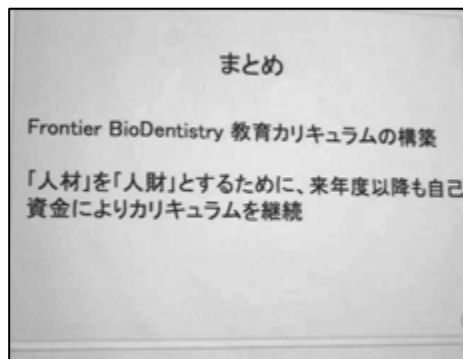
実施内容：講演会

講 師： 大阪大学大学院歯学研究科 恵比須繁之教授

演 題： 大阪大学大学院歯学研究科における大学院教育の新しい試み



【恵比須繁之先生の講演】



【講演のまとめ】

5. 第4回 歯学部FD講演会

日 時： 平成22年12月24日(金) 17:00~18:30

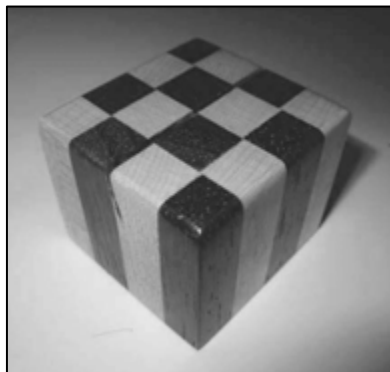
場 所： 歯学部3階第2会議室

参加者数：35名

実施内容：講演会

講 師： KITA-CRAFT：現代の名工 喜多岩夫氏

演 題： 技能の修得と伝承



【配布された喜多氏の作品】



【喜多岩夫氏】

6. 第5回 歯学部FD講演会

日 時： 平成23年1月27日(木) 17:00~18:30

場 所： 歯学部5階共通講義室

参加者数：35名

実施内容：講演会

講 師： 新潟大学社会連携研究センター 松原幸男教授

演 題： 学校教育における暗黙知の醸造について—先端技術のものづくりと伝統技法に学ぶ—

後 援： 徳島大学パイロット事業支援プログラム(教育改革支援事業)

「ノンテクニカルスキルの伝達を目指した医療人教育改善の取り組み」

6 平成23年度歯学部のFD活動

本年度の最大の出来事は3月に発生した東日本大震災である。そこで第1回FD講演会においては被災地で支援活動に携われた徳島県歯科医師会の歯科医師2名と大学病院看護師1名を講師として招き、被災地の現状と活動内容を報告して頂いた。講演終了後には支援の問題点について出席者と討論した。また学部長らによる教員教育講演会も例年どおりに開催した。今回は市川学部長による「歯学部の行動計画と方向性」に加えて科学研究費採択に関する内容で徳島大学研究担当理事の福井萬壽夫副学長に講演して頂いた。また本年度は4年前に導入した教員任期制の最初の評価年となることから羽地教授による「任期制と業績評価」に関する講演もあわせて実施した。

本年度は大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センターが主催する種々の講演会やワークショップを本委員会共催として教職員の賦活に努めた。特に「医療系教育クラスターによる組織的大学院教育」のなかで実施された多種職連携教育(IPE)講演会は本学部の中期目標「TA/RA Development」の一環として位置づけ、全てのTA/RAの出席を義務付けた。

1. 第1回 歯学部FD講演会

日 時： 平成23年6月29日(水) 17:30~19:00

場 所： 歯学部4階 大講義室

参加者数：55名

実施内容：講演会

プログラム：講演会

演題1：東日本大震災における歯科医師の検視活動

講 師：徳島県歯科医師会・安田勝裕先生

演題2：東日本大震災の被災地での歯科診療支援

講 師：徳島県歯科医師会・永井浩美先生

演題3：徳島県医療救護班第5班活動報告—看護の立場から—

講 師：徳島大学病院看護部・柚友千寿看護師長



【安田勝裕先生】



【永井浩美先生】



【杣友看護師長】

2. 第2回 歯学部FD講演会 (教育講演会)

日 時： 平成23年7月21日 (木) 17:30~19:00

場 所： 歯学部4階 大講義室

参加者数：64名

実施内容：講演会

演題1：歯学部の行動計画とその方向性

講 師：徳島大学歯学部長 市川哲雄教授

演題2：科学研究費採択に向けて

講 師：徳島大学理事 (研究担当) 福井萬壽夫副学長

演題3：任期制と業績評価 (EDBも含めて)

講 師：徳島大学HBS研究部 羽地達次教授

3. 歯学教育スキルアップセミナー

日 時：平成23年4月27日 (水) 17:30~18:30

場 所：歯学部4階 大講義室

参加者数：52名

実施内容：講演会

講 師：徳島大学HBS研究部 松尾敬志教授

演 題：CBT試験問題作成法

4. 多職種連携教育講演会 (TA/RA Development)

日 時： 平成23年12月9日 (金) 18:00~20:00

場 所： 医学部青藍講堂

参加者数：31名

講 師：東京慈恵会医科大学教育センター 福島 統教授

演 題：多職種連携：見られ合う職場

7 平成24年度歯学部のFD活動

前年度まで伊賀委員長を中心にして行ってきた歯学部及び大学院口腔科学教育部のFD活動を今年度から羽地教授が引き継いだ。本年度は合計8回の講演会を実施した。特に学生教育関係の講演会を教務委員会と共催した。徳島大学パイロット事業支援プログラム(教育改革支援事業)「ノンテクニカルスキルの伝達を目指した医療人教育改善の取り組み」の支援を得た。CBTの問題作成に関して松尾教授に、客観的試験問題の作成に関して市川学部長にお願いした。研究費申請記載の注意事項に関して徳島大学産学官連携推進部の柳生勇教授にお願いした。また、暗黙知教育に関してその第一人者である松原教授と皆川准教授に講演をお願いした。教員採用試験合格率で全国一位を維持している鳴門教育大学から梅津正美教授と大石雅章教授の2名の副学長を招いてそのノウハウを伝授して頂いた。さらに正しい日本語のコミュニケーション能力なくしては外国語も、医学も、歯学も、薬学もないという発想のもと、NHK 徳島放送局アナウンサーの大嶋貴志氏に「相手に伝わる言葉のコツ」について実演をまじえて講演して頂いた。

1. 第1回FD講演会

日 時：平成24年5月15日(金) 17:30～18:30
場 所：歯学部4階 大講義室
演 題：採択されるCBT問題作成のコツ
講 師：徳島大学 HBS 研究部 松尾敬志教授
出席者：46名

2. 第2回FD講演会

日 時：平成24年6月15日(金) 17:00～18:30
場 所：歯学部4階 大講義室
出席者：61名
演題1：望ましい客観的試験問題の作成
講 師：徳島大学歯学部長 市川哲雄教授

演題2：研究費申請記載における注意事項について
講 師：徳島大学産学官連携推進部 柳生 勇教授

3. 第3回FD講演会

日 時：平成24年7月6日(金) 18:30～19:30
場 所：歯学部5階 共通講義室
演 題：暗黙知教育について考える ～マニュアルではなく心得～
講 師：新潟大学 社会連携研究センター 松原幸夫教授
出席者：14名

4. 第4回FD講演会

日 時：平成24年8月24日(金) 18:00～19:30

場 所：歯学部5階 共通講義室

テーマ：鳴門教育大学 教員就職率2年連続『全国1位』達成の秘訣を学ぶ
－鳴門教育大学における教師力の開発－

演題1：授業力の育成をめざす自己省察型教員養成プログラムの構想と展開

講 師：鳴門教育大学副学長（評価・外部資金担当）梅津正美教授

演題2：教師力の開発に資する就職支援のあり方

講 師：鳴門教育大学副学長（学生支援担当）大石雅章教授

出席者：15名

5. 第5回 FD 講演会

日 時：平成24年10月24日（水）17:30～18:30

場 所：歯学部3階 第1会議室

演 題：LMS 説明会 i-Collabo の使い方

講 師：徳島大学大開放実践センター 金西計英教授

出席者：9名

6. 第6回 FD 講演会

日 時：平成24年12月19日（水）17:30～19:00

場 所：歯学部5階 共通講義室

演 題：暗黙知による学びと認知的徒弟制

講 師：鳴門教育大学 皆川直凡准教授

出席者：19名

7. 第7回 FD 講演会

日 時：平成25年1月17日（木）17:00～18:00

場 所：歯学部4階 大講義室

演 題：相手に伝わる言葉のコツ

講 師：NHK 徳島放送局アナウンサー 大嶋貴志氏

出席者：70名



【大嶋貴志アナウンサー】



【教員の聴講風景】

8. 第8回 FD 講演会

日 時：平成 25 年 1 月 29 日（火）17:00～18:30

場 所：歯学部 5 階 共通講義室

演 題：学生臨床実習について考える ―よりよい実習を目指して

講 師：東京医科歯科大学歯学部附属病院 塩沢育己臨床教授

出席者：53 名

8 平成 25 年度歯学部の FD 活動

平成 25 年度も引き続き学生教育関係の講演会を教務委員会との共催で、徳島大学パイロット事業支援プログラム（教育改革支援事業）「英語による暗黙知教育と医療人教育のインテグレーション」の支援を得て開催した。今年度は日本における医学英語教育の第一人者である J. Patrick Barron 東京医大名誉教授と暗黙知教育の第一人者である松原教授と長嶋教授を招いて講演会を実施した。近年、マスメディアで氾濫する健康情報にどのように対応するかということが問題になっている。歯学部でもこの問題に真剣に取り組む必要があり、その道の専門家である福岡歯科大学の内藤教授を招いて講演して頂いた。さらに CBT の問題作成に関して松尾教授をお願いした。

1. 第 1 回 FD 講演会

日 時：平成 25 年 4 月 23 日（火）17:00～18:00

場 所：歯学部 4 階 大講義室

演 題：採択される CBT 問題作成

講 師：徳島大学 松尾敬志教授

出席者：42 名



【松尾敬志教授】



【講演会風景】

2. 第 2 回 FD 講演会

日 時：平成 25 年 6 月 21 日（金）18:30～19:30

場 所：歯学部 5 階 共通講義室

演 題：「歯道とは」

講 師：新潟大学産学地域連携推進機構 松原幸夫教授

出席者：20 名

3. 第 3 回 FD 講演会

日 時：平成 25 年 12 月 16 日（月）17:30～19:00

場 所：歯学部 5 階 共通講義室

演 題：暗黙知の獲得を支援する方法について－音楽の学習の理論に基づいて－

講 師：鳴門教育大学 長嶋真人教授

出席者：18 名

4. 第 4 回 FD 講演会

日 時：平成 26 年 1 月 15 日（水）17:30～18:30

場 所：歯学部 2 階 第 2 講義室

演 題：医療情報の落とし穴－EBM 入門－

講 師：福岡歯科大学 内藤 徹教授

出席者：38 名

5. 第 5 回 FD 講演会

日 時：平成 26 年 1 月 24 日（金）18:00～19:30

場 所：歯学部 5 階 共通講義室

演 題：The necessity and multifaceted role of in-house academic medical/dental English
communication centers in the 21st century

講 師：東京医科大学 J. Patrick Barron 名誉教授

出席者：24 名

9 歯学部 FD の歴史をふりかえって

歯科医師の臨床研修医義務化が検討される過程で、平成 10 年に第 1 回歯科医師臨床研修指導医ワークショップが行われた。歯学部からは平成 11 年の第 2 回ワークショップに松尾敬志教授が、平成 12 年の第 3 回ワークショップに中條信義教授が参加した。中條教授は平成 13 年の第 4 回ワークショップにタクスホースとして参加し、以後定年退職するまで FD 委員長として歯学部の FD 活動のリーダーとして活躍した。さらに平成 12 年に日本歯科医学教育学会主催で第 1 回歯科医学教育者ワークショップが開催され、本学から羽地教授が参加した。このように全国レベルでの教育改革のための FD ワークショップを経験した歯学部教員が増加して、歯学部でも平成 14 年度から始まった徳島大学 FD 推進プログラムに対応してきた。この経緯は 2008 年 4 月に刊行された「徳島大学 FD の歴史」の中條教授（現名誉教授）の項に詳しく述べられている。

平成 20 年度からは伊賀弘起教授を中心に歯学部 FD 活動が活発化した。特に新しく開設された口腔保健学科の教員も含めて歯学部の FD 活動が充実してきたように思える。連続して徳島大学パイロット事業支援プログラム（教育改革支援事業）の支援を受けて暗黙知教育に関する事業も周知され発展してきた。平成 24 年度からは羽地教授が FD 委員長になり、中條教授、伊賀教授のもとで発展してきた歯学部の FD 活動をさらに推進させている。FD 活動は最終的には学生の勉学をどのようにサポートするかにかかっている。いかに優秀な歯科医療従事者を世の中に送り出すかが歯学部の命題である。今後は過去の実績をより発展させ、かつ過去の反省に基づき FD 活動を改革してより良い教育に邁進したい。

薬学部 F D 実施報告と今後の課題

薬学部 FD 委員会委員長 山崎 哲男

1 全学 F D 第 3 期から第 4 期までの F D 実施報告

<平成 20 年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成 20 年 4 月 2 日（水） 9:30-12:00 薬学部多目的室

参加者：薬学部全教員

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり、以下の内容について薬学部全教員で検討した。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書の基づく改善計画について
- ・平成 20 年度薬学部専門科目時間割などについて
- ・学科配属および研究室配属について
- ・成績評価について
- ・担任制度・薬学入門 3 について
- ・薬学英語 1・薬学英語 2 の点数評価について
- ・早期体験学習について
- ・チーム医療教育実施(案)について
- ・医療生命薬学専攻「がん専門薬剤師コース」について

この研修では特に成績評価に関して従来以上に慎重に議論を行う必要があった。薬学部では、平成 20 年度に初めて学部 3 回生を対象とした学科振り分けが行われたためである。本人の希望に加え、3 回生前期までの成績でコースが左右されるため、学生の将来に直結する非常に難しい問題であった。選択科目の評価の取り扱いをどのようにするのか、など全教員で意見を交換し今年度の方針をまとめた。

2. 講演会

演題①：「学生相談から見える現代の学生の問題と今後の課題」

講師：徳島大学学生支援センター学生相談室 助教 的場みぎわ氏

演題②：「対応の難しい学生の悩みにいかに対処するか」

講師：京都文教大学臨床心理学部臨床心理学科 教授 高石浩一氏

日時・場所：平成 21 年 1 月 23 日（金）13:30-15:30 長井記念ホール

参加者：薬学部教員および事務職員（計 20 名）

研修目的・内容：

部局 FD 事業の一環として、「学生の悩みにいかに対処するか?」という題材で FD 研修会を開催した。学生の悩みに対処する心構え、近年の学生の気質などについて様々な観点から知識を得ることができた。今後の学生への対処を考える上で貴重な知見を得ることができた。

(以下集合研修)

1. 講演「米国ノースカロライナ大学薬学部における臨床薬剤師教育システムに関する視察・情報収集」

講師：病態神経薬学分野 助教 姫田敏樹氏

日時・場所：平成 20 年 5 月 28 日 (水) 18:00ー 薬学部第 2 講義室

2. 講演「第二回医学用語基礎知識～電子カルテについて～」

講師：臨床薬学教育支援室 学術研究員 (特任助教) 東桃代氏

日時・場所：平成 20 年 7 月 18 日 (金) 18:00ー 薬学部第 1 講義室

3. 講演「薬剤師～患者さんの心が分かり問題解決能力のある薬の専門家～」

講師：臨床薬学実務教育室 准教授 東満美氏

日時・場所：平成 20 年 10 月 28 日 (火) 18:00ー 薬学部第 1 講義室

4. 講演「サンフォード大学薬学部 (米国アラバマ州) における臨床薬剤師教育の視察・研修報告」

講師：創薬生命工学分野 助教 辻大輔氏、機能分子合成薬学分野 助教 重永章氏

日時・場所：平成 20 年 11 月 26 日 (水) 18:00ー 薬学部第 1 講義室

5. 講演「OSCE について」

講師：病態神経薬学分野 教授 荒木勉氏

日時・場所：平成 21 年 1 月 24 日 (土) 9:30ー 薬学部スタジオプラザ

6. 講演「スキルラボでの薬剤師に必要な臨床技能教育実習」

講師：臨床薬学教育支援室 学術研究員 (特任助教) 東桃代氏

日時・場所：平成 21 年 3 月 5 日 (木) 17:00ー 医学部共通講義棟スキルラボ室

(以下.GP 講演会)

1. 薬害被害者講演会

演題①：「副作用被害救済制度の利用促進について～被害体験から医薬系学生に望むこと～」

講師：全国薬害被害者団体連絡協議会 LIMR 被害児を救援する会 栗原敦氏

演題②：「陣痛促進剤の被害を事故事例から学ぶ」

講師：全国薬害被害者団体連絡協議会陣痛促進剤による被害を考える会 出元晴美氏

日時・場所：平成 20 年 5 月 9 日 (金) 13:00ー15:00 徳島大学大塚講堂

2. 緩和ケア

演題：「がんの時代に生きる～生活体験からヒューマニズムを学ぼう～」

講師：九州大学・名城大学 名誉教授 兼松顯氏

日時・場所：平成 20 年 5 月 23 日 (金) 13:00ー14:30 徳島大学薬学部第 1 講義室

3. 先駆的研究の面白さを先輩から聞こう!!

演題①：「糖尿病治療薬、アクトスの開発物語」

講師：武田薬品工業 杉山泰雄氏

演題②：「冬眠機構解明が寿命延長研究の扉を開く」

講師：玉川大学学術研究所 近藤宣昭氏

日時・場所：平成 20 年 10 月 16 日 (木) 13:00-15:00 徳島大学長井記念ホール

4. チーム医療の実践教育

演題：「チーム医療と医療機関職種間教育(IPD)の取り組み」

講師：千葉大学大学院看護学研究科 酒井郁子

日時・場所：平成 20 年 11 月 17 日 (月) 14:30-16:30 徳島大学長井記念ホール

<平成 21 年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成 21 年 4 月 2 日 9:30 - 12:00 薬学部多目的室

参加者：薬学部全教員

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり薬学部全教員に対する研修を行った。内容は以下のとおりである。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書の基づく改善計画について
- ・平成 21 年度薬学部専門科目時間割などについて
- ・学科配属および研究室配属について
- ・成績評価について
- ・担任制度・薬学入門 3 について
- ・薬学英語 1・薬学英語 2 の点数評価について
- ・早期体験学習について
- ・実務実習事前実習について

2. 講演「岡山大学における六年制薬学教育」

講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医薬管理学分野 准教授 北村佳久氏

日時・場所：平成 21 年 6 月 8 日 (月) 16:30-18:30 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 約 40 名

研修目的・内容：

薬学部では平成 21 年度より 6 年制学生に対する実務実習、事前学習が開始した。これらについて岡山大学薬学部の計画を紹介していただき、今後の学部の運営の参考にするという目的で本講演会を開催した。薬学教育に関する問題の共有化を図ることが出来た。

3. 講演「薬学部における教育と研究制度改革の間」

講師：崇城大学薬学部 教授 小田切優樹氏

日時・場所：平成 21 年 12 月 2 日 (水) 16:00-18:00 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 約 40 名

研修目的・内容：

六年制薬学教育の始まりにあたり、薬学部の教育と研究は大きな転換点に立った。今後の薬学部の在り方を考えるために崇城大学での取り組み事例の紹介をいただいた。薬学部における今後の教育と研究ということに関して有意義な意見交換の場を持つことができた。薬学部教員の参加率も高く、質疑応答も非常に活発であり、問題点の共有化を図ることができた。

<平成22年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成22年4月2日（金）9:00－10:30 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 42名

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり薬学部全教員に対する研修を行った。内容は以下のとおりである。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書に基づく改善計画について
- ・学科配属及び研究室配属日程について
- ・成績評価について
- ・クラス担任制度について
- ・薬学英語1・薬学英語2の成績評価について
- ・早期体験学習について
- ・平成22年度薬局実習指導について
- ・平成22年度薬学部講義日程について
- ・平成22年度薬学部新入生・担任について
- ・平成22年度薬科学教育部時間割について

2. 講演「徳島大学における教育の現状と課題、および薬学部への期待」

講師：前徳島大学理事（教育担当） 川上博氏

日時・場所：平成22年7月15日（木）17:00－19:00 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 42名

研修目的・内容：

第2期目標・計画などについて解説いただいた。薬学教育の現状を認識し、薬学教育のビジョンや今後の方策等を考えてゆく上で、大いに参考になるものであった。

3. 講演「耳を傾けてもらうための話し方」

講師：NHK 徳島放送局放送部副部長 高木康博氏

日時・場所：平成22年9月2日（木）16:30－18:55 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 46名

研修目的・内容：

報道番組等における同氏の中継場面(DVD 視聴)をもとに、内容に興味を抱かせる工夫、耳を傾けてもらうための話し方等について、懇切丁寧に指導いただいた。音の高さ、間の長さ、話す速さ、声の大きさ、文の長さ、体言止めや倒置の工夫など、講義やプレゼンター

ションなど人前で話す場面全般において大変参考になる貴重な話であった。

<平成23年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成23年4月4日（月）10:00－11:30 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 38名

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり薬学部全教員に対する研修を行った。内容は以下のとおりである。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書に基づく改善計画について
- ・学科配属および研究室配属日程について
- ・成績評価について
- ・担任制度について
- ・薬学英語1・薬学英語2の成績評価について
- ・平成23年度薬局実習指導について
- ・平成23年度薬学部講義日程について
- ・平成23年度薬学部新入生・担任について
- ・平成23年度薬科学教育部時間割について

<平成24年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成24年4月3日（火）10:00－11:30 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 41名

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり薬学部全教員に対する研修を行った。内容は以下のとおりである。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書に基づく改善計画について
- ・学科配属および研究室配属日程について
- ・成績評価について
- ・担任制度について
- ・薬学英語1・薬学英語2の成績評価について
- ・平成24年度薬局実習指導について
- ・平成24年度薬学部講義日程について
- ・平成24年度薬学部新入生・担任について
- ・平成24年度薬科学教育部時間割について
- ・大学院博士後期課程（新カリキュラム）・博士課程での複数指導体制について

2. 講演「薬剤師の現状とこれからの展望」

講師：(有) ブルークロス代表取締役 池澤幸朗氏

日時・場所：平成24年11月8日（木）17:30－18:50 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 24名

研修目的・内容：

高知県発の全国でも注目を受けているブルークロス調剤薬局の薬剤師教育プログラムについて学ばせていただいた。質の高い医療の提供を実現するために、会社が薬剤師の知識面のみならず社会的教育にも尽力している点に感銘を受けた。

3. 専門分野別 FD 研修会 (大学間連携共同推進事業)

日時・場所：平成 24 年 12 月 17 日—26 日 サンポート高松、徳島大学薬学部

参加者：本学、徳島文理大学、徳島文理大学香川校、松山大学 薬学部教職員 47 名

研修目的・内容：

大学教員の教育能力を向上させるため、四国にある 4 つの薬学部 (徳島大学薬学部、徳島文理大学薬学部、徳島文理大学香川薬学部、松山大学) 合同の研修会を開催した。講義や実習上での工夫や問題点について専門分野ごとに報告会を行った。共通の問題点等も多く、それらの改善に向け大学の枠を超えて検討できたことは非常に有意義であった。

4. 薬剤師教育に関する国際フォーラムディスカッション

日時・場所：平成 25 年 2 月 11 日 (火) 13:00—18:00 長井記念ホール

演題：「Pharmacist Education in Italy(1)」

講師：Dr. Emanuela Corsini (Univ. Milan)

演題：「Pharmacist Education in Italy(2)」

講師：Dr. Angelo Sala (Univ. Milan)

演題：「Pharmacist Education in India」

講師：Dr. Pulok Kumar Mukherjee (Jadavpur Univ.)

演題：「Pharmacist Education in The University of Tokushima」

講師：Dr. Shinji Abe (Univ. Tokushima)

演題：「Reform of pharmacy education through regional cooperation in Shikoku area」

講師：Dr. Koichiro Tsuchiya (Univ. Tokushima)

参加者：薬学部教職員 31 名

研修目的・内容：

講師の方々の国、および勤務校における薬剤師養育カリキュラムとその実情について講演していただいた。国によって様々な制度が存在しており、カリキュラムも多様であった。今後の制度を考えるにあたり、大変有意義な会となった。

<平成 25 年度>

1. 薬学部 FD 研修会

日時・場所：平成 25 年 4 月 2 日 (火) 10:00—10:55 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員 43 名

研修目的・内容：

新年度の開始にあたり薬学部全教員に対する研修を行った。内容は以下のとおりである。

- ・教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査報告書に基づく改善計画について
- ・学科配属および研究室配属日程について
- ・成績評価について
- ・担任制度について
- ・薬学英语 1・薬学英语 2 の成績評価について
- ・出席状況が良好でない学生に対する指導手順について
- ・平成 25 年度薬局実習指導について
- ・平成 25 年度薬学部講義日程について
- ・平成 25 年度薬学部新入生・担任について
- ・平成 25 年度薬科学教育部時間割について
- ・大学院博士後期課程（新カリキュラム）・博士課程での複数指導体制について
- ・博士学位申請要件等について

2. 講演「医療人養成教育－医学教育からのヒント」(大学間連携共同教育推進事業)

講師：岐阜大学医学教育開発センター 教授 藤崎和彦氏

日時・場所：平成 25 年 9 月 25 日 (水) 16:00－17:30 松山大学薬学部

参加者：薬学部教職員および学生 17 名

研修目的・内容：

昨今の医学教育改革の流れから、今後の医療人養成の課題と方向性を展望した。医学教育の最先端の話題はアウトカム基盤型教育、シミュレーション医学教育、プロフェッショナルリズム教育、ポートフォリオ評価、国際的認証であり、この基盤には成人学習理論の進展が大きく影響している。これらを詳細に学ぶことで今後の薬学教育の在り方を具体的に考察することができた。

3. 講演「昭和大学における医療人養成を目的とした薬学教育改善の試み」(大学間連携共同推進事業)

講師：昭和大学薬学部 教授 中村明弘氏

日時・場所：平成 25 年 11 月 7 日 (木) 16:00－17:30 松山大学薬学部

参加者：薬学部教職員 7 名

研修目的・内容：

薬学教育が 4 年制から 6 年制に延長した本来の目的は、実践的臨床能力を身に付けさせること、であるが、これまで本当に達成できているのか疑問が残っている。今回は、『卒業時の到達目標（学習成果）を設定し、それを達成できるようにカリキュラムを含む教育全体をデザインする教育法』である学習成果基盤型教育や、昭和大学で行われている学部関連のチーム医療学習について詳細に教授いただいた。

4. 講演「地域連携を通じた学生教育の仕組みづくりについて」

講師：高知大学副学長（国際・地域連携センター長） 受田浩之氏

日時・場所：平成 25 年 11 月 14 日 (木) 17:00－18:30 薬学部多目的室

参加者：薬学部教職員および学生 37名

研修目的・内容：

学外の優れた教育改善の取り組み事例を全教職員が共有することによって自らの教育改善に生かしていくことを目的として行った。国際・地域連携に向けた同氏の非常に斬新なアイデアと、それを実行するに至った経緯、その成果と今後の構想についてお話を伺った。スケールの大きな話ばかりで、それらを実現させてこられた氏の手腕に敬服した。

5. 専門分野別 FD 研修会 (大学間連携共同推進事業)

日時・場所：平成 25 年 9 月 22 日ー平成 26 年 2 月 8 日 松山大学薬学部、徳島文理大学薬学部、サンポート高松

参加者：本学、徳島文理大学、徳島文理大学香川校、松山大学 薬学部教職員 47名

研修目的・内容：

大学教員の教育能力を向上させるため、四国にある 4 つの薬学部 (徳島大学薬学部、徳島文理大学薬学部、徳島文理大学香川薬学部、松山大学) 合同の研修会を開催した。講義や実習上での工夫や問題点について専門分野ごとに報告会を行った。

6. 薬学部国際シンポジウム「地域から始まる創薬と薬学教育 ～生薬と生物多様性、そして地域医療への展開～」

(講演)

演題：「Uzbekistan: traditionally used medical plants、 natural product research and drug development」

講師：Dr. Nilufar Mamadalieva (Academy of Science、 Uzbekistan)

演題：「Searching bioactive compounds from Kalimantan forest」

講師：Dr. Subagus Wahyuono (Gadjah Mada Univ.、 Indonesia)

演題：「Integrated approaches for globalization of traditional/herbal medicine」

講師：Dr. Pulok Mukherjee (Jadavpur Univ.、 India)

演題：「The regulatory framework for products containing botanicals in the EU」

講師：Dr. Patrizia Restani (Univ. Milan、 Italy)

演題：「Towards Mechanism-based Translational Strategies for Adverse/Idiosyncratic Drug」

講師：Dr. Nico Vermeulen (Vrije Univ. Amsterdam、 Netherlands)

演題：「Partnerships and AHECs: Educating Pharmacy Students in Practice」

講師：Dr. Philip Rodgers (Univ. North Carolina、 USA)、

日時・場所：平成 26 年 1 月 12 日 (日) 10:00ー18:30 長井記念ホール

参加者：薬学部教職員および学生

研修目的・内容：

古来より世界各地で伝承されてきた生薬に関する研究は、資源保有国と研究開発知識国および技術保有国間の利権調整、生物多様性保全のための国際取引規制、資源供給地域の過疎化・高齢化など様々な問題に直面している。これらの課題に関わる6カ国の薬学研究者らを招き、地域を基盤とした新しい創薬研究と薬学教育について講演、討論会を行った。

2. FD推進プログラム第1期～第4期（平成14年度～平成25年度）の総括

薬学部FD事業は薬学教育改革とともに歩んできたといっても過言ではないだろう。平成18年度に薬学教育は大きな転機を迎えた。より良質な薬剤師、および薬学研究者を育成するため、薬学部では従来（4年制のみ）の課程から薬剤師養成コース（6年制）と薬学研究者養成コース（4年制）の2つの教育課程が併設する新制度が開始したのである。薬剤師養成コースは、医薬分業の進展や高度化・複雑化・多様化し続ける医療に対応できる、知識、教養、臨床応用力、問題解決能力を持った薬剤師の育成を目的としている。薬学研究者養成コースでは、研究に必要な知識や応用力、思考力を持った基礎薬学研究者、創薬学研究者を養成することを目的とする。それらの実現にあたっては、現在の臨床現場の実態と薬学部の将来の理想像、そしてそれらのギャップを全教員が明確に認識し、その上で理想の実現に向けた現実的な改革を進めていく必要があった。そのため本学部では第1期に、既存の教育システムの問題点を明確にするためのワークショップをFD事業として開催した。教員間で予想以上に活発な意見交換が行われ、これは新制度の基盤整備に大きく寄与したと思われる。続いて第2期は新体制がスタートした時期でもあったため、高度な薬剤師を輩出するシステムの構築を主眼とした活動を精力的に行った。教員を派遣し薬学教育先進国である欧米の視察を行い、「薬剤師に対する社会的ニーズ」の具体像を周知するための研修も実施した。第3期には、初の学科振り分けや6年制学生の臨床実務実習が行われた。それらに伴い、薬局や病院の薬剤師の現状、実態をより詳細に認識する必要性が示唆され、様々な研修を行った。先の研修と合わせ、欧米との違いや問題点を考察し教育改革に反映させる足がかりを得ることができた。そして新制度が定着した第4期には、良質な人材輩出を主眼とした活動を精力的に行った。グローバルな視点を持つ薬学生の育成のため国際シンポジウムを開催し、世界の薬学教育の現状や薬学研究について教員、学生ともに学ぶ機会を設けた。また、文部科学省の大学間連携共同推進事業で他大学の薬学部とも連携し、より高度な教育制度の実現に向けて活動を続けている。こういったFDの様々な活動を通して教員の意識の共有化も図ることができた。特に、これまで臨床現場に接する機会が少なかった教職員も、より一層積極的に制度計画へ参加しうる環境を整えることができた。

さて、新教育課程開始から早くも9年目を迎えた。改革の目的に対する到達度を把握し、現制度の問題点を検証、改善する段階が来ている。その中で先日、薬学部生は他の医療関係の学部生と比較して圧倒的に自学自習の取り組みが悪いというアンケート結果が出た。これを見るだけでも、国民のニーズに合う『良質』な人材育成に成功しているとは言い難い。同じく医療に関わろうとする者として薬学部生の学習量が極端に低いという事は、現場に出た後の能力の差が大きくなることに直結するであろう。今後の課題の一つとして、医療人としての自覚や意識を身に着けさせる教育体制を教員全体で学ぶ必要を感じる。

工学部 FD 実施報告と今後の課題

工学部 FD 委員会委員長 下村 直行

大学におけるFD活動については、平成18年度に大学院に対して義務化され、そして平成20年度には学士課程に対しても義務化されている。工学部におけるFD活動は、すでに平成11年度に工学部FD懇談会が組織されて本格的に開始され、平成13年度には工学部FD委員会に発展して継続されてきた。その後平成18年度に大学院先端技術科学教育部についても所掌することが定められた。一方、平成14年度から組織的、実践的全学FDの推進が始められている。この第3期と第4期にあたる平成20年度から平成25年度の工学部のFD活動の実績をここにまとめ、そして第1期から第4期の活動を総括する。

1. FDプログラム第3期・第4期の活動

徳島大学工学部における平成20年度から平成25年度のFD活動の要点を年度を追って以下にまとめる。なおそれぞれの内容の詳細については、毎年工学部が発行しているFD研究報告書を参照されたい。

【平成20（2008）年度】

授業評価アンケートの見直しが図られた。工学部で検討を行い、全学と連携して共通アンケート項目を設定している。また、一昨年に策定した授業評価システムの基本方針に基づいて、前年度に学生授業評価および教員相互授業評価の具体的な個別方針が策定されている。これに基づき各学科で学生授業評価アンケート、教員相互授業評価が行われた。

習熟度別の学生指導に関するFD活動をテーマとして研究がなされた。各学科で集計された習熟度別の学生指導の試みを、「工学教育シンポジウム2009（SEE2009）」において意見交換・情報共有を行い、教育改善活動に努めた。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

【FD委員会】

日程	議 題
平成20年 5月1日	(メール会議) 1) 学部、大学院の授業評価アンケートの改訂と実施について
5月13日	1) 平成20年度FD委員会(工学部・大学院教育部)の活動計画について 2) その他
6月13日	1) 平成20年度FD講演・討論会の開催計画について
7月11日	1) 平成20年度FD講演・討論会の開催計画について 2) 授業評価アンケートについて

9月22日	(メール会議) 1) 平成20年度FD講演・討論会の開催計画について 2) 平成20年度部局FD事業実施計画書の提出について
10月9日	1) 第二期中期目標・中期計画について
11月13日	1) 工学教育シンポジウム (SEE2009) について
12月11日	(議題なし)
平成21年 1月15日	1) ティーチングライフに関するアンケート結果分析(案)について 2) 授業評価アンケートの共通設問の見直しについて 3) 工学教育シンポジウム (SEE2009) について 4) FD研究報告書について
2月12日	1) 工学教育シンポジウム (SEE2009) について 2) 授業評価アンケートの共通設問の見直しについて

[FD講演討論会]

日程	講師	演題
平成20年 9月2日	岡山大学教育開発センター 橋本勝氏	FD活動の本質と効果: 多人数ゼミに見る学生の主体性
9月27日	電気関係学会四国支部連合大会との共催	教育シンポジウム 「電気電子工学教育の現状と課題」
9月27日	ハルビン工業大学 張欽宇氏	中国経済特区深圳における大学の役割
10月22日	㈱いろどり 横石知二氏	人は誰でも主役になれる
12月15日	名古屋工業大学 小山由紀江氏	工学部の英語教育— 一般英語から専門英語への橋渡し —

[工学教育シンポジウム 2009 (SEE2009)]

日時: 平成21年3月10日 13:00~17:45 場所: 工業会館2階 メモリアルホール

発表者	演題
上月康則 (建設工学科)	環境配慮行動の習慣化を目指した環境家計簿を活用した講義方法について
小西克信 (機械工学科)	機械工学科における教員相互授業評価について
平野朋広 (化学応用工学科)	演習授業における習熟度別学習指導の試み
川上烈生 (電気電子工学科)	電気電子工学科における新入生の学業実態 -アンケート分析-
得重仁 (知能情報工学科)	知能情報システム工学輪講および演習
長宗秀明 (生物工学科)	授業評価システムとKJワークショップによるFDの取り組み
陶山史朗 (光応用工学科)	JABEE 継続審査を終えて
岡本邦也 (工学基礎教育センター)	Moodle を用いた e-Learning の試験的实施と検証
八房智頭 (エコシステム工学コース)	地方の一次産業振興と自然環境の保全に関する学外実習の取り組み
続木章三 (創成学習開発センター)	サイエンス・エンジニアリングクラブ構想について
英崇夫 (創成学習開発センター)	工学教育の連携 ~これまでとこれから~

勅使河原三保子 (国際連携教育開発センター)	工学教員に対する英語支援
嵯峨山和美 (高度情報化基盤センター)	学生力育成のための SNS 推進プロジェクト ～キャンパス SNS「さとあい」を活用したキャリア開発支援～

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FD ファシリテータ養成研修	平成 20 年 6 月 21 日 ～ 22 日	淡路青少年交流の家	教員 13 名 (工学部 2 名) 事務職員 2 名 その他 8 名	FD ファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
授業コンサルテーション・授業研究会			大学教員	授業映像による授業改善のためのコンサルテーション
FD ラウンドテーブル	平成 20 年 5 月 22 日 7 月 4 日 11 月 28 日 平成 21 年 3 月 13 日	授業研究インテリジェントラボ	大学教員	英国 FD 研修視察報告、学生と教員の外国語能力向上に向けて、自己主導型学習の促進、POD/NCSPD 報告
FD とくとかセミナー	平成 20 年 8 月 29 日 9 月 5 日 9 月 26 日	授業研究インテリジェントラボ	大学教員	自主学習の事例紹介、PPT の使い方 (入門編、) 理系授業の進め方、大人数授業の方策、クリッカーの賢い使い方、授業評価の工夫
徳島大学教育カンファレンス	平成 21 年 1 月 21 日	大学開放実践センター	大学教員 工学部・高度情報化基盤センターから 17 名	本学で行われている教育実践の先駆的な取り組みの発表による共有
大学教育研究ジャーナル第 6 号へ寄稿				学部・センターから研究論文 1 編、報告 2 編

[優秀教員の表彰]

建設工学科	橋本親典 教授	生物工学科	友安俊文 准教授
機械工学科	西野秀郎 准教授	光応用工学科	山本裕紹 助教
化学応用工学科	平野朋広 准教授	工学基礎教育センター	中村浩一 講師
電気電子工学科	四柳浩之 准教授	エコシステム工学コース	八房智顯 講師
知能情報工学科	光原弘幸 講師		

[教職員のFD活動成果]

論文発表 (33 件)、講演発表 (4 件)

【平成 21 (2009) 年度】

授業評価アンケートの見直しが継続して実施された。実施結果についても、集計結果が教員にフィードバックされて授業改善を促し、またホームページで公開された。教員相互授業評価について全学科等で実施された。また、習熟度別の学生指導に関する FD 活動をテーマとして研究も継続された。「新入生導入教育」、「デザイン教育」、「プレゼンテーション教育」に関連したFD活動が各学科で実施された。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

[FD委員会]

日程	議 題
平成 21 年 4 月 10 日	1) 平成 21 年度 FD 委員会 (工学部・大学院教育部) の活動計画について 2) 平成 21 年度特別教育研究経費(教育改革)による部局 FD 事業計画の申請について 3) その他
5 月 7 日	1) 中期目標中期計画の平成 21 年度計画について 2) 平成 21 年度特別教育研究経費(教育改革)による部局 FD 事業計画の申請について 3) 授業改善のためのアンケート改訂について
5 月 14 日	(メール会議) 1) 授業改善アンケートの設問追加についての再改訂(案)について
6 月 4 日	1) 2009 年度教育力開発基礎プログラム・大学院生参加者推薦について 2) 平成 21 年度 FD 委員会 (工学部・大学院教育部) の活動計画について
7 月 2 日	1) 2009 年度教育力開発基礎プログラム・大学院生参加者推薦について
9 月 3 日	1) FD 事業計画(全学：後期分)の申請について 2) 工学部 FD 事業計画の申請について 3) 第 2 期中期目標・中期計画に基づく年度計画等の策定について 4) 平成 21 年度参与会議・参考資料作成について 5) 徳大広報 No.138 の特集記事について
9 月 4 日	(メール会議) 1) 第 2 期中期目標・中期計画に基づく年次計画(案)の工学部版について
10 月 1 日	1) 第 1 回工学部 FD 講演会の開催について 2) 学生授業評価アンケートのとりまとめについて 3) 平成 21 年度分年度計画の 10 月報告について 4) 工学部平成 22 年度 FD 年次計画について
11 月 4 日	1) 大学院留学生用の学生授業評価アンケート英語版(案)について 2) FD 講演会の開催・補助について 3) 第 4 回国際シンポジウム「GDDP の展開」の共催について

	4) 「教育力開発基礎プログラム」、「授業コンサルテーション・授業研究会」について
12月4日	1) 大学院留学生用の学生授業評価アンケート英語版(案)について 2) 創成学習開発センター主催の遠隔通信による合同講演会の開催について
平成22年 1月7日	1) 工学教育シンポジウム2010の開催日程について 2) 各学科等のFD活動状況について 3) FD研究報告書の冊子作成について
2月4日	1) 教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査における共通設問(案)について 2) 工学教育シンポジウム(SEE2010)について 3) FD研究報告書について 4) 授業評価アンケートのとりまとめについて 5) FD講演・討論会について工学教育シンポジウム2010の開催日程について
3月17日	1) 授業評価アンケートの改訂について 2) 平成21年度後期分授業評価アンケートの分析について

[FD講演・討論会]

日程	講師	演題
平成21年 12月10日	大阪府立工業高等専門学校 北野健一氏	あなたは普段どのように教えていますか ～ティーチング・ポートフォリオの紹介
12月11日	立命館大学 神藤貴昭氏	FDをどう考えるか
平成22年 1月20日	広島国際学院大学 間田泰弘氏	技術立国における普通教育の中の技術教育
2月12日	京都大学 田口真奈氏	ICTを活用した大学授業改善
2月19日	大塚製薬工場 久保秀治氏	企業における環境対策とこれからの環境教育

[その他のFD活動]

プログラム名等	日程	会場	概要等
The Fourth International Symposium: Development of the Global Double Degree Program	平成21年 12月14日 ～15日	工学部工業 会館 メモリ アルホール	ダブルディグリー制度の運用状況、課題点、発展性などについて議論と意見交換

[工学教育シンポジウム2010(SEE2010)]

日時：平成22年3月10日 13:00～17:05 場所：工業会館2階 メモリアルホール

発表者	演題
渡辺公次郎(建設工学科)	学生サークル活動による建築教育の試み
清田正徳(機械工学科)	機械工学科における習熟度別授業の取り組み
西内優騎(化学応用工学科)	演習授業における習熟度別学習指導
西野克志(電気電子工学科)	電気電子工学科基礎科目における再履修生を対象とした授業の試み
寺田賢治(知能情報工学科)	新入生導入教育 一知能情報工学科新入生研修会一
間世田英明(生物工学科)	授業評価システムとFDワーキンググループの活動報告

河田佳樹 (光応用工学科)	卒業研究におけるデザイン教育・プレゼンテーション教育の改善と充実に向けた取り組み
川崎祐 (工学基礎教育センター)	工業物理学実験の授業改善に向けての取り組みについて
佐藤克也(エコシステム工学コース)	大学院博士前期課程における体験型環境教育の試み
続木章三 (工学部創成学習開発センター)	サイエンス・エンジニアリングくらぶ設立に向けての取り組み
Walter Carpenter (国際連携教育開発センター)	1 分間でできる英語教育活動

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FD ファシリテータ養成研修 (合宿ワークショップ研修)	平成 21 年 6 月 27 日 ～28 日	淡路青少年 交流の家	教員 13 名 (工学部 2 名)、 SPOD 東四国教員 11 名、 運営スタッフ等 10 名	FD ファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
教育力開発基礎プログラム	平成 21 年 8 月 10 日 ～ 11 日	徳島大学共 通教育 6 号 館 201 室	教員 18 名 (STS 研究部 4 名)、 大学院学生 3 名 (STS 研究部 3 名)、運営スタッフ等 12 名	FD 活動の理念・活動計画の理解、授業設計や授業研究法の体得・実践、仲間作り
FD ラウンドテーブル	平成 21 年 5 月 28 日 7 月 22 日 11 月 13 日 平成 22 年 1 月 22 日	授業研究イ ンテリジェ ントラボ 大学開放実 践センター 201 室	大学教員	「ティーチングライブ」調査とこれからのFD活動、学生ワーキンググループによる教育改善、大学の内部質保証とアカデミックポートフォリオ、組織横断型教育クラスターによる大学院教育改革
授業コンサルテーション・授業研究会	平成 21 年 6 月 22 日 9 月 2 日 12 月 16 日		大学教員	録画された授業映像を用いた授業改善のためのコンサルテーション
FD とくとかセミナー	平成 21 年 8 月 28 日 9 月 4 日 9 月 18 日 9 月 25 日	授業研究イ ンテリジェ ントラボ	大学教員	Significant Learning を目指す授業設計、学習意欲を高める工夫 身体教育の再考、 「学務系職員養成プログラム開発」現状報告
大学教育カンファレンス in 徳島	平成 22 年 3 月 3 日	大学開放実 践センター	大学教員 工学部・高度情報化基盤	本学で行われている教育実践の先駆的な取り組み

			センターから 17 名	組みの発表による共有
大学教育研究ジャーナル第 7 号				学部・センターから研究論文 2 編、報告 3 編

[優秀教員の表彰]

建設工学科	鎌田磨人 教授	生物工学科	湯浅恵造 助教
機械工学科	岡田達也 教授	光応用工学科	陶山史朗 教授
化学応用工学科	森賀俊広 教授	工学基礎教育センター	大野 隆 教授
電気電子工学科	島本 隆 教授	エコシステム工学コース	木戸口善行 教授
知能情報工学科	最上義夫 准教授		

[教職員のFD活動成果]

国内講演発表 (18 件)、国際講演発表 (15 件)、論文発表 (3 件)

【平成 22 (2010) 年度】

年次計画を「学生の修学意欲を高め、教育の質の向上を図るため、教職員の職能開発としての FD・SD 講演会、研修会を実施するとともに、その課題を抽出し、改善を図る」のように定め、トップダウン的に実施されてきた FD を現場の実情にあわせて改良し、あるいは取捨選択して、運営・実行されることを目指した。

平成 22 年度大学生の就業力育成事業に「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」が採択されたことで、キャリア教育に関連した FD 活動が本格化した。

授業評価アンケートの見直しが継続して実施されるとともに、Double Degree プログラムに対応が図られた。習熟度別の学生指導に関する FD 活動をテーマとした研究も各学科で継続されている。また e-learning の教育効果の検証も進められている。加えて、総合技術センターの技術職員も工学部の FD 活動に参加することになり、教職員間での連携が進んでいる。SD を区別せず FD 活動に含めた形で行うことは、実践的であり大学における FD 活動の正常な進化と言える。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

[FD委員会]

日 程	議 題
平成 22 年 4 月 13 日	1) 平成 22 年度特別教育研究経費(教育改革)による部局FD 事業計画の申請について 2) 大学院用授業評価アンケート英語版の改訂(案)について 3) 本年度の FD 活動計画の作成について 4) FD 講演・討論会の開催について
5 月 20 日	1) 平成 22 年度各学科等の活動計画(案)について 2) 授業評価アンケートの改訂(案)について
6 月 30 日	(メール会議) 1) 国際シンポジウムの共催について
9 月 9 日	1) 平成 22 年度特別教育研究経費(教育改革)による部局FD 後期事業計画の申請について 2) 各学科等の FD 活動状況報告について

10月25日	(メール会議) 1) 国際シンポジウムの共催について
11月8日	(メール会議) 1) 授業評価アンケートの分析等について
11月24日	1) 工学教育シンポジウム 2011 の開催について 2) 平成 22 年度 FD 研究報告書の作成について 3) FD 講演会の開催について
平成 23 年 1月13日	1) 工学教育シンポジウムの実施及び FD 報告書の作成について 2) 教育の成果・効果を検証するためのアンケート調査について 3) 平成 23 年度委員会活動等における必要見込み経費申請について
3月2日	1) FD 講演・討論会について 2) 平成 22 年度各学科等の FD 活動について 3) 平成 22 年度後期分授業評価アンケートの集計について 4) 「年度計画」(全学版)に関する最終評価(3月評価)の回答(案)について

[FD講演・討論会]

日程	講師	演題
平成 22 年 8月2日	Rhein Main University of Applied Sciences、 Ursula Pfeier 氏	ドイツにおける高等教育の現状と Rhein Main University の取り組み
平成 23 年 3月28日	京都大学 宮野公樹氏	より良い研究室内コミュニケーションづくり ~ 調査結果と事例から~

[その他のFD活動]

プログラム名等	日程	会場	概要等
The Fifth International Symposium: Development of the Global Double Degree Program (GDDP)	平成 22 年 8月6日	徳島大学新蔵キャンパス日亜会館	ダブルディグリー制度の運用状況、課題点、発展性などについて議論と意見交換
総合技術センターFD・SD講習会	11月26日	共通講義棟 K301	技術職員、教員、学生の技術向上
ACEE (第2回工学教育に関するアジア会議) 2011 実行委員会			表記会議の開催協力
工学部創成学習開発センター講演会	平成 23 年 2月4日	工業会館メモリアルホール	岡山大学 則次俊郎氏 社会との連携を通じた制御工学教育 IHI 村上晃一氏 企業における研究開発と人材育成の実際ーロボット分野の応用開発を例にしてー

[工学教育シンポジウム 2011 (SEE2011)]

日時：平成 23 年 3 月 4 日 13:00~16:40 場所：共通講義棟 K201

発表者	演題
-----	----

山中英生 (建設工学科)	建設工学科3年生キャリアプラン演習での将来設計と研究室配属について
清田正徳 (機械工学科)	機械工学科における習熟度別授業
西内優騎 (化学応用工学科)	化学応用工学科での習熟度別授業について
高田篤 (電気電子工学科)	通信工学関連科目における教育内容について
辻明典 (知能情報工学科)	知能情報工学科における教育用電子計算機及びシステム実験の取り組み
宇都義浩 (生物工学科)	生物工学科における FD ワーキンググループ活動
森篤史 (光応用工学科)	可視光通信の実習とデモンストレーション
岡本邦也 (工学基礎教育センター)	Moodle を用いた e-Learning の改善事例 ~導入と検証~
堀内加奈 (エコシステム工学コース)	FD・SD としての新人技術職員の教育プログラムの実施
源貴志 (工学部創成学習開発センター)	日垂 STC 初年次の取り組みと課題 ~ものづくり演習を通じた学生の変化~
Walter Carpenter (国際連携教育開発センター)	Learning English Vocabulary: A New Strategy
桑原稔 (総合技術センター)	光応用工学科における「ものづくり教育」への取り組み
小田育稔 (総合技術センター)	知能情報工学科の就職支援と企業の求める人材像

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FDファシリテータ養成研修(合宿ワークショップ研修)	平成22年 6月19日 ~20日	淡路青少年交流の家	教員12名(工学部2名) SPOD 東四国教員6名 運営スタッフ等12名	FDファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
教育力開発基礎プログラム	平成22年 8月20日 ~21日	徳島大学共通教育6号館201室	教員30名(工学部12名) T-SPOD 教員2名 運営スタッフ等15名	授業設計と教育技術について、シラバスと授業計画の作成、模擬授業を通して理解する
授業コンサルテーション・授業研究会		授業研究インテリジェントラボ	大学教員 授業対象となった工学部教員は8名	録画された授業映像を用いた授業改善のためのコンサルテーション
FD・SD セミナー	平成22年 5月14日 7月2日 11月19日	授業研究インテリジェントラボ	大学教員	徳島大学でICTを活用した授業を始めるためには聴衆応答システム(クリッカー)の実践入門 心底からの教育—青は藍より出でて藍より青し—
大学教育カンファレンス in 徳島	平成23年 3月3日	大学開放実践センター	大学教員 工学部・高度情報化基	本学で行われている教育実践の先駆的な取り

			盤センターから 17 名	組みの発表による共有
--	--	--	--------------	------------

[優秀教員の表彰]

建設工学科	上田隆雄 教授	知能情報工学科	鈴木基之 准教授
機械工学科	長町拓夫 講師	光応用工学科	仁木 登 教授
化学応用工学科	加藤雅裕 准教授	工学基礎教育センター	水野義紀 教授
生物工学科	田端厚之 助教	エコシステム工学コース	佐藤克也 教授
電気電子工学科	北條昌秀 准教授		

[教職員のFD活動成果]

国内講演発表 (6 件)、国際講演発表 (1 件)、論文発表 (7 件)

【平成 23 (2011) 年度】

年次計画を「学生の修学意欲を高め、教育の質の向上を図るため、教職員の職能開発としての FD・SD 講演会、研修会を実施するとともに、その課題を抽出し、改善を図る」のように定め、さまざまなレベルでの自発的取り組みを通じて抽出された課題が全教職員に共有され、教育の改善につながっていくことを期待した。

「キャリア教育」や「知的財産権活用教育」の新しい視点からの FD 活動が行われ始めた。また工学部らしくものづくりに関するものや、サマースクールに関するもの、それから大学院教育の実質化を目指した活動が行われた。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

[FD委員会]

日程	議 題
平成 23 年 4 月 26 日	1) 平成 23 年度 FD 活動計画の作成について 2) 授業評価アンケートの設問項目について
4 月 28 日	(メール会議) 1) FD 講演・討論会の開催について
5 月 25 日	1) 平成 23 年度各学科等の活動計画(案)について
7 月 7 日	(メール会議) 1) 国際シンポジウムの共催について
7 月 15 日	(メール会議) 1) キャリア教育科目に対するアンケートについて
11 月 2 日	(メール会議) 1) 授業評価アンケートの分析等について
11 月 18 日	(メール会議) 1) FD 講演会の開催について
12 月 14 日	1) アンケート調査における共通設問について 2) 工学教育シンポジウム 2012 の開催について 3) 平成 23 年度 FD 研究報告書の作成について 4) 平成 24 年度年度計画について
平成 24 年 1 月 11 日	(メール会議) 1) 平成 24 年度委員会活動等における必要経費申請について
1 月 17 日	(メール会議) 1) 総合技術センターFD・SD 講習会について

2月9日	(メール会議) 1) シンポジウムの共催について
2月9日	(メール会議) 1) シンポジウムの共催について
2月22日	(メール会議) 1) FD・SD 講演会について
3月8日	(メール会議) 1) 平成23年度「年度計画」に関する最終評価の回答(案)について
3月16日	1) 大学院生へのアンケートについて

[FD講演・討論会]

日程	講師	演題
平成23年 6月14日	群馬高専 平靖之氏	高専からの工学部3年次編入及び専攻科からの大学院進学の実状と課題
11月28日	千葉工業大学 谷本茂明氏	モダンプロジェクトマネジメントとPJBLについて
平成24年 3月13日	愛媛大学 大竹奈津子氏	大学院生の能力開発(TAD)の実状と今後の動向 ～愛媛大学及び他大学の事例を通して～

[その他のFD活動]

プログラム名等	日程	会場	概要等
The Sixth International Symposium on Global Engineering Education	平成23年 8月5日	徳島大学新蔵キャンパス日亜会館	ダブルディグリー制度の運用状況、課題点、発展性などについて議論と意見交換
総合技術センターFD・SD講習会	平成24年 1月27日	共通講義棟 K307	徳島大学機関リポジトリ登録と著作権について
Closing Symposium on Global Double Degree Program	3月1日	工業会館	ダブルディグリー制度の運用状況、課題点、発展性などについて議論と意見交換

[工学教育シンポジウム2012 (SEE2012)]

日時：平成24年2月29日 13:00～16:40 場所：共通講義棟 K201

発表者	演題
野田稔 (建設工学科)	JABEE 継続審査を受審して
出口祥啓 (機械工学科)	知的財産権を活用した自主的創造力創出教育手法
藪谷智規 (化学応用工学科)	化学応用工学科におけるFD活動
永瀬雅夫 (電気電子工学科)	物性デバイス関連科目における教育内容について
光原弘幸 (知能情報工学科)	知能情報工学科ソフトウェア実験における学生の意識調査 ーソフトウェア開発という“ものづくり”についてー
宇都義浩 (生物工学科)	生物工学科におけるFDワーキンググループ活動
原口雅宣 (光応用工学科)	JABEE 中間審査に向けた教育改善と受審の概要
佐藤克也 (エコシステム工学コース)	エコシステム工学コースにおける修士研究中間発表会の改善の取り組み
成行義文 (キャリア教育推進)	工学部における4年一貫キャリア教育について

室)	ー巣立ちプログラムに基づく初年次キャリア教育の実践ー
続木章三 (工学部創成学習開発センター)	自発的「ものづくり力」育成への試み ー研究実験装置の製作と STC「ものづくり演習2」についてー
コインカー・パンカジ・マドウカー (国際連携教育開発センター)	Summary and Analysis of Summer School Survey
飯田仁 (総合技術センター)	学生証を用いた授業出席状況管理システムの導入と徳島大学における非接触カードリーダーの応用利用について
佐々木由香 (総合技術センター)	生物工学科基礎化学実験における技術職員の係わり

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FDファシリテータ養成研修(合宿ワークショップ研修)	平成23年 6月25日 ～26日	淡路青少年交流の家	教員13名(工学部2名) SPOD 東四国教8名 運営スタッフ等9名	FDファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
教育力開発基礎プログラム	平成23年 8月19日 ～20日	徳島大学共通教育6号館201室	教員16名(工学部4名) T-SPOD 教員5名 運営スタッフ等18名	授業設計と教育技術について、シラバスと授業計画の作成、模擬授業を通して理解する
授業コンサルテーション・授業研究会		授業研究インテリジェントラボ	大学教員 授業対象となった工学部教員は5名	録画された授業映像を用いた授業改善のためのコンサルテーション
FD・SD セミナー	平成23年 5月20日 6月30日 9月9日 12月9日	授業研究インテリジェントラボ	大学教員	授業時間外の英語学習支援体制について、学生と共に進める徳島大学のFD&学生支援の展望、「共通教育賞」受賞者から学ぶ授業改善、ティーチング・ポートフォリオ入門
大学教育カンファレンス in 徳島	平成24年 1月6日	大学開放実践センター	大学教員	本学で行われている教育実践の先駆的な取り組みの発表による共有

[優秀教員の表彰]

建設工学科	渦岡良介 教授	知能情報工学科	森田和宏 講師
機械工学科	出口祥啓 教授	光応用工学科	鈴木秀宣 助教
化学応用工学科	堀河俊英 講師	工学基礎教育センター	深貝暢良 准教授
生物工学科	白井昭博 助教	エコシステム工学コース	名田 譲 講師
電気電子工学科	安野卓 准教授		

[教職員のFD活動成果]

国内講演発表 (7 件)、国際講演発表 (10 件)、論文発表 (1 件)

【平成 24 (2012) 年度】

この年度は重点テーマとして研究室教育が取り上げられた。研究室教育の形態は日本独特なものとなっており、その良い点とともに問題点が指摘されている。研究指導・環境に関するアンケートを実施して、情報の共有が行われた。特に研究室配属の方法について、各学科の方法の比較検討が行われた。

総合技術センターの FD・SD 活動の成果である学生証を用いた「出席状況管理システム」は、教育面だけでなく、学生の生活状況把握の面でも大きな教育改善効果を挙げているとともに、教職員の連携による教育改善に向けた取り組みが定着してきた。習熟度別の学生指導に関する FD 活動も各学科で継続されている。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

[FD委員会]

日程	議 題
平成 24 年 4 月 26 日	1) 平成 24 年度 FD 活動計画の作成について 2) 授業評価アンケートの設問項目について 3) サマースクールの共催について
5 月 28 日	1) 学生アンケートについて 2) 平成 24 年度各学科等の FD 活動計画 (案) について
9 月 5 日	(メール会議) 1) FD・SD 講演会の開催について
11 月 5 日	1) 教育の成果・効果を検証するためのアンケート分析結果について
11 月 13 日	(メール会議) 1) FD・SD 講演会の共催について
11 月 21 日	(メール会議) 1) シンポジウムの共催について
12 月 18 日	1) 大学院授業評価アンケート等の英語版 (案) について 2) 工学教育シンポジウム 2013 の開催について 3) 平成 24 年度 FD 研究報告書の作成について 4) 平成 25 年度年度計画について 5) 第 2 回 FD・SD 講演会について

[FD・SD講演会等]

日程	講 師	演 題
平成 24 年 9 月 28 日	東京理科大学 長谷川幹雄氏	工学系女子応援プロジェクトの活動について
平成 25 年 1 月 22 日	愛媛大学 大竹奈津子氏	研究室教育の改善

[その他のFD活動]

プログラム名等	日程	会場	概要等
総合技術センターFD・SD講習会	平成24年 11月27日	共通講義棟	情報セキュリティセミナー
Closing Symposium on Global Double Degree Program	平成25年 3月5日	工業会館	ダブルディグリー制度の運用状況、課題点、発展性などについて議論と意見交換

[工学教育シンポジウム2013(SEE2013)]

日時：平成25年3月21日13:00～16:25 場所：共通講義棟

発表者	演題
上野勝利(建設工学科)	建設工学科における研究室配属のプロセス
出口祥啓(機械工学科)	地域連携を踏まえた知財活用創造力創出教育
藪谷智規(化学応用工学科)	化学応用工学科のFD活動と研究室教育
大屋英稔(電気電子工学科)	制御工学教育と研究室教育
光原弘幸(知能情報工学科)	知能情報工学科における研究室配属に関する学生意識調査
宇都義浩(生物工学科)	生物工学科におけるFDワーキンググループ活動
手塚美彦(光応用工学科)	光応用工学科における卒研配属方式の改訂とその効果について
山中英生(FD委員会委員長)	研究室教育の実態と課題について～配属方式調査とFD講演会での議論から～
続木章三(工学部創成学習開発センター)	『見える』から『観る』へ～「ものづくり演習」における学生の視点転移の例～
コインカー・パンカジ・マドウカー(国際連携教育開発センター)	学外研修を通じた実社会適応力
菊地真美(総合技術センター)	総合技術センターにおけるSD活動
横山智弘(総合技術センター)	光応用工学科における就職活動情報のデータベース化とその活用および今後の展望について

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FDファシリテータ養成研修(合宿ワークショップ研修)	平成24年 6月9日 ～10日	淡路青少年交流の家	教員13名(工学部2名) SPOD 東四国教5名 運営スタッフ等10名	FDファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
教育力開発基礎プログラム	平成24年 8月31日 ～9月1日	徳島大学共通教育6号館201室	教員11名(工学部1名) T-SPOD 教員3名 運営スタッフ等15名	授業設計と教育技術について、シラバスと授業計画の作成、模擬授業を通しての理解
授業コンサルテーション・授業		授業研究インテリジェ	大学教員 授業対象となった工学	録画された授業映像を用いた授業改善のため

研究会		ントラボ	部教員は3名	のコンサルテーション
FD・SD セミナー	平成24年 5月18日 6月15日 11月30日	授業研究イ ンテリジェ ントラボ	大学教員	徳島大学全学FDの在り方 ～全学FDへの提案～ 効果的なグループワー クの技法 図書館を利用した学習支援
大学教育カンファ レンス in 徳島	平成24年 12月26日	大学開放実 践センター	大学教員	本学で行われている教 育実践の先駆的な取り 組みの発表による共有
SPOD フォーラ ム2012	平成24年 8月22日 ～24日	大学開放実 践センター	大学教員	四国地区大学教職員能 力開発ネットワークの 第4回フォーラム

[優秀教員の表彰]

建設工学科	三神厚 准教授	電気電子工学科	西尾芳文 教授
機械工学科	岡田達也 教授	知能情報工学科	獅々堀正幹 教授
化学応用工学科	西内優騎 講師	光応用工学科	後藤信夫 教授
生物工学科	宇都義浩 准教授	工学基礎教育センター	川崎祐 講師

[教職員のFD活動成果]

国内講演発表 (5件)、国際講演発表 (2件)、論文発表 (2件)、図書発表 (1件)

【平成25(2013)年度】

平成24年度に引き続き重点テーマとして研究室教育が取り上げられた。特に問題のある学生への対応について各学科でアンケートを実施し、現状の把握と対応方法について比較検討が行われた。また、平成25年度「教員の教育に対する意識調査結果」を基に、工学部の現状と課題を分析した。半数を超える教員が問題意識を持っていることが明らかになった。

これまでに行われ来た「知的財産権活用教育」の視点からのFD活動が実を結び、平成25年度パテントコンテストにおいて、徳島大学が文部科学省科学技術・学術政策局長賞を、学生1名が日本弁理士会会長賞をそれぞれ受賞した。

各学科の活動としては、プロジェクト型の教育・学習に対する取り組みが行われている。その他、工学部の活動を以下にまとめる。

[FD委員会]

日程	議 題
平成25年 4月11日	1) 平成24年度後期学生アンケートについて 2) 平成25年度学生アンケートについて 3) 平成25年度FD活動計画の作成について

	4) 全学 FD 推進プログラム「FD ファシリテータ養成研修」について
5 月 16 日	1) 学生アンケートについて 2) 平成 24 年度各学科等の FD 活動計画 (案) について 3) サマースクールの共催について
10 月 9 日	(メール会議) 1) FD・SD 講演会の開催について
12 月 16 日	1) 工学教育シンポジウム 2014 開催について 2) 大学教育カンファレンス in 徳島について 3) 平成 25 年度学生アンケート集計について 4) 平成 25 年度研究室教育への取り組みに関して

[FD・SD 講演会等]

日程	講師	演 題
平成 25 年 11 月 28 日	愛媛大学 大竹奈津子氏	より良い研究室教育のために
平成 26 年 1 月 16 日	国土舘大学 飯田昭夫氏	研究室教育の改善

[工学教育シンポジウム 2014 (SEE2014)]

日時：平成 26 年 3 月 4 日 13:00~16:25 場所：共通講義棟

発表者	演 題
河口洋一 (建設工学科)	プロジェクト演習を活用した研究室教育
石田徹啓 (機械工学科)	機械工学科における研究室配属方法の改善について
堀河俊英 (化学応用工学科)	化学応用工学科研究室教育と FD の在り方
富田卓朗 (電気電子工学科)	電気電子工学科における研究室教育
光原弘幸 (知能情報工学科)	知能情報工学科における問題学生に対する教員の意識や対応について
宇都義浩 (生物工学科)	生物工学科の FD 活動：研究室教育の改善と創成実験の教育的成果について
松尾繁樹 (光応用工学科)	進級要件への TOEIC スコアの導入
出口祥啓 (FD 委員会委員長)	研究室教育の改善と課題について
山田洋平 (工学部創成学習開発センター)	自主プロジェクト活動を通じた学生教育の取り組み
コインカー・パンカジ・マドウカー (国際連携教育開発センター)	ダブルディグリー及び短期派遣プログラムの成果とその効果
佐藤哲也 (総合技術センター)	機械実習工場における学生支援活動への取り組み
山上喜廣 (総合技術センター)	測定器の製作を課題とした技術職員研修

[全学FD活動への参加]

プログラム名	日程	会場	参加者	概要
FDファシリテータ養成研修(合宿ワークショップ研修)	平成 25 年 6 月 22 日 ～ 23 日	淡路青少年交流の家	教員 12 名 (工学部 2 名) SPOD 東四国教員 2 名 運営スタッフ等 10 名	FD ファシリテータの養成を目的としたワークショップ形式による研修
教育力開発基礎プログラム	平成 25 年 8 月 30 日 ～ 31 日	徳島大学共通教育 6 号館 201 室	教員 16 名(工学部 3 名) T-SPOD 教員 2 名 運営スタッフ等 18 名	授業設計と教育技術について、シラバスと授業計画の作成、模擬授業を通して理解する
大学教育カンファレンス in 徳島	平成 25 年 12 月 26 日	大学開放実践センター	大学教員	本学で行われている教育実践の先駆的な取り組みの発表による共有
授業コンサルテーション・授業研究会		授業研究インテリジェントラボ	大学教員 授業対象となった工学部教員は 2 名	録画された授業映像を用いた授業改善のためのコンサルテーション
FD・SD セミナー	平成 25 年 5 月 30 日 7 月 26 日 11 月 8 日 平成 26 年 1 月 24 日	授業研究インテリジェントラボ	大学教員	インドとブラジルの高等教育 グループ学習を成功につなげるための考え方や進め方 学習者の学習意欲を高める 授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン (ID) 入門 図書館を利用した学修支援の実践における成果と課題
SPOD フォーラム 2013	平成 25 年 8 月 20 日 -23 日	愛媛大学	大学教員	四国地区大学教職員能力開発ネットワークの第 5 回フォーラム

[優秀教員の表彰]

建設工学科	渡邊 健 准教授	電気電子工学科	西野克志 准教授
機械工学科	長町拓夫 准教授	知能情報工学科	光原弘幸 講師
化学応用工学科	森賀俊広 教授	光応用工学科	原口雅宣 教授
生物工学科	玉井伸岳 准教授	工学基礎教育センター	岡本邦也 助教

[教員の教育に対する意識調査結果]

平成 25 度「教員の教育に対する意識調査結果」を基に、工学部の現状と課題を取りまとめた。

[教職員のFD活動成果]

国内講演発表 (15 件)、国際講演発表 (1 件)

2. FDプログラム第1期から第4期の活動を振り返って

工学部の組織的なFD活動は、平成11年の「新工学教育プログラム」の実施に端を発する。これは平成10年に大学審議会の「21世紀の大学像と今後の改革方策について」において、組織的なFDの実施を大学設置基準において明確にすべきとの答申を踏まえてのことである。工学部FD懇談会が組織されて本格的に開始され、平成13年度に設置された工学部FD委員会が発展的に継続した。平成14年度から組織的、実践的全学FDの推進が開始され(第1期)、これを受けてこれまで行ってきた工学部のFD活動においても、工学部教職員の教育に対する認識が急速に高まり、教授能力の改善に繋がった。

工学部では全学科が日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定取得に努めることを中期計画に挙げていた。技術者を育成する教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかを国際的な同等性を持つ認定基準に基づいて認定されるもので、審査項目に、教育改善の仕組みとその実施、すなわちFD活動がある。これにより学科ごとに活動されてきたものが、工学部および全学の活動と収斂され、同時に多様化しつつ発展し、実施されてきた。平成26年4月時点で、5つのプログラム(学科)が認定されており、これらはFD活動についても国際的な水準で実施していることが外部的に評価されたということである。

平成14年度において工学部で実施されている代表的なFD活動としては、工学部FD講演・討論会の開催、工学教育シンポジウムの開催、授業評価法の見直し、創造教育の検討、クォーター制の見直し、プレゼンテーション教育の検討、学科FD研究活動の推進、外部の教育集会等への参加と講演、FD研究報告書(年刊)などが挙げられる。これらの活動は年度を追いながら、内容を修正し、一部は廃止し、そして新たなものを追加しながら続けている。

JABEEの認定を全学科が目指しており工学部におけるFD活動は後押しされるが、またJABEEの定める認定基準も改善し変更されることから、そのFDの範囲も直接的な教授法に留まらず創成科目の導入やプレゼンテーション評価の充実など、教育プログラムとしての改善が進んだ。その後のJABEEの認定基準の変更として、デザイン教育に関するものやチームワーク力に関する追加などが挙げられるが、各学科のFD活動の中にそれらへの対応を見つけることができる。

平成15年度には、工学部の確かな教育改善実績を基盤としたプロジェクト「“進取の気風”を育む創造性教育の推進」が、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されて、工学部のFD活動に一段と弾みを付けた。

平成15年末に、公表された経済協力開発機構(OECD)による国際的な学力調査結果で我が国の数学や理科の順位が下がったことが話題になり、初等中等教育における「ゆとり教育」の見直しが議論されているが、工学部のFD活動においても入学生の学力低下に対応するものも検討されている。そのような中、工学部FD委員会の主催する「FD講演・討論会」及び「工学教育シンポジウム」は、様々な教育問題をとり上げ討論する場とし

て定着してきた。工学部 FD 委員会は「自ら学ぶ授業の展開」を平成 16 年度の主題として活動している。そして教育プログラムおよびシラバスの改善、授業評価への積極的な取り組みが進み、学生の学習効果の改善、教員の教授能力の向上につながっている。

平成 15 年度の特徴 GP の採択につづき、16 年度は、“ユビキタス技術による新しい学習環境の創生”が、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)」に採択され、教育環境も充実された。

平成 17 年度も平成 16 年度に引き続き、工学部 FD 委員会は「自ら学ぶ授業の展開」を主題として活動し、「教養教育と専門教育の接続」、「学部教育と大学院教育の接続」および「大学院教育」を取り上げて、教育の質の改善を試みた。

ここ数年大学をとりまく教育環境が激変し、入学してくる学生の圧倒的な知識不足、学力格差、個性の多様化といった、教育上の問題点がクローズアップされる。そのような中、平成 18 年度は様々な FD 活動の見直しとシステムの確立を主題として行われた。工学部年度計画シートにもとづいて、FD のさらなる組織化と日常化を日指して年度計画を策定した。また平成 18 年度から工学部 FD 委員会が、先端技術科学教育部の FD 活動も所掌することになった。

平成 19 年度は、前年度策定した「授業評価システムの基本方針」に基づき、具体的な「学生授業評価の基本方針」および「教員相互授業評価の基本方針」を策定して、学生授業評価だけでなく教員相互授業評価も合わせた本格的な授業評価システムの実施がスタートした。また全学 FD の第 2 期最終年度にあたり、「徳島大学 FD の歴史」に第 1・2 期の工学部 FD 活動をまとめた。

平成 20 年度から継続的にまた全学と連携して授業評価アンケートの見直しが行われることになる。また教員相互授業評価が行われた。工学部 FD 委員会として、習熟度別の学生指導をテーマとして FD 活動が行われ、これは各学科で数年間継続されることになる。

教員相互授業評価が平成 21 年度には全学科等で実施されている。また「新入生導入教育」、「デザイン教育」、「プレゼンテーション教育」に関連した FD 活動が各学科で実施されている。

平成 22 年度の工学部 FD 委員会の年次計画を「学生の修学意欲を高め、教育の質の向上を図るため、教職員の職能開発としての FD・SD 講演会、研修会を実施するとともに、その課題を抽出し、改善を図る」のように定め、トップダウン的に実施されてきた FD の芽を現場の実情にあわせて改良し、あるいは取捨選択して、運営・実行されることを目指した。また総合技術センターの技術職員も工学部の FD 活動に参加することになり、教職員間での連携が進んだ。平成 22 年度大学生の就業力育成事業に「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」が採択されたことで、キャリア教育に関連した FD 活動がスタートした。

平成 23 年度は引き続き「キャリア教育」に関する FD 活動が本格化し、また「知的財産権活用教育」といった新しい視点から FD 活動が行われ始めた。また工学部らしくものづくりに関するものや、サマースクールに関するもの、それから大学院教育の実質化を目指した活動が行われた。

平成 24 年度から重点テーマとして研究室教育が取り上げられた。特に研究室配属の方法について、各学科の方法の比較検討が行われた。また総合技術センターの FD・SD 活

動の成果である学生証を用いた「出席状況管理システム」は、大きな教育改善効果を挙げている。

平成 25 年度は研究室教育、特に問題のある学生への対応について現状の把握と対応方法が検討された。また、これまでに行われて来た「知的財産権活用教育」の視点からの FD 活動が実を結び、パテントコンテストにおいて、文部科学省科学技術・学術政策局長賞と日本弁理士会会長賞をそれぞれ受賞した。

以上に、第 1 期から第 4 期の 12 年間の活動を振り返った。第 1 期と第 2 期は、組織的 FD の義務化による組織化と FD 活動内容開拓の期間といえよう。工学部では各学科の活動に対する JABEE という推進力があつたものの、工学部という組織としての FD の整備が行われている。その中で GP 獲得等を上手に取り込み、FD 活動実行の基盤が形成された。第 3 期と第 4 期は、FD 活動実効化の期間である。組織的な FD といっても最後は個々の教員の活動に帰着する。したがって実行性に加えて実効性を持たせることが重要であり、そのための組織であり、そのための教員・職員である。また、工学部としての FD 活動の内容自体の改善が進むとともに、学科等の実態や実情に合わせた形でそれぞれの学科が自立的・継続的に FD 活動を行うことが定着した。

3. FD 活動の今後の課題

第 1 期から第 4 期まで一定の成果を残したと判断できる。平成 26 年 6 月の日経新聞によれば、企業の人事担当者が選ぶ大学の総合ランキングで 6 位、「想像力がある」の項目では 1 位のポイントを徳島大学が獲得した。卒業生の構成を勘案すると、この評価に占める工学部の割合は大きいと考えられる。とすれば、工学部 FD 委員会が考える以上に、学科における、あるいは各教員、各科目における教育改善は行われていると考えることはできまいか。しかしながら、社会情勢や教育環境などの著しい変化の中、学生の変化も著しい。昨日までの教育方法や教授法といった教育システムがそのまま機能するとは考えにくく、常に改善が求められていると考えるべきである。これに対応するのは個々の教職員が自発的に改善活動を行おうとする意識のさらなる醸成とそれを助ける組織的な FD の実践と考える。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が 2016 年には施行される。このことも含めて教育にはさらに資源が必要となると予想されるが、日経新聞のランキングをひとまずは誇りに思い、そしてこれまでの FD 活動を礎に更なる教育改善が進展していくことを期待する。

全学共通教育センターFDの歴史と今度の課題

全学共通教育センターFD 教育方法部会長 佐藤 高則

全学共通教育センターでは、以下に示す全学共通教育の目的と5つの目標を定め、学生の学びへの意欲と、知識、能力を高めようとしています。特に全学共通教育の<目的>には、ESD (Education for Sustainable Development)の教育理念が取り入れられており、21世紀型市民に求められる教養に加え、持続可能な社会の実現のために必要な、人間性形成や問題解決能力を持った人材育成のための教育を目的とすることが示されています。

<全学共通教育の目的> 徳島大学の教育理念は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形至ゲルを促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう新種の気風を身につけた人材の育成に努める」ことである。この理念を実現すべく、全学共通教育では、人間性に富む人格の形成を促し、「持続可能な社会づくり」のために、相互理解に基づき、権利と義務を分かち合う精神を持ち、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけることを全体の目的としている。そのため、各々の科目群ごとに、以下の目標をおき、その達成に努めている。

<全学共通教育の5つの目標> 1. 大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を身につける。 2. 社会人として必要な豊かな人間性と高い倫理観を修得する。 3. さまざまな体験を通して、人間力や社会性を身につける。 4. 諸科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身につけ、自立的学習の基盤を形成する。 5. 複合的な視点から専門分野を理解するために、必要な基礎的知識を身につける(全学共通教育履修の手引きより)。

上記の目的および目標を達成するために、全学共通教育では平成17年度に「大学入門講座」「教養科目群」「基盤形成科目群」「基礎科目群」の授業区分に再編し、さらに平成19年度より新たに「社会性形成科目群」を設けました。全学共通教育センターでは、全学共通教育での授業を運営・実施する一方で、その効果を検証するために、積極的にFD活動を推進してきました。平成20～25年度(全学FD推進プログラム第3・4期)では、通常のFD講演会以外にも、大学入門講座・入学前学習・高大接続科目の検証である「大学入門講座・オリエンテーション反省会」、教養教育の意義を検証する「教養教育FD」、基盤科目の効果検証である「外国語教育FD」などの講演会・ワークショップスタイルのFDを実施してきました。また、過去のFD活動や2007年問題を踏まえた授業改善・学生支援への取り組みとしては、推薦入学者を対象とした「入学前学習教材」の開発と実施、高校での科目未履修者を対象とした「高大接続科目」「自然科学入門」の開設、新入生への読書・文章作成・論理的思考力の重要性を認識させる「読書レポート」の実施、FD企画「物理学とその関連分野の教育に関する情報交換会」による各学部教員の意見交換(月1回開催)、他教員の授業を参観し自己の授業に反映させる「授業参観」、教育方法および内容の学生による評価・検証である「授業評価アンケート」と優れた授業を表彰する「共通教育賞」制度、学生の学習相談・支援を行なう「学習支援室」「Study Support Space (SSS、付属図書館と連携)」などを行なってきました。以下、全学共通教育センターにおける平成20～25年度のFDの歴史を、簡単に振り返ります。

全学共通教育センターFD（平成20年度）実施報告

平成20年度 全学共通教育センター FD 教育方法部会長
宮田 政徳

1. 報告期間

平成20（2008）年度の全学共通教育センターのFD活動を報告する。

2. FDの実施内容

（1）全学共通教育「授業参観」

平成17年11月2日全学共通教育センター運営委員会で承認された、「授業参観制度」に従って四年目の平成20年度も授業参観を実施した。その授業参観制度の取扱要領は次の通りである。

- ①趣旨：教員間の相互授業参観制度を設けることで、教員同士が授業方法等を相互に学び合い、全学共通教育の質的向上を図ることを目的とする。
- ②対象：授業参観の対象となる授業は、大学入門講座・基礎教育科目群の基礎実験を除く全学共通教育の授業とする。
- ③実施時期：授業参観制度は平成17年度後期から実施する。相互授業参観月間は、6月と12月の各1ヶ月間とする。この期間は対象となる授業を自由に参観することができるものとする。

実際の運用面では平成18年度から、授業参観実施時期の実施期間が6月と12月の2週間となった。平成20年度前期の「全学共通教育『授業参観』について（依頼と案内）」の実施要領は次の通りである。

平成20年6月4日

全学共通教育担当教員 各位

全学共通教育センター長
佐野 勝徳

全学共通教育「授業参観」について（依頼と案内）

全学共通教育の充実・発展に日頃からご協力頂き、ありがとうございます。
さて、全学共通教育センターでは、FD活動の一環としまして、教員同士がお互いに授業方法等を学び合い、全学共通教育の一層の充実を図ることを目的としまして、「授業参観制度」を導入し、好評を得ております。今年もまた、前期(6月)、後期(12月)に実施いたしますので、先生方の積極的な参加とご協力をお願いいたします。

【実施要領】

1. 対象授業：「授業参観」の対象となる授業は、大学入門講座以外、基礎科目群の基礎実験以外の全ての全学共通教育の授業です。

2. 実施期間 (前期) : 平成 20 年 6 月 9 日 (月) ~ 20 日 (金) までの 2 週間
 3. 授業参観の手続き :
 ① 授業の妨げにならないように参観するため、参観したい授業に関しましては、あらかじめその授業担当者にメール等で了承を得た上で参観して頂くようお願いいたします。
 ② 授業を参観希望される先生は、その授業の前日までに「氏名と所属、参観希望授業題目、授業担当者、日時 (○日、○講時) を学務課教育支援係 (担当: 武田kykyotuc@jim.tokushima-u.ac.jp) までご連絡下さい。
 ③ 授業参観後は授業実施教員へのフィードバックのため「授業参観記録」(別紙: 添付ファイル) を教育支援係へご提出下さい。

尚、平成 19 年度後期の「学生が選ぶ優れた授業」一覧を全学共通教育センターのホームページに掲載しております。

- ④ 授業参観記録: 平成 19 年度からは授業参観を記録するため、以下のような記録様式に授業参観者は記録を記入し、学務課教育支援係へ提出した。

徳島大学共通教育授業参観記録

授業題目 (授業科目)	
授業参観者 (所属・氏名)	1. 2. 3.
授業実施者 (所属・氏名)	
授業参観日時	2008 年 6 月 ○日 ○時 ○○分 ~ ○時 ○○分
授業実施教室	
この授業でよかった点	
この授業で改善した方がよいと思われる点	
全体的なコメント	

- ⑤ 授業参観実績: 平成 20 年前期及び後期の授業参観数は次の通りであった。

[平成 20 年前期]

参観期間 平成 20 年 6 月 9 日 ~ 6 月 20 日

	参観日	講時	授業科目	授業題目	授業担当者
1	6 月 9 日	3・4	人間と生命	心とからだの健康	佐野 勝徳
2	6 月 10 日	9・10	人間と生命	教育における生命と美	弘田 陽介
3	6 月 12 日	1・2	英語	基盤英語	Steve T. 福田

4	6月12日	3・4	人間と生命	心理学基礎	境 泉洋
5	6月17日	3・4	基礎数学	微分積分学 I	片山 真一
6	6月17日	7・8	日本語	日本語 7	橋本 智
7	6月19日	1・2	英語	基盤英語	Steve T.福田
8	6月19日	3・4	生活と社会	ゼミナール「社会科学の夢」	水島 多喜男
9	6月19日	3・4	人間と生命	自分探しの心理学	香川 順子
10	6月19日	5・6	人間と生命	心理学概論	内海 千種
11	6月19日	5・6	生活と社会	ボランティア論	樫田 美雄
12	6月19日	7・8	共創型学習	学生と地域社会人による授業企画ゼミ ー大学でなにを学ぶのか?ー	大橋 眞

参観授業数 12人
参観延べ人数 12人

[平成 20 年後期]

参観期間 平成 20 年 12 月 8 日～12 月 19 日

	参 観 日	講時	授業科目	授 業 題 目	授業担当者
1	12月8日	3・4	歴史と文化	考古学概論Ⅱ	中村 豊
2	12月9日	7・8	共創型学習	名著講読Ⅱ	菊池 淳
3	12月9日	9・10	共創型学習	名著講読Ⅱ	香川 順子
4	12月10日	3・4	歴史と文化	日本中近世文学Ⅱ	原水 民樹
5	12月10日	3・4	日本事情 (教養科目群)	日本事情Ⅱ	坂田 浩
6	12月10日	9・10	共創型学習	アクティブラーニング入門	齊藤 隆仁
7	12月12日	7・8	ドイツ語	ドイツ語入門	ギュンター
8	12月15日	3・4	人間と生命	心理学概論	内海 千種
9	12月17日	9・10	共創型学習	アクティブラーニング入門	齊藤 隆仁
10	12月18日	1・2	基礎数学	線形代数学Ⅱ	村上 公一
11	12月18日	3・4	歴史と文化	中国文学における幻術ー妖術ー呪術	有馬 卓也
12	12月18日	3・4	生活と社会	地球環境問題	豊田 哲也
13	12月19日	1・2	情報科学	情報科学入門	松浦 健二

参観授業数 13人
参観延べ人数 16人

(2) 部局FD実施

平成 20 年度より、全学の各部局へFD予算（年額 30 万円）が配分されることになり、

共通教育センターでは、二つの事業を実施した。

① FD講演会

平成20年12月5日(金)17:00~19:00、共通教育4号館302教室にて、三重大学教育学部及び高等教育創造開発センターの准教授、中西良文先生により、講演会「共通教育での問題解決型学習 (Problem/Project Based Learning: PBL)」が行われた。参加者は、本学教職員25名と学生2名であった。

② 養教育FDキャンプ

平成20年12月1日~2日の一泊二日で、徳島県那賀郡鷲敷野外活動センターにて、全学共通教育を担当する教員(13名)、事務職員(2名)、社会人講師(5名)と学生(7名)の合計27名で合宿研修を行った。詳細は以下の通りである。

教養教育FDキャンプ

平成20年11月1日(土)~11月2日(日)

11月1日(土)

- 9時00分 徳島大学発
- 10時30分 鷲敷野外活動センター着
- 10時30分~11時 オープニングセレモニー(大研修室)
川上副学長、佐野共通教育センター長、曾田大学開放実践センター長
- 11時~13時 懇談会 & 昼食
- 13時~16時(大研修室)
 - ①パンセの世界(佐野)
 - ②プロモーションビデオ紹介(学生ワーキング)
 - ③授業評価アンケートの可能性(授業の質と成果を測る)
 - ④フリートーキング「教養教育とは何か？」
- 16時~18時30分 夕食 & 懇親会
- 18時30分~19時30分 入浴 自由時間
- 19時30分~21時00分(大研修室)
 - ①FD活動とは(曾田)
 - ②フリートーキング「これからの教養教育改革に向けて」
- 22時 就寝



11月2日(日)

- 6時 起床
- 7時~8時 朝食
- 8時~11時(大研修室)
 - ①学生の声(学生ワーキング)
 - ②徳島大学の教養教育のカリキュラムを点検する
 - ③閉会式・総括(川上)
- 11時 鷲敷野外活動センター出発
- 12時30分 徳島大学着
解散式



*世話役; 全学共通教育センター(授業研究開発部会FD教育方法部会)、学生ワーキング

参加費 3000円(教員) 学生は無料

全学共通教育センターFD (平成21～25年度) 実施報告

平成21～25年度 全学共通教育センター FD 教育方法部会長

堤 和博

1. 平成21 (2009)年度

(1) FD 講演会・討論会—プロの講釈師・落語家との討論—

実施日時：平成21年8月6日(木) 14時30分～16時30分

場 所： 共通教育棟4号館201講義室

参加人数：42名

実施内容：

プロの講釈師・落語家として上方で活躍中の旭堂南海氏と林家染左氏を講師として招き、講演してもらった。従来のこのような講演会は、高等教育の専門家を招いて行われることが多かったと思われるが、この企画では話芸のプロである二人による、「語り」をテーマとした講演を聴いた。大学における講義も、教員の「語り」が主要な部分を占めるのは間違いないことで、「語り」を生業とする人から、「語り」について、心構えや具体的な技法など多方面から大いに学ぶことができた。

一方、講釈・落語という演芸の場における「語り」の技法等をそのまま全部講義に適用することはできない。それで、二人の講演を聴いた後、教員が参考にできることは何か、また、反対に適用してはならないことは何か、講師の二人も交え参加者で討論を行った。

ちなみに、講演者の二人はともに四年制国立大学の卒業生で、事前に本学の全学共通教育の教養科目の授業を視察してもらっておいた。自分たちが実際に受けた授業との比較など、色々な観点からの提言がなされた。

参照文献：

堤和博：全学共通教育FD講演会・討論会～プロの講談師・落語家との討論～—2009年度全学共通教育センター部局FD事業実施報告—、

『大学教育研究ジャーナル』第7、200-205、2010.

(2) FD 研修

実施日時：平成22年1月23日(土) 10時～16時30分

場 所： 総合科学部3号館スタジオ

大塚国際美術館

参加人数：19名

実施内容：

全学共通教育センターでは、かねてより授業改善のために、地域の文化施設を活用した体験型授業の開発を心がけてきた。その結果、博物館や天然記念物などを利用した体験型授業などを試みた。また、留学生を対象とした授業では、徳島県立美術館を活用した授業を行った。徳島県には、他にも授業に活用出来そうな博物館や美術館がある。特に大塚国際美術館は、西洋名画のレプリカを1000点以上展示しており、名画を素材とした授業を企画することにより、体験の場として大塚国際美術館を括用できる可能性があると考えた。

今回のFD研修は参加者が実際に大塚国際美術館に出向き、名画を鑑賞しながら新しい授業のアイデアを考えることを課題として、参加者がそのアイデアを共有しながら、自らの

授業で活用出来る可能性を探った。また、このような新しい試みの実践の経験を次年度の FD 活動に生かすことや、大学教育カンファレンスや大学教育研究会などで発表することを目標とした研修であった。同時に、このような研修を通じて全学共通教育の組織的な授業改善を目指したものである。

なお、大塚国際美術館に行く前には、参加者は総合科学部 3 号館スタジオに集合し、美術館を活用した授業企画や絵画を使った対話的授業に関する実践報告を受けた。

2. 平成 22 (2010) 年度

(1) 教養教育 FD 合宿ー学生から学ぶ FDー

実施日時：11 月 1 日 (月) ～11 月 2 日 (火)

場 所： 那賀町鷺敷野外活動センター

参加人数：26 名

実施内容：

全学共通教育センターでは、教養教育をより充実させるために、教養教育に携わる教員と、学生、地域社会人を交えて FD 活動を実施することにより、自ら改革に取り組む自主活動の意義を構成員が共有しながら、その具体的なアイデアを創出することに取り組んでいる。

その一環として、学生を交えて大学教育・教養教育について合宿を行って考え、討論した。プログラムの主要部分を示せば、以下の通りである。

第一日目

- ・基調講演 大学教育を語る (川上博前副学長・教育担当)
- ・基調講演 新しい教養教育について (日置善郎大学開放実践センター長)
- ・教養教育と学びのコミュニティーについて
- ・英語教育と English Support Room について

第二日目

- ・(ラウンドテーブル)ー全学の FDー
- ・(ラウンドテーブル)ー高校の理科教育ー
- ・(ラウンドテーブル)ー文化を学ぶとはー
- ・総括討論

(2) 全学共通教育 FD 講演会+企業人との討論「社会で生きる教養」

実施日時：11 月 4 日 (木) 14 時 30 分～17 時 30 分

場 所： 共通教育棟 4 号館 302 講義室

参加人数：48 名

全学共通教育において教養科目を担当している大半の教員は、一般企業・社会での勤務経験がないか短い者が多いと思われる。そのような教員が、大半が一般企業に勤めることになる学生に教養を教えているわけである。ならば、一般企業・社会で求められている教養と全学共通教育センターにおいて教授している教養との間に乖離はないのかが、当然危惧されることとなろう。

そこで本企画では、一般企業における勤務経験も豊富な工学部の教授三名に、教養教育

の授業を参観してもらい、一般企業・社会における経験を踏まえての提言を、パネルディスカッションを通してしてもらったこととした。また、学外からも企業関係者、それも長年に亘り部下や新人社員を教育する立場にもあった有力企業の元社長を招聘し、パネルディスカッションに加わっていただいた。

パネラー：元神鋼テクノ社長 原田新一氏（徳島大学工学部機械工学科卒業）

演題：「企業が求めている教養について」

パネラー：岩田哲郎教授、出口祥啓教授、陶山史郎教授

3. 平成23（2011）年度

（1）全学共通教育センター学生支援フォーラム

実施日時：11月24日（木）14時30分～17時00分

場 所： 共通教育棟4号館302講義室

参加人数：38名

実施内容：

9月12日に開催された「学生支援担当教職員研究会」において指摘された徳島大学生のキャンパスライフにおける問題点の中に、「学生の主体性がない」という点が含まれている。これは、教職員、学生双方から挙げられた問題点である。また、教員、職員、学生間のコミュニケーションの欠如も問題点として多方面から挙げられており、問題の改善策として、コミュニケーション、意見交換できる機会や場を設けることが、最も多く挙げられていた。そこで、本フォーラムにおいては、大学初年時の教育を担う全学共通教育センターとして、教員、職員、学生が共に「学生の主体性」向上を目的とした学生支援を実現するために、動機づけの理論、大学でなすべきこと、大学での可能性についての話題提供を行い、参加者と共に求められる学生支援を探ったものである。なお、FD活動においては参加者をなるべく多く募るのが一般であるが、今回は参加者を日頃から問題意識を共有する教職員・学生に限定し、より濃密な議論を行った。

プログラムの主要部分を示せば、以下の通りである。

- ・話題提供「学生支援の現状と求められる支援」（講師：大学開放実践センター 吉田博）
- ・内容：学生支援担当教職員研究会の振り返り
 - 学生支援とは何か！？
 - 全学共通教育センターの学生支援における役割とは！？
 - モチベーション（動機づけ）とは何か！？
- ・ディスカッション（進行：大学開放実践センター 吉田博）
- ・テーマ：徳島大学で求められる学生支援とは!？
 - あなたができる学生支援は!？
- ・講評：全学共通教育センター長 荒木秀先生
- ・参考文献

吉田博：教員、職員、学生が共に進める学生支援の取り組み、
『第18回大学教育研究フォーラム 発表論文集』、113-114、2012.

4. 平成24（2012）年度

(1) FD・SD 企画「学生の文章力向上のための目標・計画・方策等について」

実施日時：12月6日(木) 16時30分～18時00分

場 所： 共通教育棟4号館304講義室

参加人数：24名

実施内容：

来年度の新入生に対する読書指導・文章作成指導の手始めとして、感想文等を課して添削指導するための計画策定を協議し、計画実行にあたっての諸課題の解決をはかることを目標としたFD・SD企画である。

全学共通教育センターでは、来年度の新入生に入学前に附属図書館で書籍等を貸し出し、書評あるいは感想文を5月の連休までに書かせ、それらを文章力向上の観点から全学の教員で添削し、その結果を「大学入門講座」(1単位)の単位に反映させること、加えて、その後に学生相互にも文章の組み立て等について意見を出させ合うことを考えていた。この考えの背景には、次のような経緯があった。全学共通教育センター高大接続検討委員会は、理科系科目を中心とする高校から大学への接続教育をより良いものにするために、同年の夏から学内外の多くの方を交え、意見交換を重ねてきた。その結果、本学学生においても、理系・文系に拘わらず、基礎学力の不足と文章力の低さを指摘する声が改めて数多く寄せられた。ここで注目すべきことは、文章力の低さは理系学生だけの問題ではなく、文系学生にも共通して見られる問題であると指摘する教員が多くいたことである。

このようなことから、より多くの教職員の意見を集めながら、学生の文章力向上を目指した方策を実行に移す必要があり、そのためには当然、どの程度の目標を設定し、いかに実現していくかということを一挙に議論していかなければならないとの考えを、全学共通教育センターでは持つに至った。しかし、本学の学生の現状のみならず、他大学の状況などにも鑑みるに、このような議論を進めてから実行に移すのでは遅きに失すると言わざるを得ない。そこで、とりあえず来年度の新入生から、文章力を向上させるために、遅くとも入学前後あたりからは読書をする習慣を身につけさせ、かつ感想文等の文章を作成させようと考えた。

そこで、今回FD・SD企画では、以上の計画を具体的に策定し、それを実行に移すにあたっての課題等を克服すべく、議論を行った。

プログラムの主要部分を示せば、以下の通りである。

- ・問題提起と提案：全学共通教育センター 古屋玲
- ・提案に対する質問と議論
- ・具体的な実行案作り

5. 平成25(2013)年度

(1) 教職員と学生と共に〈教養〉を考える～「法医学」・「環境工学」を実例として～

実施日時：12月5日(木) 14時30分～18時00分

場 所： 共通教育棟4号館304講義室

参加人数：38名

実施内容：

全学共通教育の根幹を成すのは「教養科目群」であるが、その〈教養〉について改めて考え直す FD 企画とした。その際、教職員だけで考えるのではなく、多くの学生と共に討論をしたものである。

〈教養〉とは、専門分野以外にも幅広い様々な分野に関して考察する力を持つことだとすると、その重要性は言を俟たない。しかるに、その重要性を学生たちは充分理解できていない、教員の立場から言うと、十分に伝え切れていないと感じられる昨今である。このような問題意識のことについて、講演と討論を繰り返したものである。

その際、抽象的な議論をしていても実を結ばないと思い、日頃特に専門分野以外にも目配りをしながら、つまり、身を以て〈教養〉の大切さを実感しながら活動している二教授に登壇してもらい、自己の活動を実例としながら〈教養〉の大切さをまずは講演してもらった。

このような講演を聞いた後、教職員・学生が共に、〈教養〉の大切さは具体的にはどう説明されるのか、そして真の〈教養〉とは何か？ など様々に討論を繰り返した

プログラムの主要部分を示せば、以下の通りである。

- ・講演 西村明儒教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
「人の生、ヒトの生、人の死、ヒトの死」
- ・講演 上月康則教授（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
「環境を良くすること～事例：私たちの生活と尼海とをつなげる循環～」
- ・全体討論

（２）e-ラーニングシステムを使った外国語教育

実施日時：1月23日（木） 13時～15時

場 所： 共通教育6号館 LL 教室

参加人数：14名

実施内容：

語学教育充実のために不可欠の e-ラーニングシステムについて、青山学院大学の永井准教授を招き、青山学院大学における先駆的な実践例を紹介してもらった。その後、e-ラーニングシステムの操作法を学んだ。なお、e-ラーニングシステムを開発した企業の方の説明も受けた。以下に、実施報告を掲載する。

e-ラーニングシステムを使った外国語教育実施報告

全学共通教育センター Steve Fukuda

本学が国際化を推進することが急務となっている中、近年、e-ラーニングを活用した語学教育が注目を集めている。オンライン英語学習システムの効果的な活用方法は本学でも知る必要があり、今回の FD 企画では、オンライン学習と対面学習の融合についてワークショップを開催することになった。

現在、英語教室では「自律学習支援」をキーワードとした英語教育の見直しを進めている。従って、CALL 教室を使った語学教育というテーマで FD 企画を実施した。本 FD 企画は、来年度導入予定の英語学習 e-ラーニングシステムを、①「他大学の活用法とその成果を知る」及び②「本学の教職員が実際にシステムを使う」という 2 つの目標があった。まず、本学の学生の自律的語学学習支援及び環境整備、そして、英語学習の学習時間促進をするためには、導入する e-ラーニングシステム自体を知らなければならなかった。また、システムを使用することでどのような成果が可能かを知らなければならなかった。今回、この 2 点を「知る」ことにより、現在のカリキュラムで提供できる授業のみでは足りない、日本人が実用的な英語運用能力を習得するに必要な約 3,000 時間の学習を促進する方法がわかった。本 FD 企画の成果は今後のカリキュラム見直しに役に立つと見られ、以下の効果もあったと思われる。

- ①授業内・外における効果的な英語学習環境を構築する方法
- ②英語学習を促進するカリキュラムを知ることができ、今後の英語教育カリキュラム見直しのためにその知識を活用する方法
- ③e-ラーニングシステムの学習コンテンツを知り、今後、授業で導入ができる方法
- ④授業のみならず、ESR などの自律英語学習支援や留学準備のために用いる教材としても十分に活用する可能性

今後、本学ではオンライン英語学習システムの導入を考えている。しかし、システムにより、本学の学習者のレベルに応じた学習コンテンツが入っていても、その活用法が分からなければ、システム導入の意義が問われる。また、システムをどのようにカリキュラムに統合するのかを考えなければならない。従って、今回の計画はまず、実際に本学の教職員がオンライン英語学習システムを使用すると同時に、他大学でのシステム活用例を学外の講師に紹介してもらった。その後、本学での導入についての議論をしていきたいと考えた。

今回の FD 企画は平成 26 年 1 月 23 日(木) 13:00~15:00 に開催し、テーマは「Call 教室を使った自律外国語学習の促進」にあった。お招きした講師は永井忠孝先生（青山学院大学経営学部准教授）であり、参加したのは本学の語学教育を担当教員する教員だった。今回の企画を通し、特に分かったのは、e-ラーニングシステムを用いた授業外学習支援は、今まで大きな課題となっていた蔵元地区の学生に対する英語学習支援を英語教員が常駐している常三島地区で可能にすることができることが分かった。

「学びのコミュニティー部会」が実施したFDについて

全学共通教育センター 学びのコミュニティー部会長 斉藤 隆仁
同副部会長 古屋 玲

文部科学省の質の高い大学教育推進プログラムとして、平成20年度～平成22年度に全学共通教育センターが提案した「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」が採択された。

この取組の概要は以下のとおりである。地域社会の様々な分野で活躍してきた実績があり、大学教育・教養教育に理解の深い社会人を「大学教育ボランティア」として大学の教室に迎え入れ、学生・社会人・教員の三者が互いに学び合う場としての「学びのコミュニティー」を構成して、対話により学び合う教育をおこなった。一般的な講義形式の授業における、教員から学生へ一方的な知の伝達とは異なった、三者が「お互いに学びあう」という能動的な学びを実現し、大学を知の拠点として世代間の知の継承を軸とする知の循環型社会の構築をめざした。

授業改善の仕組みは、授業結果を自己評価と授業評価結果を学生の参加するFDフォーラムで発表して議論し、これを担当教員にフィードバックして次年度計画を作成することで、学生・地域社会人・教員の三者が関わるPDCAサイクルが構築された。

以下に実際に行われたFDを示す。

(1) 教養教育FDキャンプ

日時：平成20(2008)年11月1日～2日

場所：那賀川町鷺敷野外活動センター

参加者：副学長、教員13名、学生7名、社会人5名、職員2名

内容：ラウンドテーブル 「教養教育を考える」、「総合科学とは、真の学びとは」、「教養教育の新しい取り組み」

(2) 徳島大学 地域に開かれた教養教育市民フォーラム～地域に広がる知の循環型社会の構築を目指して～

日時：平成21(2009)年2月11日(水)13時30分～16時

場所：サンシャイン徳島アネックス3階

参加者：教員約40名、学生約40名、社会人約20名

内容：「新しい学びを目指して」、「学生・社会人・教員による学びのコミュニティー」
「パネルディスカッション」「総合討論」

(3) FDフェスタ「学生主導による教養教育改善の取り組み」

日時：平成20年(2008)年11月25日(火)16時30分～18時

場所：3号館スタジオ

参加者：教員7名 学生17名 社会人4名

内容：「学生ワーキング活動報告」、「学生による高等教育研究会活動報告」、「クリッカーに

よるアンケート調査]、「懐かしの少年ヒーローの主題歌ビデオ鑑賞」、「模擬授業 正義とはなにか?」、「学生バンドによる生演奏」

(4) 1st International Conference in Higher Education and Lifelong Learning

日時：平成 21 (2009) 年 7 月 31 日

場所：4 号館 304 講義室

内容：「Recent Situation of the Higher Education and Lifelong Learning in East Asia」、「Regional Science and Lifelong Learning as the new field for University Development (Round Table)」

(5) 総合科学FDワークショップ—学生と共に考える総合科学—

日時：平成 21 (2009) 年 9 月 30 日 16:30~18:30

場所：共通教育 4 号館 202 教室

内容：「学生は、総合科学に何を期待するのか?」、「ワークショップ 学生と共に考える総合科学教育の課題」

(6) 総合科学部がめざす地域科学 第2回学生参加型総合科学部FD集会

日時：平成 21 (2009) 年 12 月 24 日 9:00~12:00

場所：総合科学部 3 号館 1 階スタジオ

内容：地域と結ぶ遠隔授業、学生と地域社会人の声、学部長と考える地域科学

(7) 全学共通教育FD体験ツアー

日時：平成 22 (2010) 年 1 月 23 日

場所：全学共通教育 3 号館スタジオ・大塚国際美術館

参加者：教員 10 名、学生 9 名、社会人 7 名、職員 1 名

内容：美術館を活用した授業企画について、絵画を使った対話的授業の試み

(8) 全学共通教育・総合科学FDフォーラム (総合科学部と共催)

日時：平成 23 (2011) 年 8 月 4 日

場所：総合科学部 3 号館スタジオ

内容：FD 活動への学生参画について、授業評価アンケート学生ボランティア、学生ワーキンググループ、しゃべり場企画チーム、Ways!の活動報告

(9) International Student Conference 2012

日時：平成 24 (2012) 年 8 月 9 日~11 日 (3 日間)

場所：全学共通教育 5 号館 302 教室

内容：全学共通教育において国際的な視野を持った人材育成のための教育を実施することを目指し、留学生が日本人学生と積極的に議論する場を設けることで、今後の共通教育の方向性について考える機会とした。

(10) 物理学とその関連分野の教育に関する情報交換会 F D

全学共通教育センター「学びのコミュニティ部会」を世話人として、FD 関係の皆様の協力を得て、物理学を中心とする教育内容に関する 15 回シリーズの情報交換会です。

<目的>

- 教員がお互いに授業の内容を把握する
- 「学習者の視点からみたときにミスマッチはないか？」を洗い出す
これを通じ、次の両極的な命題を検討します。
- (A) 徳島大学における物理教育は広範にわたるすべての分野を網羅的に教えるべきなのか？
- (B) 徳島大学における物理教育は学科ごとの専門性を 1 年生の段階から強く認識し、現実的な制約のなかで専門教育に直結しない分野はそぎ落とした教育をすべきなのか？

<日時>平成 25 (2013) 年 12 月以降の原則として毎月第 3 木曜日 9-10 講時

各回の基本スタイルは、毎回の話題を設定し、話題提供者から日頃感じていること、考えていること、他の教員に伝えておきたいことを冒頭に 10 分程度でお話しいたします。その後、参加者全員での議論と情報交換に移ります。このため、みなさまが授業で使われている教科書や教材等をお持ちいただければ幸いです。

(平成 25 年度実施分)

2013 年 12 月 17 日 第 1 回：「物理 FD の目標」、於：全学共通教育センター、参加者 6 名

2014 年 3 月 20 日 第 2 回：「ベクトルと物理学」、於：総合科学部、参加者 9 名

「大学入門講座・オリエンテーション反省会」報告とFDの今後の課題

全学共通教育センター FD 教育方法部会長 佐藤 高則

全学共通教育では、新入生が大学での学びにいち早く順応できるように、大学入門講座(必修1単位)を各学部学科主導で実施している。一方、2008(平成20)年当時、ゆとり世代の大学入学時での未履修科目や大学での初年次教育内容との乖離に対応するため、全学共通教育センターでは、「高校履修内容の復習テスト(数学・物理・化学・生物)」および「日本語力テスト」についても入学時に実施した。この一連の大学入学時における取組みは、新入生の大学での学びに関する問題点の洗い出しと、円滑な高大接続・初年次教育に繋げることを目的としている。ここでは、平成20～25年度に実施した「大学入門講座・オリエンテーション反省会」FDについて報告する。

(1) 平成20年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

- 1 日時: 平成20(2008)年7月25日(金) 13:30～16:30
- 2 場所: 授業研究インテリジェントラボ(大学開放実践センター3階)
- 3 日程:

13:30～13:35 あいさつ 佐野勝徳センター長

(1) 各学部学科からの報告

13:35～13:55 歯学部 吉本勝彦先生

13:55～14:15 薬学部 佐野茂樹先生

(2) 「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

14:15～14:35 井戸慶治先生

(3) 「高等学校での履修についてのアンケート」、「高校数学の復習テスト」及び「高校物理の復習テスト」結果について

14:35～15:05 斎藤隆仁先生

(4) 「日本語力テスト」結果について

15:15～15:35 岸江信介先生、堤和博先生

(5) 15:35～16:20 全体討論(司会:佐野センター長)

(6) 16:20～ 全体をとおして 川上博副学長

(1)では、歯学部および薬学部より大学入門講座の実施報告がなされた。歯学部では、高大接続科目(物理学)の積極的な受講などが次年度の課題として挙げられた。薬学部では、新入生ワークショップのアンケート報告や薬学教育における初年次教育の重要性について報告があった。(2)では、上級生や新入生相互の交流・協力を促進することや、重要なことや手引きにないことに説明を限定し、他は履修の手引きなどを読むことを積極的に勧めること、理解が不十分な学生や質問者にはきめ細かく対応することなどが大学入門講座で必要であることが述べられた。(3)では、新入生の理科(物理Ⅱ・化学Ⅱ・生物Ⅱ)の不足意識は、2007年度に比べてすべて上昇していることが述べられた。また、高校数学・物理の復習テストの結果と分析について、各学部学科の特徴などが報告された。

2. 平成21年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

1 日時：平成21(2009)年7月24日(金) 13:30～16:30

2 場所：共通教育6号館201講義室(大学開放実践センター2階)

3 日程

13:30～13:35 あいさつ 荒木秀夫センター長

(1) 各学部学科からの報告

13:35～13:50 工学部 成行義文先生、森篤史先生

13:50～14:05 総合科学部 桑原恵先生

14:05～14:20 医学部 酒井徹先生

(2) 「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

14:20～14:40 井戸慶治先生

(3) 「高等学校での履修についてのアンケート」及び「高校数学の復習テスト」結果について 14:40～15:00 田中智行先生

(4) 「高校物理の復習テスト」及び「入学前学習」結果について

15:00～15:15 斎藤隆仁先生

(5) 「高校化学の復習テスト」結果について 15:25～15:40 菊池淳先生

(6) 「日本語力テスト」結果について

15:40～16:00 岸江信介先生、仙波光明先生、堤和博先生

(7) 16:00～16:20 全体討論(司会：荒木センター長)

(8) 16:20～ 全体をとおして 川上博副学長

(1)では、工学部、総合科学部、医学部より大学入門講座の実施報告がなされた。工学部では、①大学での学び方を理解する。②大学で何を学ぶのか理解する。③コミュニケーション(対話、読書、発表)の重要性を理解することなどについて報告された。総合科学部では、カリキュラムについての説明や個別の指導時間を十分にとるなどの点が課題として挙げられた。医学部では、共通教育・基礎医学段階では科学的な好奇心・探究心、不思議と思うことを見つけることの重要性などが述べられた。(2)では、大学入門講座の理解度が全体的に連続して改善されている点や、履修方法や履修登録の指導などは現在の水準を維持し、それ以外ではより効率的にできるところがあるのではないかとの指摘がなされた。(3)では、理科(物理Ⅱ・化学Ⅱ・生物Ⅱ)は履修率にかかわらず、学生に不足意識が強いことが述べられた。また、高校数学の復習テストでは、正答率に経年的な変動が見られず、今後の実施を検討する時期に来ていると提言があった。(4)では、入学前学習(物理・生物)について、e-ラーニングおよびDVD教材による実施報告がなされた。(6)では、正答率の平均は全体で73.6%だったが、7割に達しない学科も5学科に及んだことが報告され、1.日本語力テストの継続的実施、2.教養教育における『日本語表現』(仮称)の導入、3.全新生による『日本語検定』の受検などの対策が必要であるとの提言がなされた。*

*参考文献:

小野 博ほか (2005)「日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育」NIME 研究報告、独立行政法人 メディア教育開発センター<http://www.nime.ac.jp/journal/05-6.pdf>

岸江信介・仙波光明・堤和博・清水勇吉 (2009)「日本語運用能力の向上をめざしてー日本語力テストの実施ー」『大学教育研究ジャーナル』第6号 徳島大学

3. 平成22年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

1 日時：平成22(2010)年7月22日(木) 13:30~16:30

2 場所：共通教育4号館203講義室

3 日程：

13:30~13:35 あいさつ 荒木秀夫センター長

(1) 各学部学科からの報告

13:35~13:50 歯学部 吉本勝彦先生

13:50~14:05 薬学部 水口博之先生

(2) 「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

14:05~14:25 井戸慶治先生

(3) 「高等学校での履修についてのアンケート」結果について

14:25~14:40 田中智行先生

(4) 「高校物理の復習テスト」及び「入学前学習」結果について

14:40~14:55 齊藤隆仁先生

(5) 「高校化学の復習テスト」結果について

15:05~15:20 菊池淳先生

(6) 「高校生物の復習テスト」結果について

15:20~15:35 渡部稔先生

(7) 「日本語力テスト」結果について

15:35~15:55 岸江信介先生、仙波光明先生、堤和博先生

(8) 15:55~16:15 全体討論(司会：荒木センター長)

(9) 16:15~ 全体をとおして和田真副学長

(1)では、歯学部、薬学部より大学入門講座の実施報告がなされた。(2)では、大学入門講座に対して肯定的な意見が多く寄せられたことや、短期間でハードであるという意見が減少しているとの指摘がなされた。(3)では、前年度までと同様に、理科(物理Ⅱ・化学Ⅱ・生物Ⅱ)は履修率にかかわらず、不足意識が強いことが述べられた。(4)では、物理の復習テストの結果と分析、センター試験を課さない推薦入学者に対する入学前学習(物理・生物)について、e-ラーニングおよびDVD教材による実施報告がなされた。(6)では、高校生物の復習テストについての結果と分析について報告があり、学部学科ごとの特徴が明らかとなった。(7)では日本語力テストの結果と分析について報告があり、大学全入時代を踏まえ「全学的に日本語力の向上を図る手立てを早急に打つ必要がある、具体的なプランを立てなければならない」との提言がなされた*。

*参考文献

- 小野 博ほか (2005) 「日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育」NIME 研究報告、独立行政法人 メディア教育開発センター、<http://www.nime.ac.jp/journal/05-6.pdf>
石川昌紀ほか (2007) 『平成 19 年度版 日本語検定 公式 3 級過去・模擬問題集』、東京書籍
日本語検定委員会 (2009) 『日本語検定公式 3 級過去問題集 平成 21 年度版』東京書籍

4. 平成 23 年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

1 日時：平成 23(2011)年 7 月 22 日 (金) 13:30~16:30

2 場所：共通教育 4 号館 205 講義室

3 日程

13:30~13:35 あいさつ 荒木秀夫センター長

(1) 「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

13:35~13:55 井戸慶治先生

(2) 各学部学科からの報告

13:55~14:10 工学部 森賀俊広先生

14:10~14:25 総合科学部 高橋晋一先生

14:25~14:40 医学部 三笠洋明先生

(3) 「入学前学習」結果について 14:40~14:55 宮崎隆義先生

(4) 「高校物理の復習テスト」結果について 14:55~15:10 齊藤隆仁先生

(5) 「高校化学の復習テスト」結果について 15:20~15:35 三好徳和先生

(6) 「高校生物の復習テスト」結果について 15:35~15:50 渡部稔先生

(7) 「日本語力テスト」結果について 15:50~16:10 岸江信介先生

(8) 16:10~16:20 全体討論 (司会：荒木センター長)

(9) 16:20~ 全体をとおして 和田真副学長

(1)では、説明がわかりやすい、先輩の話や対応に対して高い評価など全体的に肯定的な意見が多く寄せられたことなどが述べられた。(2)では、工学部、総合科学部、医学部よりそれぞれ大学入門講座の実施報告がなされた。(3)では、①適度なレベルの課題を課すことで、学習習慣の継続と、学習意欲の保持が確認された。②中間締め切り、最終締め切りを早めて、未提出者に葉書を送ることが効果的である。③E-ラーニングによる実施で手間は軽減されるが、参考書等並びにフォローが必要である。などの報告があった。(4)では、物理の復習テストでの各学部学科の特徴を把握した上で、各学科ごとの復習テスト実施の有無、自然科学入門への履修指導、eラーニング教材の紹介が望まれるなどの提言があった。(5)では、SI 単位系や基本法則の知識の欠如などが明らかとなり、大学教育において今の学生をよく知る必要があることや、教養(常識と良識)と基礎教育が重要であるなどの提言がなされた。(6)では、高校生物の復習テストの昨年度との比較分析より、生物未履修の学生への対策として、自然科学入門(生物)の履修指導や、基礎生物学での対応が必要との提言があった。(7)では今年度の日本語力テストの正答率が 7 割以下になったことから、全学的に日本語力の向上を図る手立てを早急に打つ必要があり、具体的なプランを立てなければならないとの提言がなされた*。

*参考文献

- 小野 博ほか (2005)「日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育」NIME 研究報告、独立行政法人 メディア教育開発センター、<http://www.nime.ac.jp/journal/05-6.pdf>
石川昌紀ほか (2007)『平成 19 年度版 日本語検定 公式 3 級過去・模擬問題集』、東京書籍

5. 平成 24 年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

- 1 日時：平成 24 (2012) 年 9 月 20 日 (木) 14:30~17:05
- 2 場所：共通教育 4 号館 202 講義室
- 3 日程：

14:30~14:35 あいさつ 荒木秀夫センター長

- (1)「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

14:35~14:55 井戸慶治先生

- (2) 各学部学科からの報告

14:55~15:10 歯学部 吉本勝彦先生

15:10~15:25 薬学部 水口博之先生

- (3)「入学前学習」結果について

15:25~15:40 宮崎隆義先生

- (4)「高校物理の復習テスト」結果について

15:40~15:55 古屋玲先生

- (5)「高校化学の復習テスト」結果について

16:05~16:20 三好徳和先生

- (6)「高校生物の復習テスト」結果について

16:20~16:35 渡部稔先生

- (7) 16:35~16:55 全体討論 (司会：荒木センター長)

- (8) 16:55~ 全体をとおして 高石喜久副学長

(1)では、本年度より設問数を減らし回答時間を確保するなど、データの信ぴょう性を高めるための方策がなされた点や、実施内容に対し全体的に肯定的な意見が多く寄せられたことなどが述べられた。(2)では、歯学部、工学部よりそれぞれ大学入門講座の実施報告がなされた。歯学部では「感性の磨き方」についてのグループワークの報告があった。(4)では、自然科学入門との接続において、学科ごとに対応を事前に決めておくのが良いとの提言があった。(5)、(6)では、高校化学・生物の復習テストの分析より、自然科学入門の履修指導などの対応が必要との提言があった。なお、平成 24 年度より日本語力テストは実施していない。

6. 平成 25 年度「大学入門講座・オリエンテーション」反省会

- 1 日時：平成 25 (2013) 年 9 月 27 日 (金) 9:00~12:00
- 2 場所：共通教育 6 号館 201 講義室
- 3 日程：

9:00~ 9:05 あいさつ 荒木秀夫センター長

- (1)「大学入門講座・オリエンテーションに関するアンケート」結果について

- 9:05～ 9:25 井戸慶治先生
- (2) 各学部学科からの報告
- 9:25～ 9:40 工学部 武藤裕則先生
- 9:40～ 9:55 総合科学部 村上公一先生
- 9:55～10:10 医学部 三笠洋明先生
- (3) 「入学前学習」結果について
- 10:10～10:25 宮崎隆義先生
- (4) 「高校物理の復習テスト」結果について
- 10:25～10:40 齊藤隆仁先生
- (5) 「高校化学の復習テスト」結果について
- 10:50～11:05 三好徳和先生
- (6) 「高校生物の復習テスト」結果について
- 11:05～11:20 渡部稔先生
- (7) 「読書レポート」結果について
- 11:20～11:40 齊藤隆仁先生
- (8) 11:40～11:55 全体討論 (司会：荒木センター長)
- (9) 11:55～ 全体をとおして 荒木センター長

(2)では、工学部、総合科学部、医学部よりそれぞれ大学入門講座の実施報告がなされた。(3)では、①入学前の不安がうかがわれると同時に、学力の低下が危惧される。②英語に対する要望が昨年同様であったなどのアンケート意見が報告された。(4)では、これまでの物理の復習テストの結果・分析から、「勉強もしくは教え込む」から「学修」へ(内発的動機)学生の意識を変化させることが必要との提言があった。(5)では、復習テストの結果・分析に関する報告に加え、新学習指導要領の内容や入試・入学者への影響・懸念が示され、基礎科目群における早急な対応が必要であるとの提言がなされた。(6)では、過去4年の復習テストの分析より、生物未履修者の点数が履修者に比べ低く、自然科学入門(生物)や基礎生物学での対応が必要との提言があった。(7)ではこれまでの日本語力テストの分析や教員へのインタビュー調査から明らかになった「文章力の低さ」に対し、学生の文章力向上のための第一歩として、本年度より大学入門講座で実施した読書レポートについて報告があった。

7. 大学入門講座「読書レポート」に関するFD

日時：平成25年11月20日(水)16:30～18:00

場所：常三島キャンパス共通教育4号館202講義室

- | | |
|--------------------------------|-------------|
| 日程：1. 挨拶 (荒木全学共通教育センター長) | 16:30～16:35 |
| 2. 2013年度「読書レポート」報告(古屋玲先生) | 16:35～16:55 |
| 3. 2014年度「読書レポート」提案(齊藤隆仁先生) | 16:55～17:20 |
| 4. 2014年度実施にあたっての議論(司会：井戸慶治先生) | 17:20～17:55 |
| 議論1：読書レポートの目標 | |
| 議論2：実施にあたっての体制 | |

5. まとめ (吉本副センター長)

17:55～18:00

今年度より大学入門講座において実施した読書レポートを総括し、来年度の実施へ向けた方策を議論するFDを行った。

8. 全学共通教育センターにおける今後のFDの課題

以上に述べたように、全学共通教育センターでは平成20～25年度に数多くのFDを実施してきた。これらの活動から見えてきた全学共通教育センターにおけるFDの課題について述べる。

大学教育では高校までの受動的な学びから、大学での能動的な学びへの転換が必要となる。この点で、特に初年次教育を担う全学共通教育では、学生を能動的な学びへと誘導する方策が必要となる。そのためには、①学生企画・参加型のFD、②アクティブ・ラーニングなどの能動的な学びに関するFD、③高大連携・高大接続・基礎基盤科目の学習者の視点から見たFDなど、教育者(教員)側からの視点のみならず、より学習者の視点に立った問題点の洗い出しとFDの実施が必要である。一方これまでのFD活動では、教員の能力開発・改善に主眼が置かれている講演会型(教員主導型)FDが主流であり、参加者が一部の教職員に限られている、FDが浸透しないなどの問題点があった。今後は、教育者と学習者の乖離を減らすために、ワークショップ・ラウンドテーブル・ワールドカフェなどの手法を用いた教職員・学生参加型FD(双方向型FD)を行なっていくことでより有効なFD活動が実施できると考えられ、さらにFDの実質化と教育へのフィードバックを進めていくことが今後の課題であろう。

医療教育開発センターFD実施状況と今後の課題

医療教育開発センター センター長 赤池雅史
副センター長 岩田 貴

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 (HBS) 医療教育開発センターでは、患者本位の全人的医療が実践できる医療人、あるいは国際水準の生命科学研究者の育成を目指して、医療系各学部、各教育部ならびに大学病院それぞれの専門性を生かしつつ、これらの組織の枠組みを超えた卒前・卒後教育の連携・協力を支援している。

FD については、「シミュレーション教育」、「医療コミュニケーション教育」、「医療専門職種間連携教育 (IPE)」をキーワードにその企画・実施を行ってきた。

今回、平成 20 年から 25 年に主催した FD の内容と総括として平成 19 年に徳島大学蔵本キャンパスで開催した「岐阜大学医学教育開発センター・徳島大学共催 第 26 回医学教育セミナーとワークショップ in 徳島」について報告するとともに、それぞれの取り組みの今後の課題を報告する。

1 シミュレーション教育

近年、社会問題化している多発する医療過誤・事故に対して、医療教育の面から行うべき対策は、医療の標準化・安全確保・良質な医療者養成であり、その方法の一つとして、「シミュレーション教育」が注目されている。

シミュレーション医療教育は知識、技能、遂行の 3 つのコンセプトからなり、知識 (知っている) は業務タスクについて理解していること、技能 (できる) は業務タスク遂行に必要な個々のスキルについて実行しようとするば可能な程度まで訓練すること、そして遂行 (実際にできる) は業務タスクを実施できる、安心して任せられるレベルまで訓練する、いわゆる職能訓練のことで、「知識」を「事前学習」、「遂行」を「On-the-job training」に置き換えると、「技能」は「Off-the-job training」となり、シミュレーション教育はこの Off-the-job training にあたる。

医療教育開発センターでは 2004 年秋に延 4,000 万円弱の補助予算で購入したシミュレータなどの備品を陳列したラボをオープンし、教員への説明会を行ってきたが、利用率は非常に低く、「物」と「箱もの」だけでは機能しないことを痛感した。幅広く活用される複数のスキルラボを視察し、「人」=専従担当者の存在が必須であることを認識し、2007 年からインストラクターを雇用したいきさつがある。

さらに、シミュレータなどで技能を訓練しても、臨床現場を意識したいわゆる「真剣勝負」のトレーニングは困難で、シミュレーション教育の実践にはコンテンツ、様々なテクノロジーの応用、ファシリテーション能力、領域横断的なコラボレーションなどが必要である。

そこでシミュレーション先進校である東京医科大学から阿部幸恵先生 (現東京医科大学

病院シミュレーションセンター長、教授)、慶應義塾大学から安井清孝先生(現福島医科大学医療人育成・支援センター助手)を講師にお招きして年1回シミュレーション教育の理論と実践の基本やコツをWS形式で開催した。

1. 「徳島大学 新スキルス・ラボ開設記念 FD Simulation 医療教育講演会」

日時・場所：平成21年10月23、24、25日、医学部第3、4会議室、スキルスラボ

参加人数：39名

テーマ：「シミュレーション医療教育の可能性、小さなシミュレーション教育 慶應義塾での工夫」

概要：10月23日は阿部幸恵先生が「医療におけるシミュレーション教育」という演題で「ヒトは必ずエラーをする」という前提で、安全な医療の提供には、エラーやミスを最小限にする教育や訓練が必要で、臨床での実践力を向上させるためには実践を意識した教育・体験型学習としてのシミュレーション教育の重要性を講演され、東京医科大学病院でのシミュレータを用いたクリニカル・シミュレーション・ラボでのタスクトレーニングとシナリオベースのトレーニングを紹介された。

10月24日はワークショップとして「小さなシミュレーション教育」をテーマに身近な素材でシミュレーションを企画し、ファシリテーターの基本を理解して学習者を支援することを行った。

10月25日は安井清孝先生が「慶応大学シミュレーションラボ流シミュレーション学習のコツ」として、BLSを題材に、ビデオフィードバックの方法とコツをワークショップ形式で実際にシナリオ作成とフィードバックを行い、学習した。



2. 「第2回 Simulation 医療教育 Workshop in 徳島」

日時・場所：平成22年11月6日9:00~15:00、医学部第3、4会議室、スキルスラボ

参加人数：26名

テーマ：「実践シミュレーション道場～シナリオ作りとフィードバックのコツ～」

概要：安井清孝先生がシミュレーション教育の基本概念とシナリオづくりのコツ、演習のための環境づくり（場づくり）に関して BLS を例に講演され、その後小グループに分かれてグループワークを行った。

4 グループに分かれてテーマを決定し、シナリオ作成から実演、フィードバックを行いました。フィードバック時には1名がファシリテーターとなり、フィードバックの方法や留意点について皆で意見交換した。

テーマ1：「安全な静脈注射」

テーマ2：「入院慣れした患者の採血トラブル」

テーマ3：「急変時の対応」

テーマ4：「徳島マラソンの応援中に意識不明で倒れた人への対応」

安井清孝先生のご指導に基づき、「ビデオフィードバック」を実施した。ビデオを用いた振り返りは、演じたポイントをグループメンバーで共有するのに大変有効で、具体的に考えやすくなり、学習者のとるべき行動について、議論が活性化された。また、①こまめにメモをとるよう提案や、②議論前に1～2分、気づいたことを自分のメモとして書かせる時間を設けることは、その後の議論を活発にするために有効であった。シナリオ作成、演技、フィードバックまでを各班で行い、安井先生がコメントを加えた。



3. 「第3回 Simulation 医療教育 Workshop in 徳島」

日時・場所：平成23年11月12日9:00～13:30、医学部第3、4会議室、スキルスラボ

参加人数：45名

テーマ：「実践シミュレーション道場～シナリオ作りの奥義」

概要：BLSを基本としたシミュレーション教育の中で、シナリオのバリエーションを膨ら

ませる方法やコツ、このシナリオに基づいた演技に対する効果的なフィードバックの方法を講演の後に WS 形式でおこなった。



4. 「第4回 Simulation 医療教育 Workshop in 徳島」

日時・場所：平成24年10月20日9:00～15:30、医学部第3、4会議室、スキルスラボ

参加人数：26名

テーマ：「みんなで考えよう災害医療シミュレーション」

概要：福島県立医科大学災害医療総合学習センターに異動された安井清孝先生はこのたびの東日本大震災後の福島県の実情を見てこられたとともに、医療人としてのサポートはもちろんのこと、一般ボランティアとしても異動前からサポートされていた経緯があって、今回は福島の実情と、災害医療におけるシミュレーション教育について講演いただき、WSでは災害医療におけるトリアージについて、シナリオ作成と、トリアージシミュレーションを行った。演習を行って得られたポイントを記載する。

① 災害現場の設定

- ✓ シミュレータは5体くらいの使用がスムーズ。
- ✓ 出血はホワイトボードマーカーを使用すると、アルコール綿で消すことができるので便利。
- ✓ マネキンよりは人間の方がよりリアリティが増す。(脈はコントロールできないが呼吸、メイク等で対応できる。)
- ✓ 人が入れそうな隙間に一人隠しておく、見落としがないように確認する学習をよりリアルに印象付けることができる。→「見つけられなかった人はいませんか？」

② 学習環境を整える

- ✓ 映像機器を用いて離れた部屋で見学すると、学習者に与える緊張感を軽減することができる。またビデオフィードバックを用いて振り返ると、より具体的に学習が可能。(必ず事前に映像承諾書を取り、映像を用いて学習することを学習者に伝える。)
- ✓ グループごとに話しあうことができる部屋を準備する。
- ✓ 学習のやり取りはとても大切で、ピンマイクを活用する。
- ✓ マイクの作動状況、ビデオの画面等は必ず事前にリハーサルすることが肝要。(十分確認していても、マイクが本番にうまく作動しなかったり、録画している場面に大事な部分が写っていなかったりするとはよくある。)

③ 指導者 (=案内役) のシナリオが大変重要です。

- ✓ 『どのようなことを学習してほしいか』『どのような知識を確認してほしいか』をあらかじめ設定し、それを学習者にしっかり伝えましょう。今回の学習で、どこまで学ぶことができればよしとするかも大切です。盛りだくさんにしすぎるとかえってポイントが薄れてしまいかねません。
 - *学習として どのような流れを作るか。
 - *学習者の状況からどのように展開させて行くか。
- ✓ 必要であれば提示できるような資料等を用意しておくといいいでしょう。
- ✓ 学習がどのような流れになるか、学習者がどこで悩むかは様々ですので、いくつかの状況を予測しておくことも必要です。

④ 学習者とのルールを作る

《例》

- ✓ 脈はメトロノームの音にする。
- ✓ マイクから聞こえてくるのが傷病者の声である。・・・など。

⑤ ディブリーフィング

- ✓ 学習者が行動しながら不安に思っていたことをクリアにする。
- ✓ 「どうして〇色にしたのですか？」
- ✓ 「えーと、えーと・・・」この過程が勉強になる。
- ✓ 学習者の行動や考えを振り返るために、映像や音声が必要な学習材料になる。しかし、自分の言動や行動を題材に、あれこれ言われるのは多少なりとも抵抗感が伴う。くれぐれもうまくできなかった学習者の気持ちを大切にを進めることを忘れないことが重要。
 - ・学習者をねぎらうことが必要。
 - ・まず、学習者に振り返りの場を与える。「こう考えて悩んでこうした」とか、「こうしなければと思っていたができなかった」等)
 - ・そして、参加者全員で振り返りながら考えることが重要。

⑥ 振り返り

- ✓ 最後に皆で、学習を通しての気づきを共有する。皆同じだと安心したり、思いもよらぬことを考えている人がいたり・・・この学習に参加してそれぞれが良かったと思え、前進しようと思えるようなワークショップを目指す。

<グループワーク>

テーマ：『二次トリアージ』

場面：徳島で大きな地震が起きました。徳島大学は被害が少なかったため、災害現場でトリアージされた人が運ばれてきました。

黄色エリアに運ばれた人達の状況を確認し、再度トリアージを行う。

目標：しっかり観察する。

変化のある患者さんをピックアップして、対応する。

役割：指導者 1 名

学習者 2 名 (1 名：聞き取り、1 名：トリアージタグへの記入係)

残りグループ員：患者

次のグループ員：指示により、搬送等を行う。



5. 「第 5 回 Simulation 医療教育 Workshop in 徳島」

日時・場所：平成 26 年 3 月 21 日 10:00～11:30、医学部第 3、4 会議室、スキルスラボ

参加人数：9 名

テーマ：「効果的なビデオフィードバックの方法と実際」

概要：これまでの 4 回の WS は国内の外部講師をお招きして行ってきたが、今回は、当センターの岩田副センター長が講師を務め、「効果的なビデオフィードバックの方法と実際」のテーマで医歯薬 ACLS サークルの協力で、「病棟急変時の対応」におけるシナリオに基づいて演習をおこなった。この演習の様子を実際にビデオ撮影して、参加者を含めた全員で、ビデオを見ながらフィードバックを行うビデオフィードバックを行い、フィードバックのポイントや状況設定、シナリオ作成のコツを参加者で検討した。



シミュレーション教育の今後の課題

シミュレーション教育におけるシナリオ作成、状況設定、ビデオフィードバックなど一連の手法はこれまでの4回のFDで教員に浸透しつつある。今後は5回目で行ったように新しいシナリオで演習を行い、臨床現場で起こりうるヒヤリハット事例やインシデント事例に基づいたシナリオでシミュレーションを行う必要があると考えられた。

2 医療コミュニケーション教育

医療分野での具体的なコミュニケーションの機会には、1) 医療従事者・医療消費者間のコミュニケーション、2) 医療従事者間のコミュニケーション、3) 医療消費者間のコミュニケーションが主としてあり、コミュニケーションは重要なツールとして認識されている。たとえば医療消費者からの疾患情報を問診や、得られた情報を医療従事者に分かりやすく正確に伝えられることは医療人として必要不可欠な技能で、コミュニケーションによる情報伝達が正確に行われてはじめて健康行動や医療行動の変容につながる。このために分かりやすく正確に伝えるということが非常に重要である。

更に近年では効果的な情報の『伝え方』としてのコミュニケーションだけでなく、関係者がお互いに伝え、受け取る、双方向のコミュニケーションの必要性も認識されつつある。

医療機関では患者との良好なコミュニケーションが患者満足度の向上、紛争の予防・解決に結びつくという認識が広まっている。また職員のやる気・能力を高め、組織内の紛争を防ぐためにもコミュニケーションが果たす役割は重要である。

医療教育開発センターでは「How to 医療コミュニケーション」として平成23年から岐阜大学医学教育開発研究センターの藤崎和彦教授をお招きして、各学部教員ならびに一般市民からのボランティアで構成されている模擬患者対象にFDを開催した。

1. 「How to 医療コミュニケーション」

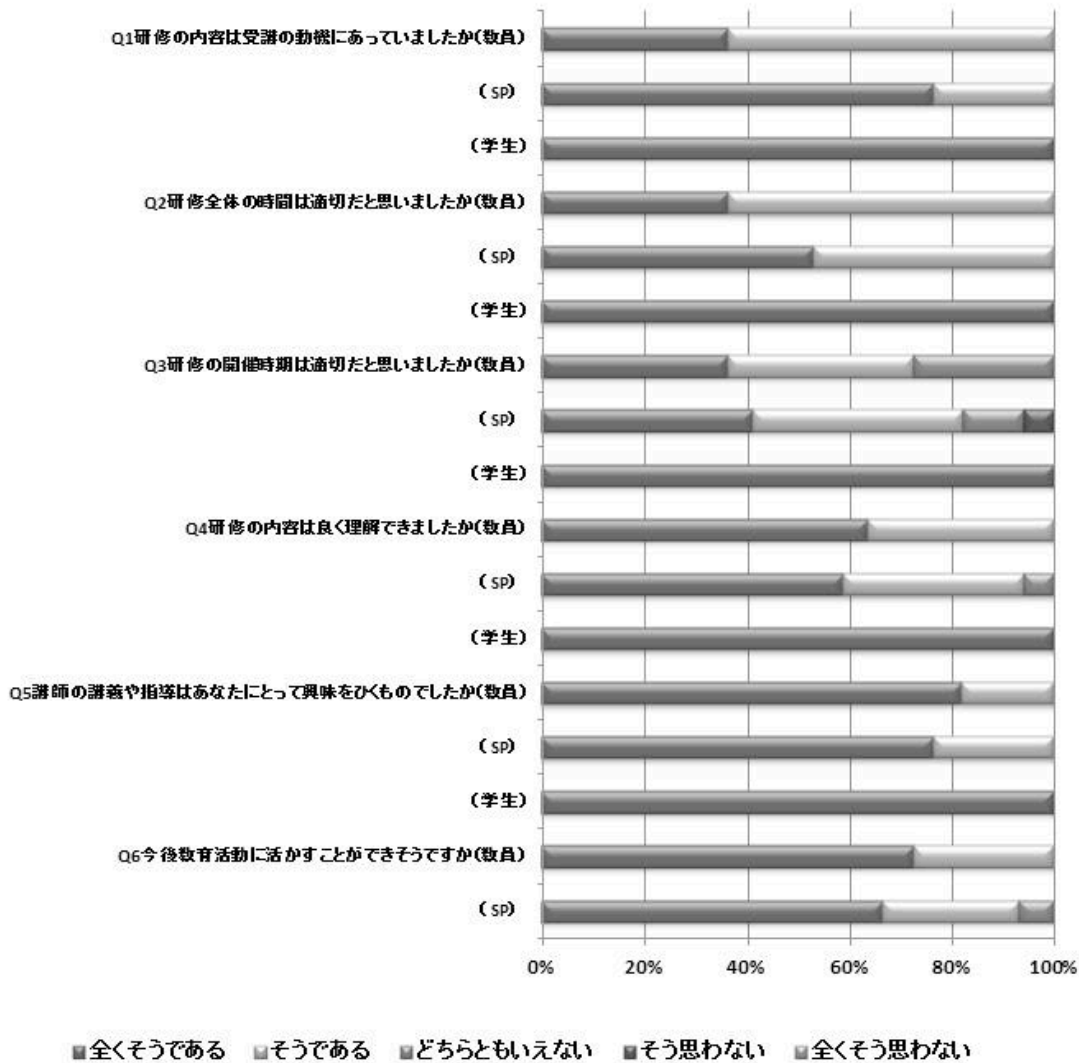
日時・場所：平成23年12月3日 9:00～12:00、医学部第3、4会議室

参加人数：37名

テーマ：「教員の役割、模擬患者の役割」

概要：各学部の学生実習、OSCEで活躍している模擬患者の養成のノウハウや教員のかかわり方に加えて、模擬患者としてのどのように学生実習、とくにOSCEに臨むか、OSCEにおける演技のコツ、「模擬患者としての立ち位置」を認識することの重要性を講演していただき、実際に模擬患者と学生有志に医療面接を再現してもらい、その時の教員のフィー

ドバック、ファシリテートの仕方、模擬患者には演技を通して患者はどのような気持ちか、「模擬患者としての立ち位置」を認識する WS を行った。WS 後に参加者にアンケート調査を行った。



2. 「第 2 回 How to 医療コミュニケーション」

日時・場所：平成 24 年 12 月 1 日 (土) 9:00~12:00、医学部第 3、4 会議室

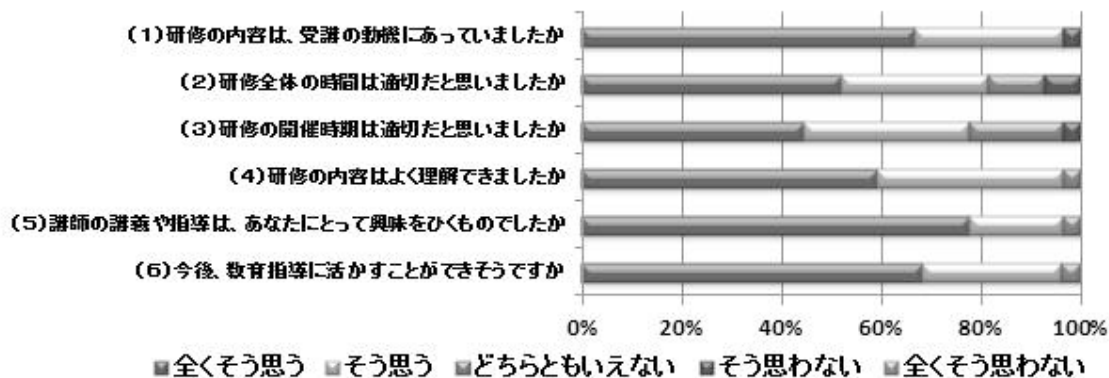
参加人数：27 名

テーマ：「医歯薬学における模擬患者参加型教育」

概要：平成 23 年に引き続いて模擬患者の養成のノウハウや教員のかかわり方に加えて、医学科、歯学科、薬学部でどのような模擬患者参加型教育が行われているかを各学部の教育担当者に発表していただき、実際に模擬患者と学生有志に医療面接の中でも病状説明と悪い知らせの場面のテーマを絞り再現してもらい、その時の教員のフィードバック、ファシリテートの仕方、模擬患者には演技を通して患者はどのような気持ちか、「模擬患者としての立ち位置」を認識する WS を行った。

演習 1. では糖尿病が疑われる患者に 75g OGTT を施行し、その結果説明の演習を行い、

ファシリテーションのコツや、模擬患者の患者役としての立ち位置を確認した。
 演習 2. では近医で風邪と診断された全身倦怠感を示す患者が精査に訪れ、血液検査の結果、白血病を示唆する結果を説明するシナリオで演習を行った。



3. 「第3回 How to 医療コミュニケーション」

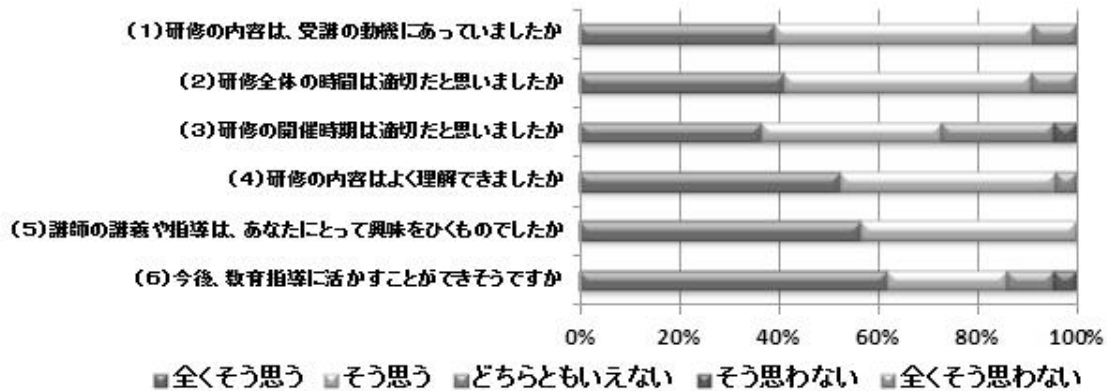
日時・場所：平成 25 年 11 月 16 日（土） 9:00~12:00、医学部第 3、4 会議室

参加人数：33 名

テーマ：「医歯薬学教育アウトカムに応じた模擬患者育成」

概要：今回は教員のファシリテーションに焦点を当て、効果的なファシリテーションのコツや、ポイントを中心に講演いただき、実際に模擬患者と学生有志に医療面接を再現してもらい、その時の教員のフィードバック、ファシリテートの仕方、模擬患者にはより実際の患者を意識した演技を全員で検討する WS を行った。演習として、1. 「服薬説明」を簡単なシナリオに基づいて薬学部大学院生ボランティアが患者役の SP に 10 分間で説明し、薬学部教員がフィードバック・ファシリテーションを行った。患者役の SP には説明役の学生とは別の患者立ち位置や患者が特に心配していることについて記載されたシナリオを

渡して演技をした。ついで演習 2. の「Bad News を伝える」では胃の検診を受けて上部消化管内視鏡検査の生検結果で悪性所見が出た結果を患者に説明するシナリオで、医学科学生が説明者で SP に説明を行う演習を行い、医学部教員がファシリテーションを行った。いずれの演習も、シナリオの作りこみ、学習者（説明者）の説明のポイント、SP の患者としての演技のポイント、ファシリテーターのフィードバックのポイントなど多岐にわたる示唆に富む意見が多く聞かれ、活発な議論がなされた。



医療コミュニケーション教育の今後の課題

医療教育において SP が参加することは今や必要不可欠となり、これに伴って SP の養成・トレーニングは急務である。これまでの講演会は SP の模擬患者としての立ち位置、教員のファシリテーションのポイントに力点を置き、OSCE を意識した FD であった。第 3 回で初めて「説明系」のコミュニケーションに重点を置いた FD となった。今後はより臨床に必要なテーマとして、患者家族への説明、クレーム対応などを学部横断的に演習できるように SP の演技トレーニング、ファシリテーションのノウハウを構築する必要があると思われた。

3 医療専門職種間連携教育 (IPE)

我が国の医療は非常に厳しい状況に直面しており、医学の進歩、高齢化の進行等に加えて患者の社会的・心理的な観点及び生活への十分な配慮も求められており、医師や看護師等の許容量を超えた医療が求められる中、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提とし、目

のと情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応した医療を提供するチーム医療の推進は必須である。

そこで平成 20 年に、IPE 教育に先進的な大学から講師を招聘して IPE の考え方や実際の取り組みについて講演を行っていただいた。

厚生労働省では平成 21 年 8 月から「チーム医療の推進に関する検討会」を開催し、平成 22 年 3 月に報告書「チーム医療の推進について」を取りまとめた。さらに、報告書の内容を踏まえて「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（平成 22 年 4 月 30 日付け医政発第 0430 第 1 号厚生労働省医政局長通知）を発出し、医療スタッフが実施することができる業務の内容について整理されている。

チーム医療を推進する目的は、専門職種の積極的な活用、多職種間協働を図ること等により医療の質を高めるとともに、効率的な医療サービスを提供することにある。医療の質的な改善を図るためには、①コミュニケーション、②情報の共有化、③チームマネジメントの 3 つの視点が重要であり、効率的な医療サービスを提供するためには、情報の共有、業務の標準化が必要である。

チームアプローチを実践するためには、様々な業務について特定の職種に実施を限定するのではなく、関係する複数の職種が共有する業務も多く存在することを認識し、患者の状態や医療提供体制などに応じて臨機応変に対応することが重要で、これらのことを臨床現場でスムーズに実践できる教育を行うことがより重要となる。本学では蔵本地区 1 年生対象の IPE ワークショップを開催し、若い学年から IPE の必要性を啓発しているが、全国的にみると IPE 教育を実践している大学では卒業までの各学年でそれぞれ到達目標を設定して臨床における IPE に近づけるための教育、演習を実践している。

平成 26 年には複数の医療系学部学生が、ファシリテーター教員のもとで、患者シナリオを用いてプロブレムマッピング方式によりグループ討議と自己学習を行いながら、問題点の抽出とその診療・ケアプランを立案する「学部連携 PBL チュートリアル」をモデル授業として実施した。実施後に参加教員と学生が振り返りを行い、この教育方法の理解を深め、その実践力を修得した。

1. 「医療専門職種間連携教育推進講演会 I・II IPE 講演会」

日時・場所：医療専門職種間連携教育推進講演会 I

IPE 講演会 I：平成 20 年 11 月 27 日 17:30-19:30、医学部第一会議室

IPE 講演会 II：平成 20 年 11 月 27 日 19:30-20:30、共通講義棟 1 階

医療専門職種間連携教育推進講演会 II

IPE 講演会 平成 21 年 1 月 26 日 16:30-18:30、青藍講堂

参加人数：IPE 講演会 I：26 名

IPE 講演会 II：12 名

IPE 講演会 :67 名

講師：医療専門職種間連携教育推進講演会 I：

福島 統 教授（東京慈恵会医科大学 教育センター）

医療専門職種間連携教育推進講演会 II：

平井みどり 教授 (神戸大学医学部附属病院 薬剤部)

概要:

<医療専門職間連携教育推進講演会 I >

講演 I、II の 2 部構成とし、講演 I では「東京慈恵会医科大学の多職種連携教育 (IPE)」の演題で教職員・学生を対象に福島先生にご講演いただいた。

慈恵医大は各種 GP 獲得しているが、なかでも平成 17 年度特色 GP「多くの職種が参加する医療者教育」についての説明があった。医学科のカリキュラムに 1 年次から 5 年次まで各学年で福祉体験実習、重度心身障害・難病医療体験実習、在宅ケア実習、病院業務実習、医療の安全教育 WS を行い、他職種の教員から講義を受け、多職種学生と職場でフィールドワークを行い、事例を基に多職種学生が討論学習 (PBL) を行っている。そして、評価は職場での 360 度評価を行っている。また、病院内での多職種コミュニケーションの向上を目指した医療の安全教育 WS では毎月週 1 回 4 時間開催し、2004 年から 2008 年までに 4、500 名超の参加者があった。WS では青戸病院の医療事故を題材に「職場での問題点・疑問点」、「職場改善のためには」のグループワークを多職種グループで行い、各職場からの参加者から高い満足度を示すアンケート結果があったことを講演いただいた。

講演 II では「他職種連携教育 (IPE) を基盤とした教育改革プロジェクト」の演題で医学部等教務委員会関係者を対象に福島先生に講演いただいた。慈恵医大の IPE の目的は 1. 職場の中で学ぶ力の養成、2. 多職種連携の中で学習 (一人ではなく、複数の職種間連携で患者ケアを進歩させていく力の養成)、3. 異なった文化の中で過ごしていく力 (近づきやすさの養成) を挙げ、その評価方法として Mini PAT (Peer Assessment Tool) を用いている。



<医療専門職間連携教育推進講演会 II >

講演 I、II の 2 部構成とし、講演 I では「多職種横断的チーム医療」の演題で薬学部等教務委員会関係者、IPE 推進 WG 委員を対象に、講演 II では「IPW in 神戸大学～IPW 教育活動とチーム医療の例～」として本学教職員、学生を対象に平井先生に講演いただいた。神戸大学では多職種関連教育経費として平成 19 年度「女性医師・看護師の職場復帰に向けたネットプログラム・キャッチアッププログラムによる臨床研究教育の改革」、特色 GP「協働の和を創造する体系的 IPW 教育の展開」などを獲得しており、大学全体として KIPEC という保健学科と医学科の学生を対象とする新たな IPW カリキュラム開発のためのプロジェクトを展開していることが紹介された。活性化したチームを構成するために必要な要素やチームビルディングのコツ、コミュニケーションの基本など IPE に基本的な事例を説

明され、所属している薬剤部のチーム活動、地検管理センター、外来化学療法など従来の活動の他に、関連した栄養サポートチーム、院内感染制御チーム、緩和ケアチームの活動や手術室・ICU サテライトでの薬剤部のかかわりなどをチーム医療の必要性を講演され、「チーム形成力」、「リーダーシップ」、「企画・実行・評価」、「既成概念を外す」ことの重要性を示された。



2. 「第1回教員・学生共同FD 学部連携PBLチュートリアル トライアル」

日時・場所：1回目 平成26年3月25日（火）17:00-18:30

2回目 平成26年3月26日（水）17:00-18:30

医学部第3、4会議室

参加人数：医学科：3年：1名、4年：1名、歯学科：4年：4名、3年：2名、栄養学科：2年：2名、保健学科：2年：3名、教員：6名（歯学科：2名、医療教育開発センター：4名）

一般目標：チーム医療の実践に必要な知識・技能・態度について修得する。

到達目標：

1. 提示症例の情報をチームとして共有できる。
2. 提示症例について、医療や心理・社会的内容を含め様々な視点から問題点を抽出できる。
3. 患者の問題点についてプロブレムマッピング方式によりその関連性を示すことができる。
4. 問題解決のためにエビデンスの高い適切な情報を活用できる。
5. ファシリテーションやブレインストーミングの技法を用いながら、自分の意見をわかりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的で効果的なグループ討議ができる。
6. グループ討議における意見の対立（コンフリクト）に対して適切に対応できる。
7. グループ討議によって問題点の解決方法をチームとして立案することができる。
8. 医療チームにおける情報や方針の共有、多職種の協調・連携の必要性を説明できる。
9. 医療チームの討議により、診療・ケアプランを立案することの重要性を説明できる。

ファシリテーター：岩田 貴 医療教育開発センター副センター長

PBL の進行 : <1 日目> 患者さんの問題点をグループで把握し、優先順位を決める。

- ① シナリオの検討
- ② プロブレムマップと問題点リストの作成
- ③ 問題点リストの優先順位を決定
- ④ それぞれが担当する学習項目の検討

<2 日目> 患者さんの問題点リストを作成し、治療・ケアプランを立案する。

- ① それぞれが持ち帰った自己学習内容の共有
- ② プロブレムマップと問題点リストの修正
- ③ シナリオの再検討

<3 日目> 注：今回のトライアルでは実施しない

患者さんの問題点リストと診療・ケアプランの発表

概要：

<1 日目>

アイスブレイキング、症例提示、グループ検討・問題点の抽出、プロブレムマップの作成 (ホワイトボード、ポストイット、原稿) 次回への課題 (宿題)

シナリオ1

79歳代、男性。胃がんと近医で診断され、当院消化器外科に紹介、入院されました。既往歴に肺気腫があり、現在加療中です。術前検査では進行胃癌 (Stage II) と診断されましたが、全身状態を考慮して、腹腔鏡下幽門側胃切除術、D2リンパ節廓清、Roux-en-Y 再建を施行しました。

術後は良好に経過し、術後3日目には離床、4日目に飲水を開始しました。クリニカルパスに従って、経口摂取を術後7日目から開始し、術後14日目で、全粥をほぼ全量摂取しています。術後15日目で退院されました。術後21日目で、時々ものが使えなさ感じがすることがありますが、気にならないので、主治医には相談していません。外来の定期的血液検査 (含、腫瘍マーカー)、レントゲン検査 (腹部CTなど) では特に異常は指摘されていませんでした。

シナリオ3

規定に従い、抗がん剤の投与を中止し、経過を1週間観察していましたが、特に口腔内の疼痛に関しては、強い訴えなく、食事も問題なく摂取されていました。また、血液検査では依然、白血球数のみが2,500のままです。

ご本人は1か月たったら、外来で抗がん剤治療ができるかと聞かされていたので、得りたくて仕方ありません。

実は、孫の結婚式が2週間後に控えており、何としても、出席して、孫の婿様を見たい希望があります。

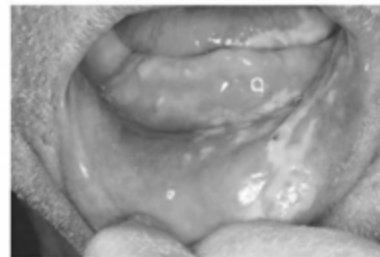
シナリオ2

今回、術後の病理組織学的診断はGastric cancer, L, post, 3, T3, N1, M0, P0, M0, stage IIIAでしたので、ご本人、ご家族と相談し、術後30日目で抗がん剤の治療を始めるために一時入院をすることとなりました。

抗癌剤: TS-150mg/回を1日2回 (朝食後と夕食後) 内服、28日間連続、その後14日間休薬とし、これを1クールとする療法から始めました。

抗癌剤投与3週間で食事の際に口腔内の疼痛を訴えるようになり (写真1)、血液検査でも白血球数のみが2,500となりました。

写真1



<2 日目> : 各人が調べてきたことの説明 (グループ内での情報共有、ppt 使用)、1 日目に作成したプロブレムマップのブラッシュアップ (ホワイトボード)



医療専門職種間連携教育の今後の課題：

今回のトライアルでは、学習者は IPE の必要性を認識している有志であったため、比較的 WS の作業はスムーズに進行された。学習者の学年、知識程度、学部横断的なシナリオを作り込むことが必要と考えられた。各学部にシナリオ編集委員会を設けてそれぞれの学部で関連するエピソードなどを盛り込む必要がある。さらに、今回は学習者がシナリオの疑問事項を宿題として調べて、後日その情報を全員で共有するというチュートリアル形式の手法をとったが、全ての学部チュートリアルを導入しているわけではないので、学習者のチュートリアルに対する理解の徹底は必要と考えられた。また、チュートリアルを進めるにあたって、シナリオの疑問点や、重要事項をホワイトボードに書く作業がプロブレム抽出の重要な作業であるが、今回のトライアル授業ではあまり活用されていなかったため、今後はホワイトボードの活用の仕方を事前説明する必要があると思われた。

3. 「岐阜大学医学教育開発センター・徳島大学共催 第26回医学教育セミナーとワークショップ in 徳島」

日時・場所：平成19年10月20～21日、徳島大学蔵本キャンパス

参加人数：151名

テーマ：

セミナー1 「鳥取大学におけるヒューマンコミュニケーション」

セミナー2 「英国スコットランドにおける General Practitioner の教育」

WS1：「仲間と共に気づき学ぶ「気づきの体験学習」にチャレンジ」：39名

WS2：「外来診療教育」

20日：WS2-1：「外来研修の環境をどう構築するか？」

21日：WS2-2：「外来研修における teaching and assessment」

WS3：「地方の大学病院／基幹病院にいか研修医を確保するか」

WS4：「卒後臨床研修に関する事務職員研修」

WS5：「模擬患者 (SP) 交流会」

概要：セミナー1の「鳥取大学におけるヒューマンコミュニケーション」は徳島大学現代GPとの共催で、講師は鳥取大学の高塚人志先生、河合康明先生が勤められ、130名が聴講した。セミナー2の「英国スコットランドにおけるGeneral Practitionerの教育」は70名が聴講し、Dr. Trevor John Gibbsが講師を勤めた。WS2の「外来診療教育」は名古屋大学総合診療部の川尻宏昭先生、西城卓也先生が担当され、米の山病院の菊川誠先生が勤めた。WS3「地方の大学病院／基幹病院にいかん研修医を確保するか」は愛媛大学の高田清式先生と徳島大の寺嶋吉保先生が担当し、中四国厚生局臨床研修専門官の市場洋三先生が講師を勤め、20名が参加した。WS4「卒後臨床研修に関する事務職員研修」は名古屋大学の植村和正先生が担当され、中四国厚生局臨床研修専門官の市場洋三先生が講師を勤め、24名が参加した。WS5「模擬患者 (SP) 交流会」は岐阜大学MEDCの藤崎和彦先生と阿部恵子先生、岡山大学歯学部吉田登志子先生、岡山SP研究会の前田純子さんが担当され、67名が参加した。



4 医療教育開発センターにおけるFDの取り組みの総括と今後の課題

医療教育開発センターは、平成16年にHBS研究部と同時に発足し、当時の医・歯・薬・栄養・保健の幅広い医療系総合キャンパスの利点を生かす教育の推進を目的として活動を行ってきた。平成19年に岐阜大学医学部医学教育開発研究センター (MEDC) との共催で「第26回医学教育セミナーとワークショップ in 徳島」を10月20～21日に開催した。このセミナー・ワークショップは年4回開催され、医療教育に関する様々なテーマで討論、ワークショップがなされるもので、全国から様々な医療人・事務担当職員・模擬患者が参加している。このセミナー・WSが当センターとして最初のFDとなる。詳細・概要は以下に示す。さらに平成19年には全学FD専門委員会から平成20年度部局FD事業として、蔵本地区の医歯薬の3学部と当センターに各30万円のFD予算の配分を受け、当センターとして最初のHBS教員対象のFD講演会を2回開催した。以降、“授業、講義では教える、教わることのなかった”かつ“実際の医療現場での問題点解決のための”テーマとして、「シミュレーション教育」、「医療コミュニケーション教育」、「医療専門職種間連携教育 (IPE)」の3本柱で国内の先駆的な施設から講師を招聘して定期的開催している。参加者からのアンケートでは、当初はなじみのないテーマであるため、積極的な参加に躊躇していたが、実際に参加してみると平素から臨床現場での疑問点が講演、WSによって解決されたり、解決のためのヒントを得ることができるため、大変有意義で有用であったという意見が大部分を示す結果となった。

今後はこれらの3本柱の強化を図るとともに、教育カリキュラムへの組み入れが可能か検討する必要がある。医学教育学会での発表や学会主催の講習会などを通じて、最新の情報、各施設での取り組みを学びことに努め、本学のFDに反映させ、充実したものにするよう努めたい。

徳島大学 F D 委員会規則

平成 2 5 年 3 月 1 9 日
規則第 6 7 号制定

(設置)

第 1 条 徳島大学に、徳島大学の教育理念及び教育目標の実現に向けて、教育の内容及び方法の改善を図るため、徳島大学 F D 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）についての企画及び実施に関する事項
- (2) 各学部及び大学院各教育部が実施する F D 活動の連携に関する事項
- (3) F D 活動に関し、他大学等との情報交換及び連携に関する事項
- (4) 委員会活動の成果報告に関する事項
- (5) その他 F D に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 総合教育センター教育改革推進部門長
- (2) 各学部の F D 委員会委員長
- (3) 総合教育センター教育改革推進部門から選出された教員 2 人
- (4) 全学共通教育センターから選出された教員 1 人
- (5) 情報センターから選出された教員 1 人
- (6) 学務部長
- (7) その他委員会が必要と認める者

2 前項第 3 号から第 5 号まで及び第 7 号の委員は、学長が命ずる。

(任期)

第 4 条 前条第 1 項第 3 号から第 5 号まで及び第 7 号の委員の任期は 2 年とし、再任されることが出来る。ただし、委員が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、第 3 条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員会に副委員長を置き、その選出は委員の互選とする。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことが出来ない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決する。

(代理出席)

第 7 条 第 3 条第 1 項第 2 号から第 6 号までの委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第 8 条 委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 9 条 委員会に、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会について必要な事項は、委員会が別に定める。

(庶務)

第 1 0 条 委員会の庶務は、学務部教育企画室において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 徳島大学 FD 専門委員会規則（平成 14 年規則第 1759 号）は、廃止する。

附 則

- 1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則施行後、総合教育センター教育改革推進部門及び情報センターから最初に選出される委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

徳島大学 FD のより詳しい内容をホームページで紹介しています。

FD が結ぶ徳島大学教育ネットワーク
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/>

徳島大学 FD の歴史 (Vol. 2)

平成 26(2014)年 12 月

発行者：徳島大学 FD 委員会

連絡先：〒770-8501 徳島市新蔵町 2 丁目 24 番地

徳島大学学務部教育企画室

TEL : 088-656-7686 E-mail : kykikakuk@tokushima-u.ac.jp

